

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガッコウホウジンカワハラガクエン 学校法人河原学園								
フリガナ大学の名称	ニンゲンカンキョウダイガク 人間環境大学 (University of Human Environments)								
大学本部の位置	愛知県岡崎市本宿町字上三本松6番2号								
大学の目的	本大学は、21世紀の人類社会に豊かな展望を開き得るような、人間の新しいあり方を探求するため、人間の根幹にかかわる分野である医療と環境を中心に、幅広い教養と他者に対する感謝の念を基盤とし、深い専門の学術を教授研究し、我が国及び国際社会に貢献する有為な人材を育成することを目指す。								
新設学部等の目的	新たに心理学部、環境科学部、総合心理学部を設置するため、収容定員に係る学則変更を行う。なお、同時に人間環境学部は学生募集を停止する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	人間環境学部 [Faculty of Human Environments]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	心理学科 [Department of Psychology]	4	0 (120)	-	0 (480)	学士 (人間環境学) 【Bachelor of Human Environments】	平成29年4月 第1年次	愛知県岡崎市本宿町字上三本松6-2	※令和4年4月学生募集停止予定
	環境科学科 [Department of Environmental Science]	4	0 (80)	-	0 (320)	学士 (人間環境学) 【Bachelor of Human Environments】	平成29年4月 第1年次	同上	※令和4年4月学生募集停止予定
	心理学部 [Faculty of Psychology]								
	心理学科 [Department of Psychology]	4	100 (0)	-	400 (0)	学士(心理学) 【Bachelor of Psychology】	令和4年4月 第1年次	同上	※令和3年4月設置届出予定
	犯罪心理学科 [Department of Criminal Psychology]	4	50 (0)	-	200 (0)	学士(心理学) 【Bachelor of Psychology】	令和4年4月 第1年次	同上	※令和3年4月設置届出予定
	環境科学部 [Faculty of Environmental Science]								
	フィールド生態学科 [Department of Field Ecology]	4	60 (0)	-	240 (0)	学士 (環境科学) 【Bachelor of Environmental Science】	令和4年4月 第1年次	同上	※令和3年4月設置届出予定
	環境データサイエンス学科 [Department of Environmental Data Science]	4	40 (0)	-	160 (0)	学士 (環境科学) 【Bachelor of Environmental Science】	令和4年4月 第1年次	同上	※令和3年4月設置届出予定
総合心理学部 [School of Psychological Sciences]									
総合心理学科 [Department of Psychological Sciences]	4	80 (0)	-	320 (0)	学士(心理学) 【Bachelor of Psychology】	令和4年4月 第1年次	愛媛県松山市道後樋又1192-3	※令和3年4月設置届出予定	

看護学部 [School of Nursing]	看護学科 [Department of Nursing]	4	95	-	380	学士(看護学) 【Bachelor of Nursing Science】	平成27年4月 第1年次	愛知県大府市江端町 3-220			
松山看護学部 [School of Nursing at Matsuyama]	看護学科 [Department of Nursing]	4	80	-	320	学士(看護学) 【Bachelor of Nursing Science】	平成29年4月 第1年次	愛媛県松山市花園町 3-6			
計			505 (375)	-	2,020 (1,500)						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	人間環境学部 (廃止) 心理学科 (△120) 環境科学科 (△80) ※令和4年4月学生募集停止 心理学部 心理学科 (100) (令和3年4月届出予定) 犯罪心理学科 (50) (令和3年4月届出予定) 環境科学部 フィールド生態学科 (60) (令和3年4月届出予定) 環境データサイエンス学科 (40) (令和3年4月届出予定) 総合心理学部 総合心理学科 (80) (令和3年4月届出予定)										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
	-	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位					
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員			
	新設	心理学部 心理学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任		
			人	人	人	人	人	人	人		
			3	3	3	1	10	0	34		
			(3)	(3)	(3)	(1)	(10)	(0)	(22)		
			犯罪心理学科		3	1	3	1	8	0	31
			(3)	(1)	(3)	(1)	(8)	(0)	(24)		
			環境科学部 フィールド生態学科		4	2	3	2	11	0	30
			(4)	(2)	(3)	(2)	(11)	(0)	(22)		
	環境データサイエンス学科		4	0	2	2	8	0	33		
(4)	(0)	(2)	(2)	(8)	(0)	(22)					
総合心理学部 総合心理学科		5	4	5	0	14	0	32			
(4)	(3)	(5)	(0)	(12)	(0)	(15)					
看護学部 看護学科		11	7	11	9	38	4	78			
(11)	(7)	(11)	(9)	(38)	(4)	(78)					
松山看護学部 看護学科		12	2	5	4	23	3	77			
(12)	(2)	(5)	(4)	(23)	(3)	(77)					
計		42	19	32	19	112	7	-			
(41)	(18)	(32)	(19)	(110)	(7)	(-)					
既設	該当なし		-	-	-	-	-	-			
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
計		-	-	-	-	-	-	-			
(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
合計		42	19	32	19	112	7	-			
(41)	(18)	(32)	(19)	(110)	(7)	(-)					
教員以外の職員概要	職種		専任		兼任		計				
	事務職員		52	19	71		71				
			(48)	(18)	(66)		(66)				
	技術職員		0	0	0		0				
			(0)	(0)	(0)		(0)				
図書館専門職員		4	10	14		14					
		(4)	(10)	(14)		(14)					
その他の職員		0	44	44		44					
		(0)	(44)	(44)		(44)					
計		56	73	129		129					
		(52)	(72)	(124)		(124)					

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	松山道後キャンパス校地の借上面積：9,145.9㎡ 借用期間：2045年12月まで。その後も契約更新可 能 松山看護学部の校地1,318.9㎡は河原医療大学校 （必要面積：2,810㎡）（収容定員：690名）と共 用 岡崎キャンパスの運動場6,908.0㎡は岡崎学園高 等学校（必要面積8,400㎡）（収容定員：945名） と共用 松山看護学部および総合心理学部の運動場 4,892.0㎡は未来高等学校（広域通信制）（必要 面積：特になし）（収容定員：1,830名）及び河 原高等専修学校（必要面積：特になし）（収容定 員：108名）と共用					
	校 舎 敷 地	30,051.8㎡	1,318.9㎡	1,061.0㎡	32,431.7㎡						
	運 動 場 用 地	1,144.1㎡	11,800.0㎡	0 ㎡	12,944.1㎡						
	小 計	31,195.9㎡	13,118.9㎡	1,061.0㎡	45,375.8㎡						
	そ の 他	38,804.8㎡	0 ㎡	0 ㎡	38,804.8㎡						
	合 計	70,000.7㎡	13,118.9㎡	1,061.0㎡	84,180.6㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	松山看護学部の校舎（松山キャンパス）は 河原医療大学校（必要面積：3,682㎡）（収 容定員：690名）と共用					
		25,163.5㎡ (25,163.5㎡)	3,703.5㎡ (3,703.5㎡)	5,456.6㎡ (5,456.6㎡)	34,323.6㎡ (34,323.6㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	32室	41室	39室	6室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数	大学全体						
		大学全体		127 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体			
	大学全体	132,647 [13,172] (131,047 [12,871])	1,040 [136] (1,040 [136])	15 [15] (15 [15])	2,664 (2,664)	9,629 (9,629)	37 (37)				
	計	132,647 [13,172] (131,047 [12,871])	1,040 [136] (1,040 [136])	15 [15] (15 [15])	2,664 (2,664)	9,629 (9,629)	37 (37)				
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数	大学全体						
		1,771.0㎡	408席	160,000冊							
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体					
		490㎡	なし								
経 費 の 見 積 り 及 び 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 ※図書費には電子ジャーナル・ データベースの整備費（運用コ スト含む）を含む。	
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—	—		
		共同研究費等		10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	—	—		
		図書購入費	27,022千円	9,022千円	9,022千円	9,022千円	9,022千円	—	—		
	設備購入費	193,927千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—	—			
	学生1人当り納付金	心理学部・ 環境科学部	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
			1,330千円	1,130千円	1,130千円	1,130千円	— 千円	— 千円			
		看護学部	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
			1,795千円	1,595千円	1,595千円	1,595千円	— 千円	— 千円			
		松山看護学部	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,750千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	— 千円	— 千円					
総合心理学部	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
	1,280千円	1,080千円	1,080千円	1,080千円	— 千円	— 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金，資産運用収入，雑収入 等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	人間環境大学									
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率 倍	開設 年度	所 在 地		
	人間環境学部 心理学科 環境科学科	4	120 80	— —	480 320	学士 (人間環境学)	1.07 1.06 1.08	平成29年度	愛知県岡崎市本宿 町字上三本松 6-2		
	看護学部 看護学科	4	95	—	380	学士 (看護学)	1.10	平成27年度	愛知県大府市江端 町3-220		
	松山看護学部 看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	0.86	平成29年度	愛媛県松山市花園 町3-6		
	大 学 の 名 称	人間環境大学大学院									
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率 倍	開設 年度	所 在 地		
	大学院人間環境学研究科 人間環境専攻	2	8	—	16	修士 (人間環境学)	0.50	平成15年度	愛知県岡崎市本宿 町字上三本松 6-2		
	大学院看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	2	20	—	40	修士 (看護学)	0.25	平成27年度	愛知県大府市江端 町3-220		
	看護学専攻 博士後期課程	3	8	—	24	博士 (看護学)	0.37	平成27年度	同上		
附属施設の概要	なし										

学校法人河原学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	編入学定員	収容定員
人間環境大学	人間環境学部心理学科	120		480
	人間環境学部環境科学科	80		320
	看護学部 看護学科	95		380
	松山看護学部 看護学科	80		320
	計	375	-	1,500

令和4年度

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
人間環境大学		0		0	令和4年4月学生募集停止
		0		0	令和4年4月学生募集停止
	心理学部				学部の設置 (届出)
	心理学科	100		400	
	犯罪心理学科	50		200	
	環境科学部				学部の設置 (届出)
	フィールド生態学科	60		240	
	環境データサイエンス学科	40		160	
	総合心理学部				学部の設置 (届出)
	総合心理学科	80		320	
看護学部					
看護学科	95		380		
松山看護学部					
看護学科	80		320		
計		505	-	2,020	

人間環境大学大学院	人間環境学研究科 (M)	8	-	16
	大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程 (M)	20		40
	大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程 (D)	8		24
計		36	-	80

人間環境大学大学院	人間環境学研究科 (M)	8	-	16
	大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程 (M)	20		40
	大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程 (D)	8		24
計		36	-	80

河原電子ビジネス専門学校	ITイノベーション科 (4年制)	310	-	600
	ITエンジニア科 (3年制)			
	ITエンジニア科 (2年制)			
	ゲームクリエイター科 (3年制)			
	情報ビジネス科 (2年制)			
	国際観光ビジネス科 (2年制)			
	日本語学科 (1年コース)			
	日本語学科 (1.5年コース)			
	日本語学科 (2年コース)			
	日本語キャリア専攻科 (1年制)			
計	310	-	600	

河原電子ビジネス専門学校	ITイノベーション科 (4年制)	310	-	660	○収容定員変更 (60) (届出済) ○名称変更 (国際ビジネス科) (届出予定)
	ITエンジニア科 (3年制)				
	ITエンジニア科 (2年制)				
	ゲームクリエイター科 (3年制)				
	情報ビジネス科 (2年制)				
	国際観光ビジネス科 (2年制)				
	日本語学科 (1年コース)				
	日本語学科 (1.5年コース)				
	日本語学科 (2年コース)				
	日本語キャリア専攻科 (1年制)				
計	310	-	660		

河原医療大学校新居浜校	IT・Webシステム科 (2年制)	90	-	160
	医療事務科 (1年制)			
	医療秘書科 (2年制)			
計	90	-	160	

河原医療大学校新居浜校	二	74	-	128	○定員変更 (▲16) (認可申請中) ○新設 (歯科衛生学科) 廃科予定 (IT・Webシステム科)
	医療事務科 (1年制)				
	医療秘書科 (2年制)				
	歯科衛生学科 (3年制)				
計	74	-	128		

河原医療福祉専門学校	介護福祉科 (2年制)	266	-	678
	社会福祉メディカルソーシャル科 (3年制)			
	こども未来科 (3年制)			
	こども未来科 (2年制)			
	柔道整復師科 (3年制)			
	鍼灸師科 (3年制)			
計	266	-	678	

河原医療福祉専門学校	介護福祉科 (2年制)	266	-	678	○こども未来科 (3年制) 平成26年度より募集停止
	社会福祉メディカルソーシャル科 (3年制)				
	こども未来科 (3年制)				
	こども未来科 (2年制)				
	柔道整復師科 (3年制)				
	鍼灸師科 (3年制)				
計	266	-	678		

大原簿記公務員専門学校愛媛校	会計学科 (4年制)	135	-	275
	会計学科 (3年制)			
	経営経理ビジネス科 (2年制)			
	公務員ビジネス科 (2年制)			
	公務員専攻科 (1年制)			
計	135	-	275	

大原簿記公務員専門学校愛媛校	会計学科 (4年制)	135	-	275	○名称変更 (総合ビジネス科) (届出予定)
	会計学科 (3年制)				
	総合ビジネス科 (2年制)				
	公務員ビジネス科 (2年制)				
	公務員専攻科 (1年制)				
計	135	-	275		

河原デザイン・アート専門学校	デジタルデザイン科 (2年制)	180	-	330
	グラフィックデザイン科 (2年制)			
	漫画クリエイター科 (2年制)			
	インテリア・建築デザイン科 (2年制)			
	クリエイター研究科 (1年制)			
	インテリア・建築専攻科 (1年制)			
	インテリア・建築研究科 (2年制)			
計	180	-	330	

河原デザイン・アート専門学校	デジタルデザイン科 (2年制)	180	-	330
	グラフィックデザイン科 (2年制)			
	漫画クリエイター科 (2年制)			
	インテリア・建築デザイン科 (2年制)			
	クリエイター研究科 (1年制)			
	インテリア・建築専攻科 (1年制)			
	インテリア・建築研究科 (2年制)			
計	180	-	330	

河原アイペットワールド専門学校	動物看護・健康管理学科 (2年制)	120	-	240
	トリマー学科 (2年制)			
	ドッグトレーナー・ペットビジネス学科 (2年制)			
計	120	-	240	

河原アイペットワールド専門学校	動物看護・健康管理学科 (2年制)	120	-	240
	トリマー学科 (2年制)			
	ドッグトレーナー・ペットビジネス学科 (2年制)			
計	120	-	240	

河原医療大学校	看護学科 (3年制) 理学療法学科 (4年制) 作業療法学科 (4年制) 歯科衛生学科 (3年制) 歯科技工学科 (2年制) 診療情報管理学科 (3年制)	210	-	690	→	河原医療大学校	看護学科 (3年制) 理学療法学科 (4年制) 作業療法学科 (3年制) 歯科衛生学科 (3年制) 歯科技工学科 (2年制) 診療情報管理学科 (3年制)	210	-	690	○作業療法学科 (令和3年度より修業年限変更) (届出予定)
計		210	-	690		計		210	-	690	
河原ビューティモード専門学校	美容学科 (2年制) 美容学科 (2年制) トータルビューティ学科 (2年制)	190	-	380	→	河原ビューティモード専門学校	美容学科 (2年制) 美容学科 (2年制) トータルビューティ学科 (2年制)	190	-	380	
計		190	-	380		計		190	-	380	
河原パティシエ・医療・観光専門学校	パティシエ・ブランジェ科 (2年制) エアライン・観光科 (2年制) フライダル・ホテル科 (2年制) 医療秘書・医療事務科 (2年制) グローバルビジネス科 (2年制) 声優タレント科 (2年制)	220	-	440	→	河原外語観光・製菓専門学校	パティシエ・ブランジェ科 (2年制) エアライン・観光科 (2年制) フライダル・ホテル科 (2年制) 医療秘書・医療事務科 (2年制) グローバルビジネス科 (2年制) 声優タレント科 (2年制)	220	-	440	○名称変更 (校名) (届出予定)
計		220	-	440		計		220	-	440	
未来高等学校	通信制課程 普通科 単位制	260	-	1,830	→	未来高等学校	通信制課程 普通科 単位制	260	-	1,830	
計		260	-	1,830		計		260	-	1,830	
未来高等学校新居浜分校	通信制課程 普通科 単位制	100	-	170	→	未来高等学校新居浜分校	通信制課程 普通科 単位制	100	-	170	
計		100	-	170		計		100	-	170	
河原高等専修学校	調理師養成学科	36	-	108	→	河原高等専修学校	調理師養成学科	36	-	108	
計		36	-	108		計		36	-	108	
岡崎学園高等学校	全日制課程 普通科	315	-	945	→	人間環境大学附属岡崎高等学校	全日制課程 普通科	315	-	945	○名称変更 (校名) (届出予定)
計		315	-	945		計		315	-	945	
岡崎学園中学校	休学中	-	-	-	→	人間環境大学附属岡崎中学校	休学中	-	-	-	○名称変更 (校名) (届出予定)
計		-	-	-		計		-	-	-	
愛光幼稚舎	幼稚園	240	-	480	→	愛光幼稚舎	幼稚園	240	-	480	
計		240	-	480		計		240	-	480	

校地校舎等の図面 目次

1) 岡崎キャンパス

(心理学部・環境科学部)

- ①都道府県内における位置関係の図面・・・・・・・・・・ P2
- ②最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面・・ P3
- ③校舎、運動場等の配置図・・・・・・・・・・・・・・・・ P4
- ④校舎の平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5

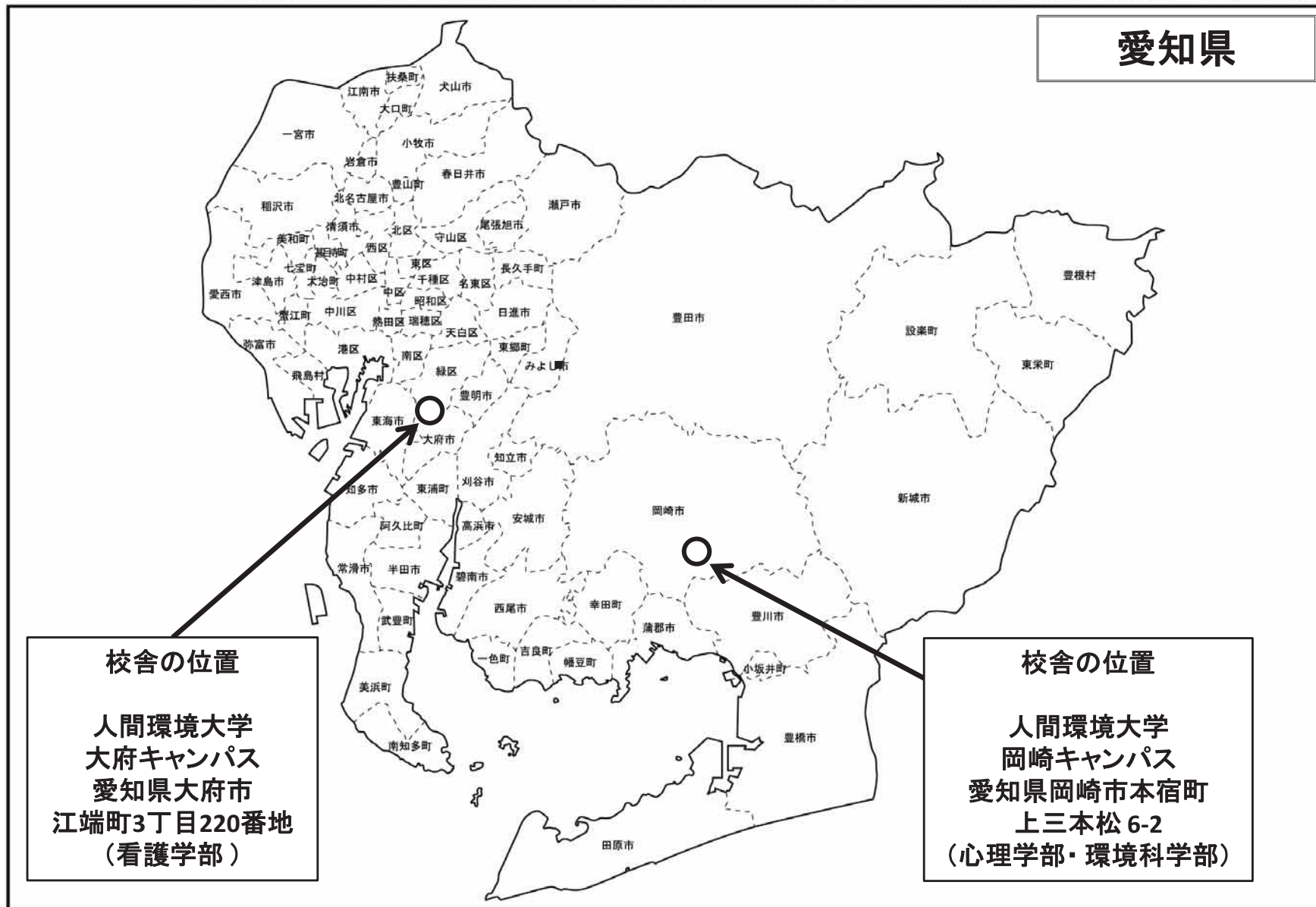
2) 松山道後キャンパス

(総合心理学部)

- ①都道府県内における位置関係の図面・・・・・・・・・・ P7
- ②最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面・・ P8
- ③校舎、運動場等の配置図・・・・・・・・・・・・・・・・ P9
- ④校舎の平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P10
- ⑤校舎工事工程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P21

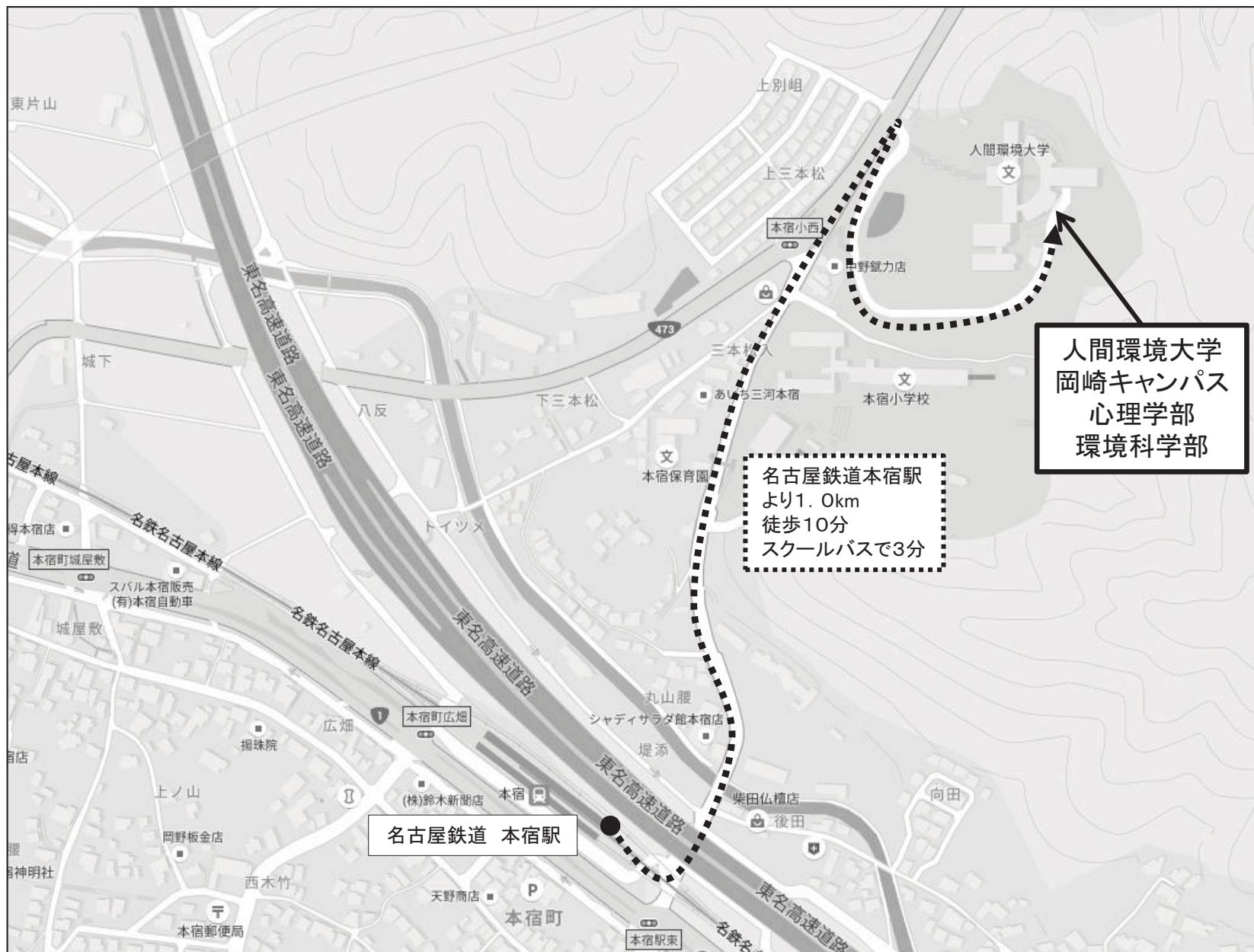
校地校舎等の図面

①都道府県内における位置関係の図面 (岡崎キャンパス:心理学部・環境科学部)



校地校舎等の図面

②最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面
(岡崎キャンパス 心理学部・環境科学部)



校地校舎図面-3

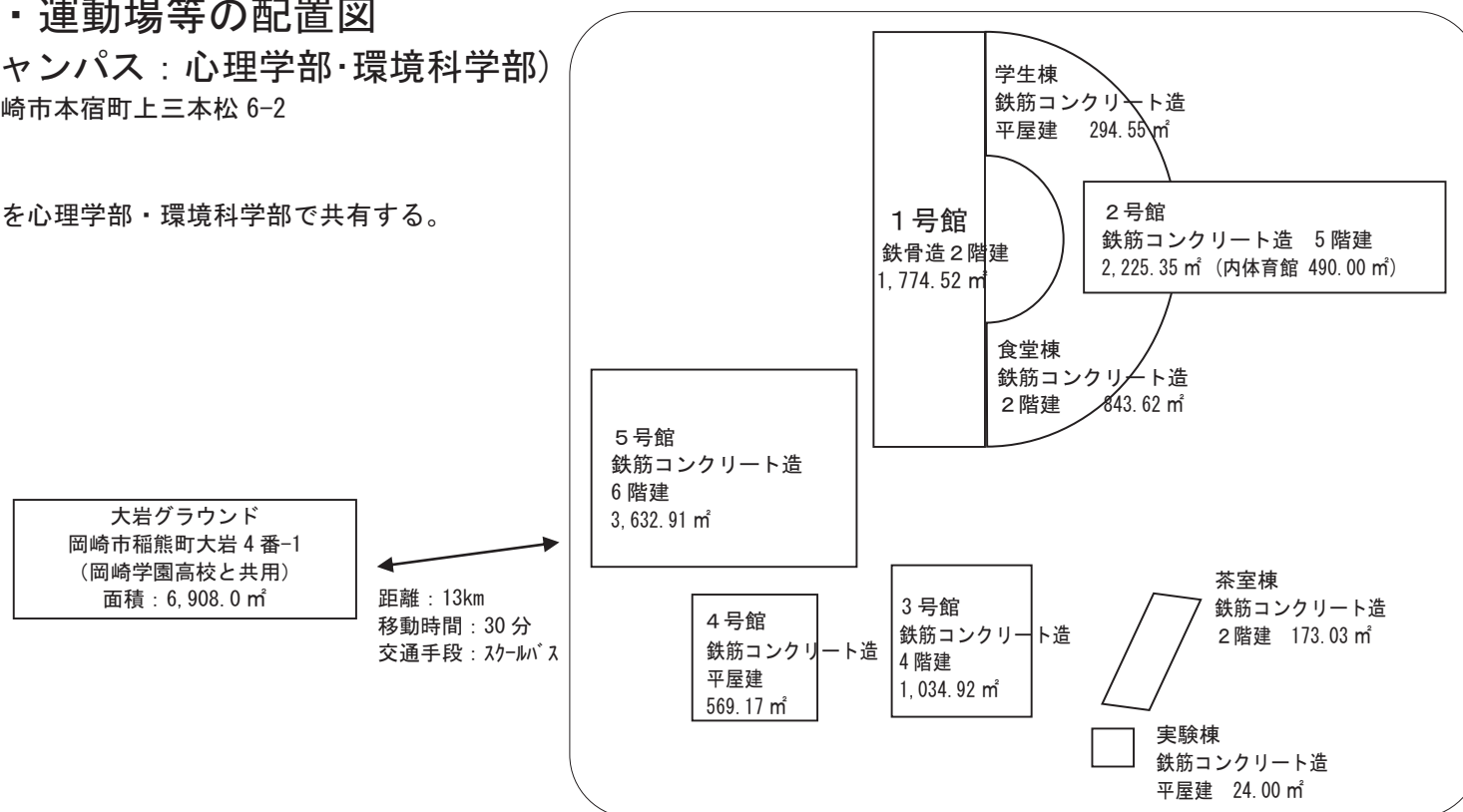
校地校舎等の図面

③校舎・運動場等の配置図

(岡崎キャンパス：心理学部・環境科学部)

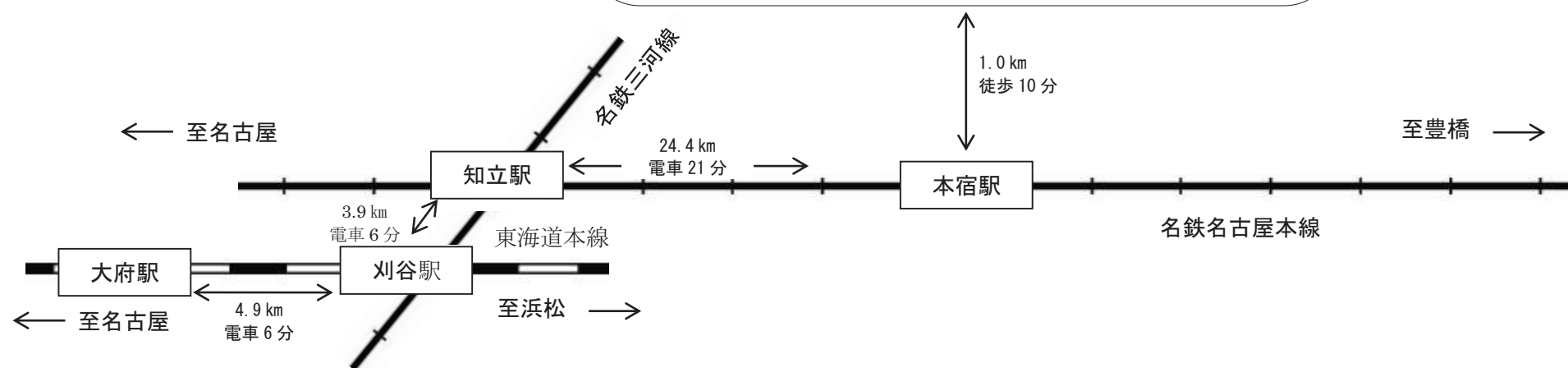
愛知県岡崎市本宿町上三本松 6-2

全ての校舎を心理学部・環境科学部で共有する。



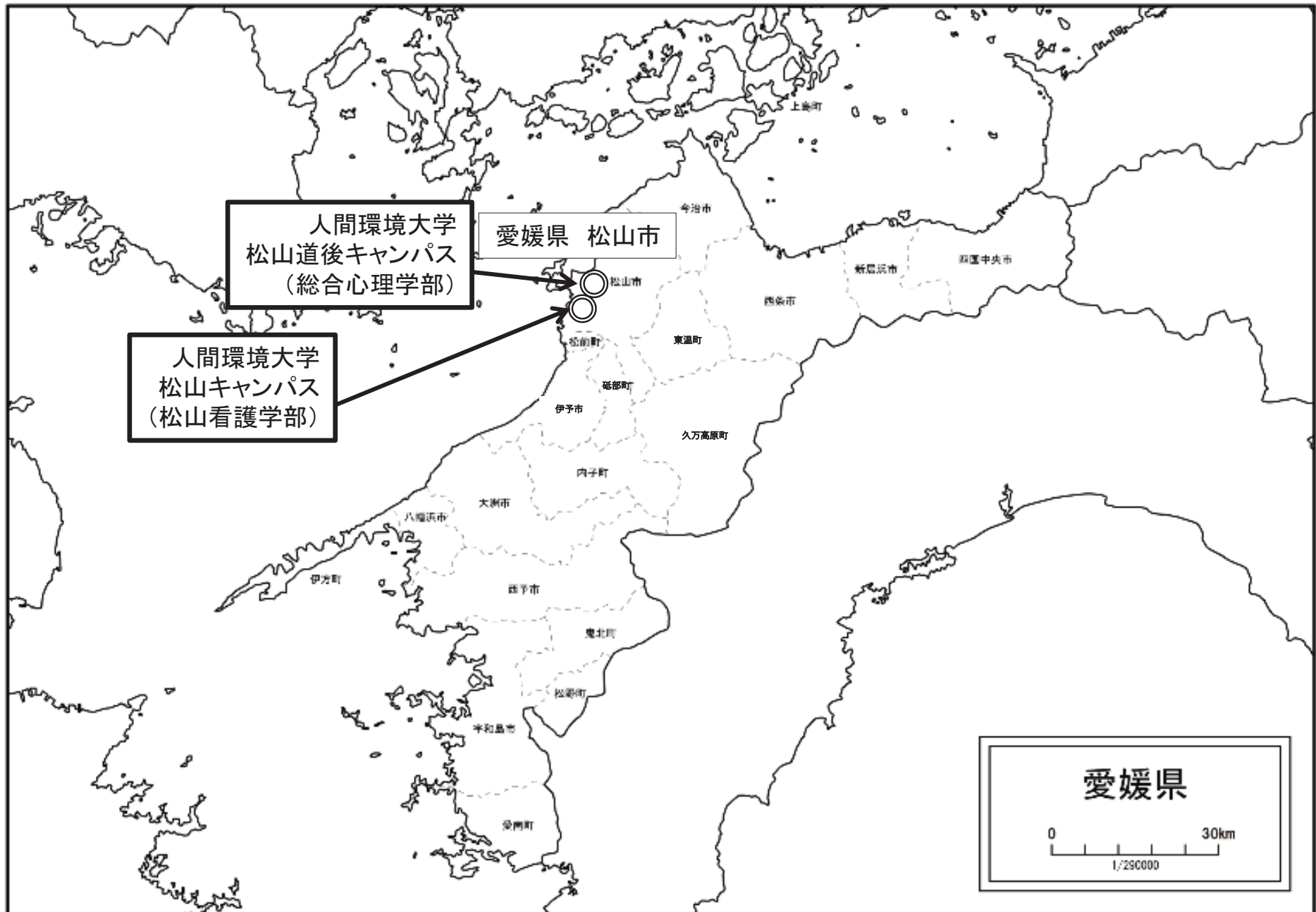
校地面積
13,987.00 m² (全部所有)
他に演習林として
38,804.80 m²

校舎面積 10,572.07 m²
(内体育館 490.00 m²)
校舎面積 (基準内) 9,188.61 m²



校地校舎等の図面

①都道府県内における位置関係の図面 (松山道後キャンパス:総合心理学部)



校地校舎等の図面

②最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面
(松山道後キャンパス:総合心理学部)

人間環境大学
松山道後キャンパス
愛媛県松山市道後樋又1192-3



校地校舎等の図面

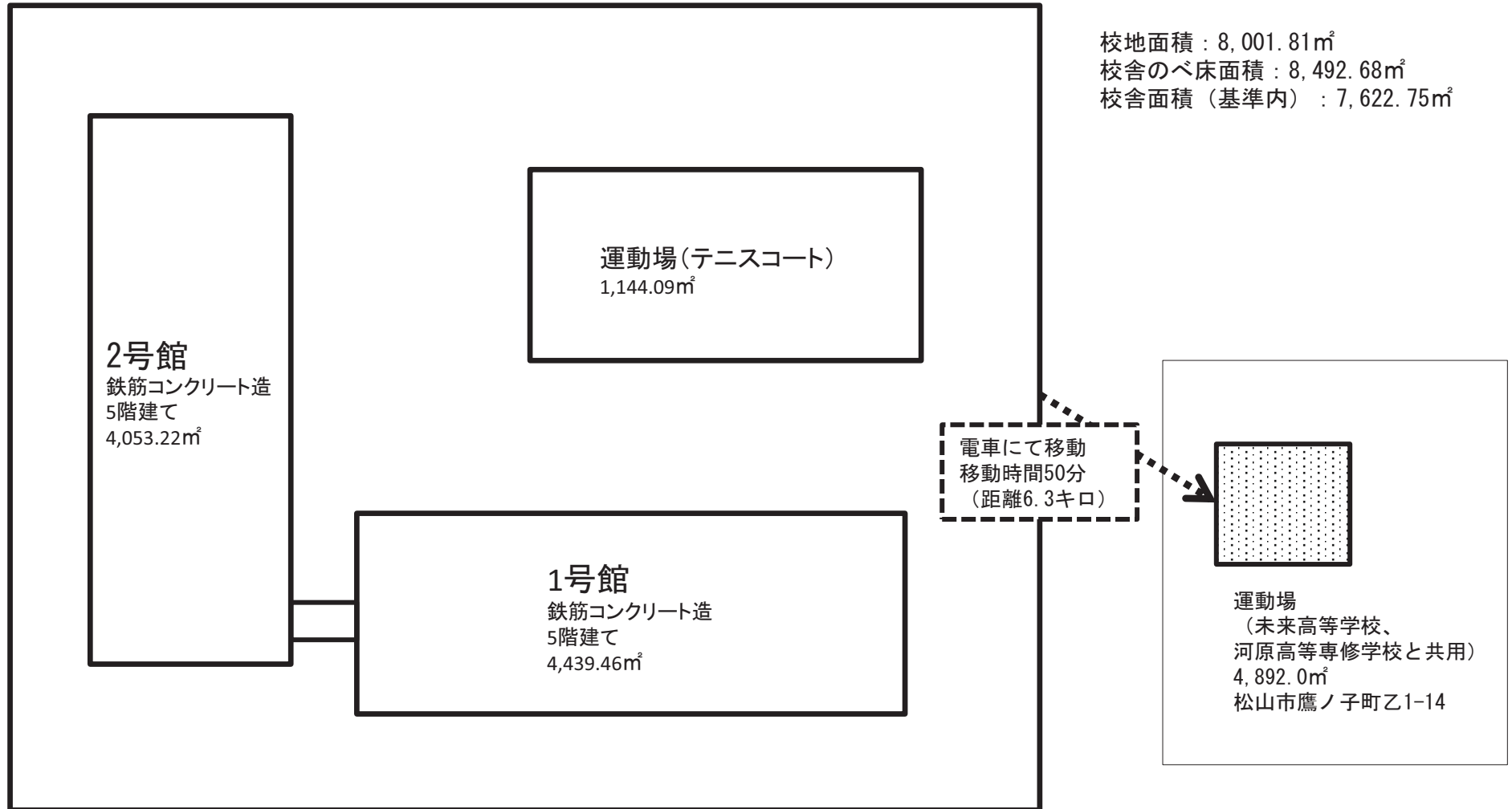
③校舎、運動場等の配置図

(松山道後キャンパス:総合心理学部)

人間環境大学
松山道後キャンパス
(総合心理学部)

愛媛県松山市道後樋又1192-3

校地面積 : 8,001.81㎡
校舎のべ床面積 : 8,492.68㎡
校舎面積 (基準内) : 7,622.75㎡



1号館、2号館とも全て総合心理学部の専用

⑤校舎工事工程表

※工事は既存の建物（1号館、2号館）の内装工事のみである。

2021年	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			
	1	10	20	1	10	20	1	10	20	1	10	20	1	10	20	1	10	20	1	10	20	
実施設計																						
解体																						
工事																						

人間環境大学 学則（案）

第1章 総則

（目的）

第1条 本学は、建学の精神に則り、人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。

2 本学の学部及び学科の人材の養成に関する目的、その他教育研究上の目的については、別に定める。

（自己評価、認証評価機関による認証評価等）

第2条 前条の目的を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前条の目的を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受けるものとする。

3 第一項の点検及び評価の項目並びに前二項の実施体制については、別に定める。

第2章 学部、学科、学生定員、専攻、修業年限及び大学院

（学部及び学科）

第3条 本学に、次の学部及び学科を置く。

- 1 心理学部
 - 心理学科
 - 犯罪心理学科
- 2 環境科学部
 - フィールド生態学科
 - 環境データサイエンス学科
- 3 看護学部
 - 看護学科
- 4 松山看護学部
 - 看護学科
- 5 総合心理学部
 - 総合心理学科

（大学院）

第3条の2 本大学に大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

（学部、学科の学生定員）

第4条 本学の学生定員は、次の通りとする。

- 1 心理学部

心理学科	入学定員	100名	収容定員	400名
犯罪心理学科	入学定員	50名	収容定員	200名
- 2 環境科学部

フィールド生態学科	入学定員	60名	収容定員	240名
-----------	------	-----	------	------

	環境データサイエンス学科	入学定員	40名	収容定員	160名
3	看護学部				
	看護学科	入学定員	95名	収容定員	380名
4	松山看護学部				
	看護学科	入学定員	80名	収容定員	320名
5	総合心理学部				
	総合心理学科	入学定員	80名	収容定員	320名

(修業年限)

第5条 本学の修業年限は4年とする。

(在学期間)

第6条 在学期間は、8年を超えることができない。

第3章 学年、学期及び休業日

(学年)

第7条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年を分けて、次の2学期とする。

前期 4月1日から9月15日まで

後期 9月16日から翌年3月31日まで

(休業日)

第9条 休業日は、次の通りとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) (削除)
 - (4) 春季・夏季及び冬季休業日に関しては、別に定める本学の学年暦による。
- 2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を変更することができる。
 - 3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。
 - 4 必要がある場合には、休業日であっても講義、実習等を行うことができる。

第4章 入学、編入学及び転入学

(入学者の選抜)

第10条 入学者の選抜方法は、教授会で定める。

(入学者の決定)

第11条 入学者は、教授会の議を経て、学長が決定する。

(入学時期)

第12条 入学、編入学及び転入学の時期は、学年の始めとする。

- 2 特別の事情のある時は、後期からの入学を認めることがある。

(入学資格)

第13条 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該教育課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧課程による大学入学資格検定に合格した者を含む)
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(編入学)

第14条 本学に編入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とし、選考の上、教授会の議を経て、相当年次に編入学を許可する。

- (1) 短期大学を卒業した者
- (2) 高等専門学校を卒業した者
- (3) 文部科学大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程(学校教育法第132条の規定による専修学校の専門課程)を修了した者
- (4) 外国において、学校教育における14年以上の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む)を修了した者又はこれに準ずる者
- (5) 本学において、前項各号に掲げる者と同等以上の学力があると認められた者

(転入学)

第15条 本学に転入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とし、選考の上、教授会の議を経て、相当年次に転入学を許可する。

- (1) 2年次に転入する場合は、大学に1年以上在学し、30単位以上修得した者
- (2) 3年次に転入する場合は、大学に2年以上在学し、62単位以上修得した者

(再入学)

第16条 削除

(出願)

第17条 本学に入学、編入学及び転入学しようとする者は、別に定めるところにより、入学願書及び所定の書類に入学検定料を添えて願い出なければならない。提出の時期、方法、提出すべき書類等については、別に定める。

(選考)

第18条 入学、編入学及び転入学の志願者に対して、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学許可)

第 19 条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定期日までに、別に定める所定の書類を提出し、所定の入学金を納入しなければならない。

2 学長は、前項の手続きを完了した者に入学、編入学及び転入学を許可する。

3 学長は、前項の規定にかかわらず、別に定めるような特別の事由のある者については、入学金を免除することがある。

(編入学者等の修業年限)

第 20 条 編入学又は転入学を許可された者の修業年限は、次のとおりとする。

(1) 第 2 年次に入学した者… 3 年

(2) 第 3 年次に入学した者… 2 年

(編入学者等の在学期間)

第 20 条の 2 編入学又は転入学を許可された者は、次の各号に規定する年数を超えて在学することができない。

(1) 第 2 年次に入学した者… 7 年

(2) 第 3 年次に入学した者… 6 年

第 5 章 休学、復学、留学、転学、転部、転科、退学、再入学、除籍及び復籍

(休学)

第 21 条 学生は、病気その他やむを得ない理由のため引き続き 2 月以上修学することができないときは、休学願を学長に提出し、その許可を得て休学することができる。

(休学期間)

第 22 条 休学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1 年を限度として休学期間の延長を認めることがある。

2 休学期間は、通算して 3 年をこえることができない。

3 休学期間は、修業年限及び在学年限に算入しない。

(復学)

第 23 条 学生は、休学期間中にその理由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

(留学)

第 24 条 外国の大学又は短期大学へ留学を希望する者については、教授会の議を経て、許可することがある。

2 留学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の理由のあるときは、許可を得て、さらに 1 年以内に限り、その期間を延長することができる。

3 前項の留学期間は、休学の取り扱いをしないものとする。

4 前 3 項に定めるもののほか、留学に関して必要な事項は、別に定める。

(転学)

第 25 条 他の大学又は短期大学に転入学をしようとする者は、転学願を学長に提出しなければならない。

(転部)

第 25 条の 2 本学の他の学部転部しようとする者は、転部願を学長に提出し、学長の許可を得なければならない。

2 転部に関する規程は、別に定める。

(転科)

第 25 条の 3 本学の他の学科に転科しようとする者は、転科願を学長に提出し、学長の許可を得なければならない。

2 転科に関する規程は、別に定める。

(退学)

第 26 条 退学しようとする者は、退学願を学長に提出しなければならない。

(再入学)

第 26 条の 2 退学した者が、再び入学を希望するときは、教授会の議を経て、学長が再入学を認めることができる。

2 再入学に関する規程は、別途定める。

(除籍)

第 27 条 学長は、次の各号のいずれかに該当する学生に対して、教授会の議を経て除籍することができる。

- (1) 授業料の納付を怠り、督促を受けても納入しない者
- (2) 3 年の休学期間を経過した者
- (3) 学則第 6 条及び第 20 条の 2 に定める在学期間を経過した者
- (4) 死亡した者及び長期間行方不明の者
- (5) 所定の期間内に履修登録を完了していない者

(復籍)

第 27 条の 2 除籍となった者が、復籍を希望するときは、教授会の議を経て、学長が復籍を認めることができる。

2 復籍に関する規程は、別途定める。

第 6 章 教育課程及び履修方法

(教育課程)

第 28 条 教育課程は、教育の目的を達成するために必要な科目を開設して、体系的に編成するものとする。

2 教育課程の編成に当っては、学部及び学科の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目)

第 29 条 授業科目は、開講対象により次のように区分する。

- (1) 心理学部
心理学科
一 学部共通科目

- 二 心理学科基盤科目
 - 三 心理学専門領域科目
 - 四 心理学専門隣接科目
 - 五 卒業研究・卒業論文
- 犯罪心理学科
- 一 学部共通科目
 - 二 犯罪心理学科基盤科目
 - 三 犯罪心理学発展科目
 - 四 卒業研究・卒業論文
- (2) 環境科学部
- フィールド生態学科
- 一 学部共通科目
 - 二 フィールド生態科目
 - 三 環境データサイエンス科目
 - 四 卒業論文
- 環境データサイエンス学科
- 一 学部共通科目
 - 二 環境データサイエンス科目
 - 三 フィールド生態科目
 - 四 卒業論文
- (3) 看護学部
- 看護学科
- 一 基礎科目
 - 二 資格科目
 - 三 専門基礎科目
 - 四 専門科目
- (4) 松山看護学部
- 看護学科
- 一 基礎科目
 - 二 専門基礎科目
 - 三 専門科目
- (5) 総合心理学部
- 総合心理学科
- 一 一般教養科目
 - 二 基盤教養科目
 - 三 基盤スキル科目
 - 四 基盤専門科目
 - 五 高度専門科目
 - 六 演習科目
 - 七 公認心理師関連科目

2 前項のそれぞれの授業科目、単位数及び履修方法については、別に定める。

(授業の方法)

第29条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して

当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(授業日数)

第30条 1年間の授業日数は、定期試験等の日数を含め、35週にわたることを原則とする。

(単位)

第31条 授業科目の単位計算方法は、1単位の学修時間を教室内及び教室外をあわせて45時間とし、次の基準によるものとする。

(1) 心理学部、環境科学部、松山看護学部および総合心理学部

- 一 講義と演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習及び実験、又は演習及び実習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの授業をもって1単位とする。

(2) 看護学部

- 一 講義と演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習及び実験、又は演習及び実習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの授業をもって1単位とする。
- 四 養護実習Ⅱについては、120時間から180時間の授業をもって4単位とする。

(履修の届出)

第32条 学生は履修しようとする授業科目について、指定の期日までに所定の用紙により届け出なければならない。

(単位の授与)

第33条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。

2 前項の試験は、筆記、口述又は論文提出等の方法によって行う。

(成績)

第34条 授業科目の試験の成績は、S・A・B・C・Dの5種の評語をもって表わし、S・A・B・Cを合格とする。

2 S・A・B・C・Dの内容は、100点表記法で、Sは90点以上、Aは89点から80点まで、Bは79点から70点まで、Cは69点から60点まで、Dは59点以下とする。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第35条 本学が教育上有益と認めるときは、本学の定めるところにより、他の大学又は短期大学と協議のうえ、学生にその科目を履修することを許可することがある。このようにして修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規程は、学生が休学することなく外国の大学又は短期大学に留学した場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第36条 本学が教育上有益と認めるときは、本学の定めるところにより、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修、その他文部大臣が別に定める学修を、本学における科目の

履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 37 条 本学が教育上有益と認めるときは、本学の定めるところにより、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和 31 年文部省令第 28 号) 第 31 条に定める科目等履修生として修得した単位を含む)を、本学に入学した後の本学における科目の履修により修得した単位とみなすことができる。

- 2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する履修を、本学の定めるところにより、本学における科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 35 条、第 36 条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

- 4 前 3 項の規定は、外国の大学、短期大学を卒業又は中途退学し、本学に入学を許可された者について準用する。

(教育職員免許状の取得)

第 38 条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 2 前項の規定により所要の単位を修得した者が取得できる教員の免許状の種類は、次のとおりとする。

- (1) 看護学部看護学科
養護教諭一種免許状

第 7 章 社会人学生

(社会人学生)

第 39 条 第 13 条又は第 14 条に規定する資格を有する者であって、一定の年数、社会における経験を有する者が、本学に入学あるいは編入学を志願する時には、選考の上、社会人学生として入学あるいは編入学を許可することがある。

- 2 社会人学生の選考に関して必要な事項は、別に定める。

第 8 章 海外帰国生徒及び外国人留学生

(海外帰国生徒)

第 40 条 日本国籍を持つ者であって、海外で教育を受け、第 13 条又は第 14 条に規定する資格を有する者が、帰国後 3 年以内に、本学に入学あるいは編入学を志願する時には、選考の上、海外帰国生徒として入学あるいは編入学を許可することがある。

- 2 海外帰国生徒に関して必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第 41 条 外国人であって第 13 条又は第 14 条に規定する資格を有し、本学に入学又は編入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学あるいは編入学を許可することがあ

る。

- 2 外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第9章 卒業

(卒業)

第42条 本学に所定の期間在学して、所定の授業科目を履修し、所定の単位以上を修得した者に対して、学長は、教授会の意見を聴き卒業を認定する。

- 2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書・学位記を授与する。
- 3 学位の授与に関する規定は、別に定める。

第10章 研究生、科目等履修生、特別聴講学生および聴講生

(研究生)

第43条 本学において、特定の専門事項の研究を希望する者がいるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

- 2 研究生に関して必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第44条 本学学生以外の者で、本学所定の授業科目のうち、一又は複数の授業科目を選んで履修を希望する者がいるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

- 2 科目等履修生であって、履修を許可された授業科目の単位認定を希望する者には、当該授業科目につき単位認定試験を実施し、合格した者には所定の単位を認定する。
- 3 科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第45条 他の大学又は短期大学に在学中の学生で、大学間の協議に基づき、特定の授業科目を定め、本学において聴講を希望する者がいるときは、本学の定めるところにより、選考の上、特別聴講学生として入学を許可することがある。

- 2 特別聴講学生として受講した科目については、試験の上、単位を与える。
- 3 特別聴講学生に関する規程は、別に定める。

(聴講生)

第45条の2 特定の授業科目を定め、本学において聴講を希望する者がいるときは、本学の定めるところにより、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

- 2 聴講生に関する規程は、別に定める。

第11章 賞罰

(表彰)

第46条 学生として表彰に値する行為があったときは、学長は教授会の議を経て表彰することができる。

(罰則)

第 47 条 本学の定める規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為があったときは、学長は教授会の議を経て懲戒する。

2 懲戒は訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 正当な理由がなくて出席常でない者

(3) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第 1 2 章 教職員組織

(教職員組織)

第 48 条 本学に学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他必要な職員を置く。

2 本学に、学部長、学科長を置く。

3 前項に定めるものの他に、副学長、副学部長、副学科長、学長補佐、その他大学運営に関わる管理者を置くことができる。

4 副学長、副学部長、副学科長、学長補佐、その他大学運営に関わる管理者に関することは、河原学園事務分掌規程に定めるものの他については教授会の議を経て学長が定める。

5 教職員及び教職員組織に関して必要な事項は、河原学園事務分掌規程に定めるものの他については別に定める。

第 1 3 章 教授会

(教授会)

第 49 条 本学の各学部、教授会を置く。

2 教授会に関して必要な事項は、別に定める。

第 1 4 章 図書館

(図書館)

第 50 条 本学に教育研究のため図書館を置く。

2 図書館に関する規程は、別に定める。

第 1 5 章 施設

(人間環境学研究所)

第 51 条 本学に人間環境学研究所を置く。

2 人間環境学研究所に関する規程は、別に定める。

(留学生センター)

第 52 条 本学に留学生センターを置くことができる。

2 留学生センターに関する規程は、別に定める。

(環境教育センター)

第 52 条の 2 「大学学部教育における『環境教育』共通カリキュラム開発のための戦略的・大学連携事業」推進組織として、本学に環境教育センターを置く。

2 環境教育センターに関する規程は、別に定める。

(地域包括医療研究センター)

第 52 条の 3 本学に地域包括医療研究センターを置くことができる。

2 地域包括医療研究センターに関する規程は、別に定める。

(地域・協働センター)

第 52 条の 4 本学に地域・協働センターを置く。

2 地域・協働センターに関する規程は、別に定める。

(教養教育センター)

第 52 条の 5 本学に教養教育センターを置く。

2 教養教育センターに関する規程は、別に定める。

(厚生施設)

第 53 条 教職員及び学生の福利厚生のために、本学に食堂、談話室等の厚生施設を設けることができる。

第 16 章 生涯教育

(公開講座)

第 54 条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

第 17 章 入学検定料、入学金及び授業料等学納金

(授業料等の金額及び納付の時期)

第 55 条 本学の入学検定料、入学金、授業料等学生納付金の金額及び納付の時期は別に定めるところによる。

(復学した場合の授業料)

第 56 条 前期又は後期中途において、復学した者は、復学した月から当該期末までの授業料を復学した月に納付しなければならない。

(退学又は停学の場合の授業料)

第 57 条 前期又は後期中途で退学、又は除籍された者の当該学期分の授業料は納付しなければならない。

2 停学期間中の授業料は納付しなければならない。

(休学の場合の授業料)

第 58 条 休学を許可された者の取り扱いについては、別に定める。

(研究生、科目等履修生の授業料等)

第 59 条 研究生及び科目等履修生の授業料等は、別に定めるところによる。

(納付した授業料等)

第 60 条 既納の入学検定料及び入学金は返還しない。

2 既納の授業料は原則として返還しない。

(授業料等の一部又は全額免除)

第 61 条 次の各号に該当する学生に対して、授業料等の一部又は全額を免除することがある。

(1) 学力優秀で学生の模範と認められる学生及び学長が適当と認める学生

(2) 社会人学生

(3) 外国人留学生

2 授業料等の一部又は全額免除に関して必要な事項は、別に定める。

附則 この学則は、平成 12 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 13 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 15 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 16 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 この学則（別表 1 改正）は、平成 18 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 19 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 20 年 6 月 11 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 20 年 7 月 9 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 21 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 21 年 4 月 15 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 21 年 10 月 1 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 23 年 8 月 10 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 25 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 26 年 6 月 11 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 27 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、平成 28 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 1. この学則（改正）は、平成 29 年 4 月 1 日からこれを施行する。

2. 平成 28 年度以前の入学生については、改正後の学則第 3 条、第 4 条、第 29 条、第 31 条及び第 38 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則 この学則（改正）は、平成 31 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、令和元年 9 月 25 日からこれを施行する。

附則 この学則（改正）は、令和 3 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附則 1. この学則（改正）は、令和 4 年 4 月 1 日からこれを施行する。

2. 令和 3 年度以前の入学生については、改正後の学則第 3 条、第 4 条、第 29 条、第 31 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目 次

ア) 学則変更（収容定員変更）の内容	P. 2
イ) 学則変更（収容定員変更）の必要性	
1) 心理学部	P. 4
2) 環境科学部	P. 6
3) 総合心理学部	P. 8
ウ) 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	P. 10
(1) 教育課程の変更内容	P. 10
1) 心理学部	
2) 環境科学部	
3) 総合心理学部	
(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	P. 12
1) 心理学部	
2) 環境科学部	
3) 総合心理学部	
(3) 教員組織の変更内容	P. 14
1) 心理学部	
2) 環境科学部	
3) 総合心理学部	
(4) 大学全体の施設・設備の変更内容	P. 16
1) 岡崎キャンパス	
2) 松山道後キャンパス	

添付資料（学則変更に係る学部学科の教育課程等の概要を含む）

ア) 学則変更（収容定員変更）の内容

(1) 収容定員に係る学則変更の概要

令和4年4月1日より、次の①～④の趣旨により、収容定員に係る学則変更を行う。

[岡崎キャンパス]

- ①既存の人間環境学部（心理学科、環境科学科）を学生募集停止する。
- ②新たに心理学部（心理学科、犯罪心理学科）を設置する。
- ③新たに環境科学部（フィールド生態学科、環境データサイエンス学科）を設置する。

[松山道後キャンパス]

- ④新たに総合心理学部（総合心理学科）を設置する。

上記の学生募集停止と新学部設置により、現行の収容定員1,500人から2,020人(520人増加)とし、大学全体の入学定員は375名から505名(130人増加)に変更する。

人間環境大学 収容定員に係る学則変更の概要

	キャンパス	変更内容	学部名	学科名	【変更前】 収容定員 [入学定員]	【変更後】 収容定員 [入学定員]	【増減】 収容定員 [入学定員]
学則変更を行う学部学科	岡崎 キャンパス	学生募集停止	人間環境学部	心理学科	480 [120]	- [-]	▲800 [▲200]
				環境科学科	320 [80]	- [-]	
		学部設置	心理学部 (新設)	心理学科 (新設)	- [-]	400 [100]	+1,320 [+330]
				犯罪心理学科 (新設)	- [-]	200 [50]	
	学部設置	環境科学部 (新設)	フィールド生態学科 (新設)	- [-]	240 [60]		
			環境データサイエンス学科 (新設)	- [-]	160 [40]		
松山道後 キャンパス	学部設置	総合心理学部 (新設)	総合心理学科	- [-]	320 [80]		
学則変更を行わない学部学科	大府 キャンパス	変更なし	看護学部	看護学科	380 [95]	380 [95]	
	松山 キャンパス	変更なし	松山看護学部	看護学科	320 [80]	320 [80]	0 [0]
合 計					1,500 [375]	2,020 [505]	+520 [+130]

(2) 収容定員に係る学則変更により学生募集停止、新設する学部学科

収容定員に係る学則変更により新設および学生募集停止を行う学部学科は以下の通りである。
学生募集停止を行う学部学科は、全ての学生が卒業した段階で廃止する。

①新設する学部学科

学部名	学科名	入学定員	収容定員
心理学部	心理学科	100人	400人
	犯罪心理学科	50人	200人
環境科学部	フィールド生態学科	60人	240人
	環境データサイエンス学科	40人	160人
総合心理学部	総合心理学科	80人	320人
増加数		330人	1,320人

②学生募集停止を行う学部学科

学部名	学科名	入学定員	収容定員
人間環境学部	心理学科	▲120人	▲480人
	環境科学科	▲80人	▲320人
減少数		▲200人	▲800人

③大学全体の入学定員、収容定員の変更

	入学定員	収容定員
大学全体（学則変更前）	375人	1,500人
大学全体（学則変更後）	505人	2,020人
増加数	+130人	+520人

イ) 学則変更（収容定員変更）の必要性

今回収容定員に係る学則変更を行い新たに開設する心理学部、環境科学部および総合心理学部の必要性について、以下の通り学部学科ごとに説明する。

1) 心理学部設置の必要性

本学では、これまで人間環境学部人間環境学科心理コースおよびその後継学科である人間環境学部心理学科、さらに大学院人間環境学研究科（臨床心理研究指導分野）において、心理学の教育研究と人材養成を行ってきた。より具体的には、人間が生活する歴史・文化的背景、社会の経済的枠組みや自然科学的視点を理解した上で、「人間環境学」の見地からさまざまな場面における人間の相互理解と援助の実践的な力を身につけ、個人及び社会全体の精神・心理的健康への提案と実践を提供できる人材の育成を行ってきた。本学の心理コースおよび心理学科の卒業生は、本学大学院をはじめとした臨床心理士養成大学院に進学する者も多く、また既設の本学心理学科および大学院では、公認心理師国家資格に対応したカリキュラムも展開している。このたびの心理学部の設置は、これまでの本学の心理学分野の教育研究と人材養成をさらに充実、発展させる延長線上に位置するものであり、その専門的な研究面や社会からの心理系人材の要請への対応という面も含めて、学部設置の必要性があるとの結論に至った。また地域的な側面では、愛知県内には51大学（令和2年現在）が開設されているが、本学が所在する三河地区には心理学部は1校も開設されておらず、心理学科の学科組織を持つのも本学のみである。したがって、本学が心理学部を新設することは、三河地区における心理学分野志望者の地域ニーズに応じるものでもある。

（心理学科）

心理職の国家資格である公認心理師資格が制度化（平成29年施行）されるなど、我が国の社会における心理系人材の必要性、心理学分野の重要性は、近年益々高まっている。公認心理師制度の開始の背景には、心の健康の問題が国民の生活に関わる重要な問題となっており、学校、医療機関、その他企業をはじめとする様々な職場における心理職の活用の促進が喫緊の課題となっている点が挙げられる。学校現場では不登校やいじめ、医療機関では精神疾患、企業においてはメンタルヘルスや対人・業務ストレス、また犯罪被害のケアやグリーフケアなど、心の健康の問題は社会全体に多岐にわたり存在しており、それぞれの場において、専門的な心理職の活躍が期待されている。これらの学校現場や企業等における心の問題に対し、問題への理解を深めその支援につなげるためには、心理学が担う役割は非常に大きいといえる。

学問としての心理学分野の構成領域は幅広く、心の健康の問題の理解と支援に直接関係する臨床心理学や障害心理学、一生涯の発達メカニズムや人格形成と関連する教育心理学や発達心理学、個人や社会の相互作用、組織や対人関係と関連する社会心理学、産業・組織心理学等の各専門領域が心理学分野全体を重層的に構成しており、心理学分野全体が一つの総合科学として成立しているとも言える。これらの心理学の各専門領域を広く学ぶことで、現代社会のさまざまな現

場において、心の問題へアプローチや分析をすることが可能となり、さらに心の健康に貢献できる人材養成につながる。これらの状況を踏まえて、既存の人間環境学部心理学科からの発展的改組により、より充実した心理学の専門領域を備えた心理学部心理学科を設置することとした。

(資料1：心理学部心理学科 教育課程等の概要)

(犯罪心理学科)

現代社会は変化のスピードが非常に早く、それに伴い様々な社会問題が起こっている。このような背景から、心理学に対する社会的要請と期待される役割はより細分化されつつある。なかでも、“非行・犯罪”をとりまく問題は、個人・社会においてひとときわ重大かつ喫緊の課題といえる。

刑法犯の認知件数は、令和元年は74万8,559件と戦後最少を更新し、刑法犯の発生率の動向についても平成25年からは毎年戦後最低を記録する(「令和2年版犯罪白書」)など、全体としては改善傾向が続いているものの、グローバル化、情報社会化、高齢化、生活様式や家族の形態の変化など、コミュニケーションの在り様や個人・社会をとりまく環境は近年劇的に変化しており、これに伴い次々と新たな“非行・犯罪”の問題が発生するとともに、その内容も多様化している。実際に、特殊詐欺、児童虐待、サイバー犯罪等、検挙件数が増加傾向又は高止まり状態にある犯罪もあることが報告されている(法務省法務総合研究所, 2020)。今後もIT技術等の進展に伴い、犯罪をとりまく問題はさらに多様化、複雑化していくことが予想されることから、特に犯罪心理学に関する専門的知識と技能をもって、これらの問題を分析し解決できる人材を育成することが社会的に求められている。さらに、これらの知識や知見を社会に還元し、よりよい社会・地域づくりに貢献できる人材を養成することの重要性も増している。

犯罪心理学は心理学の一応用領域であり、犯罪心理学を追究する上では、心理統計法や心理学データ解析、心理学実験法や調査法などの基礎心理学だけでなく、知覚・認知心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学などの関連領域の知識および技能を身につけることが必須である。これらは既存の人間環境学部心理学科の教育研究と共通であるが、“非行・犯罪”をとりまく問題の分析・解決に貢献できる人材の養成においては、さらに多角的なアプローチが必要になる。法がなければ“非行・犯罪”は存在しえないことから、“非行・犯罪”にまつわる問題について取り組むためには法律に関する基礎的な知識・理解が求められる。さらに、“非行・犯罪”にまつわる事象もまた、“非行・犯罪”の発生機序、犯罪捜査、矯正、更生、保護、法廷での証言や鑑定、被害者の支援、防犯、など非常に多岐にわたることから、犯罪心理学の専門的知識および技能を修得した人材を養成するには、新たな専門的かつ体系的な教育課程の導入が必要であるとの結論に至った。以上の理由から、本学では令和4年に心理学部犯罪心理学科を新たに設置することとした。

(資料2：心理学部犯罪心理学科 教育課程等の概要)

2) 環境科学部設置の必要性

本学は、大学の名称を人間環境大学とし、その建学の精神が「人間環境学の探究」であることから自明の通り、平成12年以来、環境学、環境科学の教育研究と探究を継続して現在に至っている。これまで人間環境学部人間環境学科環境コースおよびその後継学科である人間環境学部環境科学科、さらに大学院人間環境学研究科において、環境に特化した教育研究と人材養成を行ってきた。このたびの環境科学部の開設は、本学の開学以来の環境科学の教育研究をさらに発展、進化させるものであり、国内外及び地球規模の状況からもその必要性は認められるものである。

平成27年(2015年)9月の国連総会において、国連加盟の193か国すべてがSDGs(持続可能な開発目標)に賛同し、2030年までに到達すべき地球規模の共通目標が作られた。これまでは別々に考えられてきた経済・社会・環境の3つの側面がSDGsにおいて統合されたことで、これまで企業にとっては経済的なコストや副次的な事業とされることが多かった環境面への配慮が、企業活動における大きなミッションとして積極的に取りこまれるようになり、環境について専門的に学んだ人材は、環境や農林業を担当する公務員や環境コンサルタントなどの専門職に求められるだけでなく、いまやあらゆる分野の企業や事業体において必要な人材となっている。

環境問題と持続可能な社会の構築(サステナビリティ)が最優先の課題であることは、全世界において共通の認識となっており、あらゆる分野において、環境課題の解決に貢献できる人材、サステナビリティに貢献できる人材が求められている。また、新型コロナウイルスへの対応をはじめとして、様々な不確実な情報から適切な判断が必要になる事態は、これからの社会においてさらに増加していくことが見込まれ、場の状況に応じて臨機応変に対応を講じることができる人材の育成が求められている。本学では既存の人間環境学部環境科学科において、自然環境を対象として、予測が困難である状況下における現場対応力や、調査・観察・測定結果に基づく状況把握力・改善案提示力を磨くカリキュラムを実施してきたが、上述した社会的要請と必要性に応えるため、これを発展的に改組し、自然環境の中でそれらの能力を総合的に身につけるフィールド生態学科と、調査・観察・測定結果を正しく高度に解析をする能力を身につける環境データサイエンス学科の2学科にて構成される環境科学部を新たに設置することとした。

(フィールド生態学科)

フィールド生態学科では、陸上や海洋等の様々な自然環境における生態学についての教育研究を行う。本学が位置する愛知県は、自動車製造などの工業が有名な県であるが、一方で広大で豊かな自然環境を有しており、農業生産額が3,115億円(平成30年度)と全国8位の農業県であるとともに、伊勢湾や三河湾、緩やかな大陸棚が広がる遠州灘における水産業が盛んな県でもある。これらの農林・水産業は、豊かな自然環境基盤をもとに営まれるものであるが、都市化や産業活動により自然環境が失われるなど、本県は多くの課題を抱えており、その課題解決が求められている。さらに愛知県では、環境をテーマとした日本国際博覧会(愛・地球博)(平成17年)の開催をはじめとして、平成22年には「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」において「愛知目標」が採択されるなど、環境に対する県民の高い意識が培われている。愛知県は令和元年に

は「SDGs 未来都市」に選定され、「環境首都あいち」として、環境への取組みを推進する全国の主導的立場となっている。

これらの環境への取組みの基盤として、自然環境に関する教育研究ならびに啓蒙活動のさらなる発展は欠かせないものであり、その拠点としての大学の重要性にはさらなる期待がなされることである。しかしながら、愛知県及び隣接する浜松市を擁する静岡県西部を含めた人口 300 万都市圏には、本学以外に自然環境を主たる教育研究対象とする学部は存在しない。本地域では、失われた生態系の再生・回復、既存の生態系の維持および、生物多様性の保全による自然との共生を目指した取組みが求められている。そのためには、生態系の仕組みを理解し、地域の生態系が抱える課題・現状を調査・把握、それらの課題を解決する方法を提言・実行できる人材の養成が急務である。

これまで既存の環境科学科においては、持続可能な社会の実現に向けて、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材の育成に貢献してきたが、フィールド生態学科に改組することにより、系の異なる生態環境における専門性をさらに高め、かつ幅広い生態系全体をカバーすることができるようになる。生態学を主とする学問を追究することで、地域の多様な自然環境との共生を実現する基盤としての研究機関、人材養成機関として、地域社会へのさらなる貢献が期待される。このことから、環境科学部の下に入学定員 60 名のフィールド生態学科を設置するものである。

（資料 3：環境科学部フィールド生態学科 教育課程等の概要）

（環境データサイエンス学科）

環境データサイエンス学科では、データサイエンスを活用した環境科学についての教育研究を行う。第 5 期科学技術基本計画（平成 28 年）において「超スマート社会」実現のための、社会における新しい価値・サービスの創出に向けた人材育成の必要性が示され、広域かつ目的に整合したデータの取得・解析・問題解決を行うデータサイエンティストが様々な分野の発展に大きく寄与すると期待されている。また、中京都市圏においても、基盤産業である自動車・製造業を中心に多くの中小企業を抱えており、データに基づく業務改善・効率化や新しい産業・サービスの創出が強く望まれている。特に、環境科学部が位置する愛知県の西三河地区は、環境に対する住民の関心や CSR に基づく環境分野の中小企業の社会貢献活動も活発であり（愛知県環境局環境政策課「環境分野における企業の社会貢献活動ウェブサイト」より）、環境分野の知識や技術だけでなく、「データ」を活用し地域社会における様々な課題を解決できる人材の養成が望まれている。

このような国や県の流れの中、本大学ではこれまで一般社団法人データサイエンティスト協会に加入し、高度人材の育成とデータ分析業界の健全な発達のために東海地区唯一の大学として活動に参画してきており、データサイエンス教育に関連する新学科の設置構想を進めてきた。愛知県内には、環境科学を主たる教育研究対象とする学部・学科は他にも存在するが、大学の学科として環境教育にデータ解析の教育カリキュラムを組み込み、環境科学とデータサイエンスの両分野の専門的人材を養成する教育は、愛知県のみならず東海地区においても例がなく、これらの専

門的人材を地域で養成する必要性は非常に高いと言える。

また、豊かな森林・海洋等の自然環境を有する西三河地区では、食と緑に関する重点的な取り組みを掲げた「食と緑の基本計画 2020 西三河地区推進プラン」を策定し、農林水産業にも力を入れているが、農業従事者の高齢化や過疎化によって農家の担い手が減少しており、ロボット技術や AI、IoT 等の先端技術を活用した労力の効率化や次世代型の農業の導入など、農学や自然環境だけでなく ICT やデータ解析に精通した人材の養成が今後強く求められると思われる。

このような地域背景と社会的要請から、本学では、これまでの人間環境学部環境科学科における自然環境及び社会環境での教育研究の成功例を軸にして継続しつつ、前述の ICT や AI などのデータサイエンスの学びを組み込み、より社会的、教育的、地域的必要性が高い教育研究の実現を目標として、環境科学部の下に入学定員 40 名の環境データサイエンス学科を設置するものである。

(資料 4 : 環境科学部環境データサイエンス学科 教育課程等の概要)

3) 総合心理学部

今回の収容定員に係る学則変更に伴い、本学が新たに愛媛県松山市に設置する総合心理学部の必要性について、以下に述べる。心理系人材、心理の専門職の全国的な人材需要、社会背景、政策の動向については、上述の心理学部の項目にて述べた通りであり、愛媛県及び四国地区における必要性を中心に説明する。

四国地区 4 県においては、国公立大学を含めて、心理系の学部は現時点で設置されておらず、心理系の学科またはコースは 4 大学が開設しているが、徳島文理大学人間生活学部心理学科以外は、心理学の隣接分野に関連した課程であり、四国地区においては、心理学分野を志望する高校生のニーズに対応する学部学科の開設状況は充分ではないと言える。愛媛県では聖カタリナ大学(人間健康福祉学部人間社会学科)、松山東雲女子大学(人文科学部心理子ども学科)において心理学分野が開講されているが、人間社会学や保育に関連した課程であり、心理学部としての学部開設はない状況である。そのような状況から、本学では愛媛県及び四国地区における心理系の志願ニーズに応え、愛媛県及び四国地区における心理学の教育研究の拠点となり、同時に今後人材需要の増加が見込まれる心理系専門職を養成するため、総合心理学部を設置することとした。臨床心理学、発達心理学、犯罪心理学等の多くの小分野を併せ持つ総合科学としての心理学分野は、今では社会の中で欠くことのできない専門領域となっており、その教育研究と人材養成にも大きな期待と責任が課されている。愛知県に本部キャンパスを置く人間環境大学は、これまでに愛媛県において松山看護学部を運営してきたが、総合心理学部はそれに続く 2 番目の学部として、愛媛県及び四国地区において地域に貢献できる心理系学部を目指す。なお、愛媛県の高校等からは県外への大学進学者が多く(令和 2 年度は、県内高校の大学進学者 6,202 人のうち、県内大学進学者は 1,939 人[31.3%])、県外に流出している心理系学部進学者も少なくないと考えられる。

四国地区における公認心理師、臨床心理士の養成状況を見ると、公認心理師に対応したカリキュラムの大学院、臨床心理士を養成する大学院(第 1 種指定大学院)は、愛媛大学大学院(教育学研究科学校臨床心理専攻臨床心理学コース)、香川大学大学院(教育学研究科学校臨床心理専攻

臨床心理学コース)、徳島大学大学院(総合科学教育部臨床心理学専攻)、鳴門教育大学大学院(学校教育研究科人間教育専攻臨床心理士養成コース)、徳島文理大学大学院(人間生活学研究科心理学専攻臨床心理学コース)の5大学であり、私立大学では1大学院(徳島県)のみの設置となっている。公認心理師及び臨床心理士の養成には原則として大学院での履修が必要であるが、本学は愛知県岡崎市に公認心理師、臨床心理士を養成する大学院を設置しており、卒業後はその大学院への進学も可能であるが、将来的には愛媛県松山市においても、総合心理学部の卒業生の受け皿となる大学院(公認心理師・臨床心理士養成)を設置する計画である。

また総合心理学部の開設について、愛媛県知事からの学部開設の要望書(資料6)、愛媛経済同友会からの学部開設の賛同書(資料7)、松山商工会議所からの学部開設の賛同書(資料8)が本法人に寄せられている。その中では、愛媛県の長年の懸案である県外大学への流出(令和2年度において約70%の県外流出率、約3,000人の転出超過)を改善し、県内における高等教育と人材供給を充実させるために、本学部の開設と人材の養成に大きな期待が寄せられていることが示されており、本学部の開設は愛媛県全体の地域振興の側面からもその必要性は高いと言える。

(資料5：総合心理学部総合心理学科 教育課程等の概要)

(資料6：愛媛県知事からの学部開設の要望書)

(資料7：愛媛経済同友会からの学部開設の賛同書)

(資料8：松山商工会議所からの学部開設の賛同書)

ウ) 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程の変更内容

今回の収容定員に係る学則変更は、既設の人間環境学部（岡崎キャンパス）を学生募集停止し、あらたに心理学部、環境科学部（ともに岡崎キャンパス）および総合心理学部（松山道後キャンパス）を設置するものである。よって、新設する3学部の教育課程は、全て全面的に新たに構築されることになることから、教育課程は全般的に変更され、より充実したものとする計画である。各学部の教育課程の新設による他学部への影響は、以下に示す通りである。

1) 心理学部

収容定員に係る学則変更に伴う心理学部の開設にあたり、同学部の2学科ともに新たな教育課程（資料1、資料2）を配置する。心理学部は環境科学部とともに、岡崎キャンパスに設置されることから、一部のキャンパス内共通科目を環境科学部と共有し、心理学部の2学科では学部共通科目を共有する。岡崎キャンパスでは、既設の人間環境学部（入学定員200人・収容定員800人）を学生募集停止し、心理学部（入学定員150人・収容定員600人）、環境科学部（入学定員100人、収容定員400人）を新設することから、キャンパス内において、入学定員では50人、収容定員では200人の増加となる。一方で新設する心理学部の両学科においては、各科目に対し適正な学生数を設定し、教育課程を編成していることから、収容定員の増加に伴う教育課程の変更（新設）において、教育環境の低下がないことを確認している。また学生募集停止する既設の人間環境学部心理学科は、1学科で入学定員120人・収容定員480人のところ、新設する心理学部は、心理学科が入学定員100人・収容定員400人、犯罪心理学科が入学定員50人・収容定員200人と、学科単位では定員が減少することから、より専門性を高めた教育効果の高い教育研究と指導が可能となると考えている。

（資料1：心理学部心理学科 教育課程等の概要）

（資料2：心理学部犯罪心理学科 教育課程等の概要）

2) 環境科学部

収容定員に係る学則変更に伴う環境科学部の開設にあたり、同学部の2学科ともに新たな教育課程（資料3、資料4）を配置する。環境科学部は心理学部とともに、岡崎キャンパスに設置されることから、一部のキャンパス内の共通科目を心理学部と共有し、環境科学部の2学科では学部共通科目を共有する。岡崎キャンパスでは、上述の通りキャンパス内において、入学定員では50人、収容定員では200人の増加となるが、一方で新設する環境科学部の両学科においては、各科目に対し適正な学生数を設定し、教育課程を編成していることから、収容定員の増加に伴う教育課程の変更（新設）において、教育環境の低下がないことを確認している。また学生募集停止する既設の人間環境学部環境科学科は、1学科で入学定員80人・収容定員320人のところ、新設する環境科学部は、フィールド生態学科が入学定員60人・収容定員240人、環境データサイエン

ス学科が入学定員 40 人・収容定員 160 人と、学科単位では定員が減少しており、より専門性を高めた、教育効果の高い教育研究と指導が可能となると考えている。

(資料 3 : 環境科学部フィールド生態学科 教育課程等の概要)

(資料 4 : 環境科学部環境データサイエンス学科 教育課程等の概要)

3) 総合心理学部

総合心理学部は、本学が新たに開設する松山道後キャンパスにおける唯一の学部として設置することから、新たに策定した教育課程(資料 5)における他学部との共通科目は存在せず、既設学部への影響も発生しない。総合心理学部は、新設学部として教育課程を新たに構築し、また全ての科目を自学部のみのために設定していることから、収容定員の増加による教育課程の内容の低下も発生しない。

(資料 5 : 総合心理学部総合心理学科 教育課程等の概要)

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

収容定員に係る学則変更により新たに設置する3学部における、教育方法及び履修指導方法の変更内容について、以下にて説明する。新設する各学部での状況から、3学部ともに、収容定員の増加による教育方法及び履修指導方法の内容の低下は発生しないと考えている。

1) 心理学部

心理学部は、既設の人間環境学部心理学科の教育研究体制の実績を発展的に継承し、新たに設置する学部であるため、教育方法及び履修指導方法についても前身となる学科のものを継承する予定であり、学則変更の前後においての変更はない。さらに、教育方法と履修指導を更に充実させる予定であり、心理学の教育研究において重要とされる少人数クラスでの指導を重視していく計画である。今回の収容定員に係る学則変更の前後における、既設の心理学科と新設の心理学部での1クラスあたりの想定学生数は、以下の表の通りであり、教育方法における内容面の低下は発生しないと考えている。

表1 学則変更の前後における1クラスあたりの想定学生数の比較(心理学部)

	学則変更前 (人間環境学部心理学科)	学則変更後 (心理学部)
入学定員	120人	心理学科 100人 犯罪心理学科 50人
主要講義科目の想定人数	50~120人	心理学科 50~100人 犯罪心理学科 30~50人
ゼミナールの想定人数	最大15人	心理学科 最大15人 犯罪心理学科 最大15人

2) 環境科学部

環境科学部は、既設の人間環境学部環境科学科の教育研究体制の実績を発展的に継承し、新たに設置する学部であるため、教育方法及び履修指導方法についても前身となる学科のものを継承する予定であり、学則変更の前後においての変更はない。さらに、教育方法と履修指導を更に充実させる予定であり、少人数クラスでの実習やフィールドでの指導を重視していく計画である。今回の収容定員に係る学則変更の前後における、既設の環境科学科と新設の環境科学部での1クラスあたりの想定学生数は、以下の表の通りであり、教育方法における内容面の低下は発生しないと考えている。

表2 学則変更の前後における1クラスあたりの想定学生数の比較（環境科学部）

	学則変更前 (人間環境学部環境科学科)	学則変更後 (環境科学部)
入学定員	80人	フィールド生態学科 60人 環境データサイエンス学科 40人
主要講義科目の想定人数	40~80人	フィールド生態学科 30~60人 環境データサイエンス学科 20~40人
実習科目の想定人数	20人	フィールド生態学科 20人 環境データサイエンス学科 20人
ゼミナールの想定人数	最大15人	フィールド生態学科 最大15人 環境データサイエンス学科 最大15人

3) 総合心理学部

総合心理学部は、完全な新学部として設置する学部であることから、教育方法や履修指導方法についても、最良の効果を目指してゼロベースから構築している。具体的には、14人の専任教員により、1学年80人の学生に対し、講義科目、演習科目、実習科目およびゼミナール科目のそれぞれにおいて、最も教育効果の高い教育方法やクラス人数を設定する予定である。講義科目については40人~80人/クラス、演習・実習科目については40人以下/クラス、ゼミナールは15人以下/クラスの学生数の設定を予定している。以上により、総合心理学部においては、収容定員の増加による教育方法及び履修指導方法の低下は発生しない。

(3) 教員組織の変更内容

収容定員に係る学則変更により新たに設置する3学部における、教員組織の変更内容について、以下にて説明する。新設する各学部での状況から、3学部ともに教員組織体制の内容の低下は発生しないと考えている。今回の収容定員に係る学則変更及び新学部の設置に伴う専任教員数の変更は、次に示す表3(大学全体)、表4(岡崎キャンパス)の通りである。大学全体(表3)では、収容定員が1,500人から2,020人に増加することにより、専任教員数は105人から119人への増加(+14人)となる。ST比率は14.3から17.0へとわずかな増加にとどまっており、大学全体として、学則変更の前後における教員組織の低下はほぼないと考えている。

表3 収容定員に係る学則変更の前後の専任教員数の推移(大学全体)

【変更前】収容定員増前年度(令和3年度)		【変更後】収容定員増以降の年度(令和4年度以降)	
大学全体	専任教員数	大学全体	専任教員数
(入学定員 375名) (収容定員 1,500名)	105人 【ST比率】14.3	(入学定員 505名) (収容定員 2,020名)	119人 【ST比率】17.0

表4 収容定員に係る学則変更の前後の専任教員数の推移(岡崎キャンパス)

【変更前】収容定員増前年度(令和3年度)			【変更後】収容定員増以降の年度(令和4年度以降)		
学部	学科	専任教員数	学部	学科	専任教員数
人間環境学部 (入学定員 200名) (収容定員 800名)	心理学科 (入学定員120名) (収容定員480名)	18人 【ST比率】 26.7	心理学部 (入学定員150人) (収容定員600人)	心理学科 (入学定員100名) (収容定員400名)	10人 【ST比率】 40.0
				犯罪心理学科 (入学定員50名) (収容定員200名)	8人 【ST比率】 25.0
			学部合計	18人 【ST比率】 33.3	
	環境科学科 (入学定員80名) (収容定員320名)	19人 【ST比率】 16.8	環境科学部 (入学定員100人) (収容定員400人)	フィールド生態科 (入学定員60名) (収容定員240名)	11人 【ST比率】 21.8
環境データサイエンス学 科 (入学定員40名) (収容定員160名)				8人 【ST比率】 20.0	
		学部合計	19人 【ST比率】 21.1		
合 計		37人 【ST比率】 21.6	合 計		37人 【ST比率】 27.0

1) 心理学部

心理学部は、既設の人間環境学部心理学科を学生募集停止して設置する学部であるため、人間環境学部心理学科と心理学部（心理学科、犯罪心理学科）での専任教員数を比較する（表4）。収容定員が480人から600人に増加するのに対し、専任教員数は、18人から18人と同数となる計画であり、S T比率では26.7から33.3に増加しているが、吸収が可能な変化と言えると、1学科を2学科に改組することにより、よりきめの細かい指導が可能になると考えており、心理学部においては、教員組織面での教学環境の低下は発生しないと考えている。

2) 環境科学部

環境科学部は、既設の人間環境学部環境科学科を学生募集停止して設置する学部であるため、人間環境学部環境科学科と環境科学部（フィールド生態学科、環境データサイエンス学科）での専任教員数を比較する（表4）。収容定員が320人から400人に増加するのに対し、専任教員数は、19人から19人と同数となる計画であり、S T比率では16.8から21.1に増加しているが、吸収が可能な変化と言えると、1学科を2学科に改組することにより、よりきめの細かい指導が可能になると考えており、環境科学部においては、教員組織面での教学環境の低下は発生しないと考えている。

3) 総合心理学部

新たに設置する総合心理学部には、収容定員320人に対し専任教員14人が就任する予定（S T比率：22.9）である。この14人は、本学内からの異動ではなく、全員が外部から新たに就任する専任教員であり、専任教員の純増と言える。総合心理学部では、新学部の設置とともに全ての専任教員が新たに着任することから、学則変更の前後における教員組織体制の低下には該当しないと言える。

(4) 大学全体の施設・設備の変更内容

収容定員に係る学則変更の前後における大学全体の施設・設備の変更内容について、以下にて説明する。今回の学則変更（収容定員増加）に関係するのは、本学の4つのキャンパスのうち岡崎キャンパス（心理学部・環境科学部）と松山道後キャンパス（総合心理学部）であるため、その2キャンパス及び大学全体の施設・設備について検証し、収容定員変更の前後において、施設・設備における教育研究環境の低下はなく、同等以上の内容が担保されていることを示す。学則変更の前後における大学全体（4キャンパス）の校地面積、校舎面積の差異についても以下にて示す。

1) 岡崎キャンパス

岡崎キャンパスでは、既設の人間環境学部（収容定員 800 人）を学生募集停止し、心理学部（収容定員 600 人）、環境科学部（収容定員 400 人）を新設することから、同キャンパス内において、収容定員では 200 人の増加となるが、以下に示す根拠により、学則変更の前後において施設・設備面での低下はなく、同等以上の内容を担保する計画となっている。

(校地)

岡崎キャンパスの校地面積は 13,987 m²と十分な面積を擁しており、収容定員 200 人の増加は、支障なく吸収できることを確認している。また体育館（490 m²）、学生が憩える空地、食堂等の厚生施設も整備できている。また、上記の校地面積以外に、38,804.8 m²の演習林も所有しており、主に環境科学部の学外授業等で活用している。また運動場については、大岩グラウンド（6,908 m²、同一法人が運営する岡崎学園高等学校と共有）を使用している。

(校舎)

岡崎キャンパスの校舎面積（延べ床面積、基準内）は 9188.6 m²であり、1号館から5号館までの校舎と、学生棟、食堂棟、実験棟、茶室棟で構成される。全ての棟の合計で、講義室 14 室、演習室 19 室、実験実習室 18 室、他に PC 教室等を備えており、校地と同様に、収容定員に対して十分な余裕をもった施設状況となっている。本学では、心理学部及び環境科学部の設置にあたり、教室利用についてのシミュレーションを行い、岡崎キャンパスにおける 2 学部 4 学科の 4 年間の全科目の時間割、教室の割り当て、教室当たりの収容人数を全て算出している（資料 9）。その教室使用計画のシミュレーションにおいて、心理学部心理学科の収容定員 400 人、心理学部犯罪心理学科の収容定員 200 人、環境科学部フィールド生態学科の収容定員 240 人、環境データサイエンス学科の収容定員 160 人を、講義科目、演習科目、実習科目、ゼミナール科目ともに、余裕をもって教室に収容（野外・学外の実習も含む）できることを確認している。さらに今回の収容定員の増加に合わせて、岡崎キャンパスでは、図書館、食堂の座席数も増加させる計画であり、教室以外の施設・設備においても、教学環境・学生の生活環境の向上に努める。

以上の検証により、岡崎キャンパスにおける増加分の収容定員 200 人については、教学環境を

低下させることなく十分に収容できることを確認している。

(資料9：岡崎キャンパス(心理学部・環境科学部) 教室使用計画)

2) 松山道後キャンパス

新たに設置する松山道後キャンパスは、本学が新たに設置する4番目のキャンパスであり、かつて郵政省・日本郵政グループの研修センターであった施設を、大学の教育研究にふさわしい形で全面的に改装し、総合心理学部を設置するものである。校地は借地であるが、2045年12月までの25年の長期契約となっており、その後の契約更新も可能となっている。松山道後キャンパスは、校地面積8,001.8㎡(運動場面積を除く)の敷地の中に1号館(5階建て、延べ床面積4,439.5㎡)と2号館(5階建て同4,053.2㎡)の2棟(合計延べ床面積8,492.7㎡、うち基準内の校舎面積7,622.8㎡)が配置され、渡り廊下で接続される。また敷地内には1,144.1㎡の運動場(テニスコート等)を整備しており、課内及び課外の学生のスポーツ活動に利用する。校舎内には、講義室10室、演習室12室、実験実習室11室、OA教室4室、研究室30室の他に、図書館(座席数69席、15,000冊収納可能)、講堂、学生ホール等を整備する計画である。松山道後キャンパスは、総合心理学部(入学定員80人・収容定員320人)のみで使用する計画であるため、収容定員に対して、十分な校舎面積、教室、演習室、研究室等の教育研究施設を備えており、心理学の教育研究にふさわしい設備、備品、図書も整備する計画である。総合心理学部における教室利用計画は(資料10)に示している。以上により、松山道後キャンパスにおいては、収容定員の増加による施設・設備面での教学環境の低下はない。

(資料10：松山道後キャンパス(総合心理学部) 教室使用計画)

3) 大学全体

今回の学則変更の前後における収容定員、校地面積、校舎面積(基準内)の変化は以下の通りである。学則変更の前後において、学生1人当たりの校地面積については15.6㎡から15.5㎡とほぼ変化はなく、学生1人当たりの校舎面積(基準内)についても14.2㎡から14.3㎡とほぼ変化はないため、大学全体での校地面積、校舎面積における教学環境の低下は発生していないことが示されている。

	学則変更前 (令和3年度)	学則変更後 (令和4年度)
収容定員	1,500人	2,020人
校地面積	23,368.9㎡	31,370.7㎡
校地面積/収容定員 (学生1人当たり校地面積)	15.6㎡/人	15.5㎡/人
校舎面積(基準内)	21,244.2㎡	28,867.0㎡
校舎面積/収容定員 (学生1人当たり校舎面積)	14.2㎡/人	14.3㎡/人

以上

学則の変更の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 1	心理学部心理学科 教育課程等の概要	P2
資料 2	心理学部犯罪心理学科 教育課程等の概要	P5
資料 3	環境科学部フィールド生態学科 教育課程等の概要	P8
資料 4	環境科学部環境データサイエンス学科 教育課程等の概要	P11
資料 5	総合心理学部総合心理学科 教育課程等の概要	P14
資料 6	愛媛県知事からの学部開設の要望書	P17
資料 7	愛媛経済同友会からの学部開設の賛同書	P18
資料 8	松山商工会議所からの学部開設の賛同書	P19
資料 9	岡崎キャンパス教室（心理学部・環境科学部）使用計画	P20
資料 10	松山道後キャンパス教室（総合心理学部）使用計画	P22

教 育 課 程 等 の 概 要														
(心理学部心理学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
学 部 共 通 科 目	人間環境学	1前	2			○								
	基礎ゼミナールⅠ	1前	2				○		1	1	3	1		兼1
	基礎ゼミナールⅡ	1後	2				○		1	1	3	1		兼1
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1前		2		○			1					
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2前		1				○	1					
	キャリアデザイン	1前	2			○								兼1
	ビジネスコミュニケーション	3前		2		○								兼1
	キャリア形成演習	3後		1				○						兼1
	情報実習Ⅰ	1前	1					○						兼1
	情報実習Ⅱ	1後	1					○						兼1
	スポーツ実習	1後		1				○						兼1
	英語Ⅰ	1前	2			○								兼2
	英語Ⅱ	1後	2			○								兼2
	英語Ⅲ	2前		2		○								兼1
	英語Ⅳ	2後		2		○								兼1
	英会話Ⅰ	1前		2				○						兼1
	英会話Ⅱ	1後		2				○						兼1
	ドイツ語Ⅰ	1前		2		○					1			
	ドイツ語Ⅱ	1後		2		○					1			
	日本語表現論	1前		2		○			1					
	芸術文化論	1後		2		○								兼1
	言語学	1後		2		○								兼1
	生態系の機能と社会	1前		2		○								兼1
	自然地理学	1前		2		○								兼1
	海と川の生物学	1前		2		○								兼1
	環境情報リテラシー	1前		2		○								兼1
	社会環境調査概論	1前		2		○								兼1
	現代社会と経済	1前		2		○								兼1
	環境昆虫学	1後		2		○								兼1
	生態系における物質循環	1後		2		○								兼1
	環境情報と社会	1後		2		○								兼1
	環境リサーチ&プランニング	1後		2		○								兼1
	生物資源学	2後		2		○								兼1
	環境と多文化共生	2後		2		○								兼1
小計(34科目)		—	14	49	0	—			1	1	3	1	0	兼16

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
心理学基礎科目	心理学概論	1前	4			○									兼1		
	心理学研究法	1前	2			○						1					
	心理学統計法	1後	4			○				1							
	心理学とキャリア	1後	2			○			1								
	実践・研究スキル科目	心理学基礎実習Ⅰ	2前		2				○		1					兼5	
		心理学基礎実習Ⅱ	2後		2				○		1					兼5	
		心理学データ解析	2前		2			○				1				兼1	
		心理学プロゼミナール	2前	2				○			2	1					
		心理学文献講読	2後		2			○				1					
		心理学英語文献講読	3前		2			○								兼1	
		心理学専門文献講読	3後		2			○					1				
		心理学実験法	2後		2			○					1			兼1	
		心理学調査法	3前		4			○				1				兼1	
		心理学面接法	3前		4			○						1			
		心理演習	3前		2			○			1		1				
		心理実習	3通		2					○	2	2	1				兼1
		心理学ケース研究	3後		2				○		1						
小計 (17科目)	—		14	28	0		—		2	3	2	1	0	兼10	—		
心理学専門領域科目	臨床・障害領域	臨床心理学概論	1後	2			○						1				
		健康・医療心理学	2前	2			○									兼1	
		公認心理師の職責	2前		2		○									兼1	
		障害者・障害児心理学	2後		2		○									兼1	
		心理学的支援法	3前		2		○									兼1	
		心理的アセスメント	3後		2		○									兼1	
		心理療法論	3前		2		○									兼1	
	精神疾患とその治療	3後		2		○									兼1		
	子ども・発達領域	発達心理学	1前	4			○					1					
		教育・学校心理学	1後	2			○				1						
		学習・言語心理学	2前		2		○						1				
		人間存在論	1後		2		○						1				
		教育思想	2後		2		○						1				
		福祉心理学	3前		2		○									兼1	
		子どもの心理療法	3後		2		○					1					
	スクールカウンセリング	4前		2		○									兼1		
	対人・社会領域	社会・集団・家族心理学	2前	2			○					1					
		関係行政論	2前		2		○									兼1	
		感情・人格心理学	2後		2		○									兼1	
		対人関係論	1後	2			○									兼1	
		産業・組織心理学	3前		2		○					1					
		消費者心理学	3後		2		○									兼1	
		犯罪行動科学	3後		2		○									兼1	
	コミュニケーション論	2後		2		○									兼1		
小計 (24科目)	—		14	36	0		—		0	3	3	1	0	兼13	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
心理学専門隣接科目	知覚・認知心理学	2前		2		○									兼1
	法と倫理	2前		2		○					1				
	司法・犯罪心理学	2後		2		○									
	人体の構造と機能及び疾病	2後		2		○									
	神経・生理心理学	3後		2		○									
	被害者心理学	4前		2		○									
	小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	0	0	1	0	0	兼4	—
卒業研究・卒業論文	総合演習Ⅰ	3前	2				○		2	3	3	1			
	総合演習Ⅱ	3後	2				○		2	3	3	1			
	総合演習Ⅲ	4前	2				○		2	3	3	1			
	総合演習Ⅳ	4後	2				○		2	3	3	1			
	卒業論文	4通	6				○		2	3	3	1			
		小計(5科目)	—	14	0	0	—	—	—	2	3	3	1	0	0
合計(86科目)		—	56	125	0	—	—	—	3	3	3	1	0	兼34	—
学位又は称号		学士(心理学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目56単位(学部共通科目より14単位、心理学科基盤科目より14単位、心理学専門領域科目より14単位、卒業研究・卒業論文より14単位)、選択必修科目28単位以上(心理学科基盤科目の実践・研究スキル科目より8単位以上、心理学専門領域科目より16単位以上(主領域8単位以上、副領域各4単位以上)、心理学専門隣接科目より4単位以上を修得し、学部共通科目(選択)、心理学科基盤科目(選択)、心理学専門領域科目(選択)、心理学専門隣接科目より42単位以上修得し、126単位以上修得すること。(履修科目・上限46単位(年間))							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(心理学部犯罪心理学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学 部 共 通 科 目	人間環境学	1前	2			○									兼1
	基礎ゼミナールⅠ	1前	2				○				3	1			
	基礎ゼミナールⅡ	1後	2				○				3	1			
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1前		2		○									兼1
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2前		1				○							兼1
	キャリアデザイン	1前	2			○									兼1
	ビジネスコミュニケーション	3前		2		○									兼1
	キャリア形成演習	3後		1				○							兼1
	情報実習Ⅰ	1前	1					○							兼1
	情報実習Ⅱ	1後	1					○							兼1
	スポーツ実習	1後		1					○		1				
	英語Ⅰ	1前	2			○				1					兼1
	英語Ⅱ	1後	2			○				1					兼1
	英語Ⅲ	2前		2		○				1					
	英語Ⅳ	2後		2		○				1					
	英会話Ⅰ	1前		2				○							兼1
	英会話Ⅱ	1後		2				○							兼1
	ドイツ語Ⅰ	1前		2		○									兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		2		○									兼1
	日本語表現論	1前		2		○									兼1
	芸術文化論	1後		2		○				1					
	言語学	1後		2		○				1					
	生態系の機能と社会	1前		2		○									兼1
	自然地理学	1前		2		○									兼1
	海と川の生物学	1前		2		○									兼1
	環境情報リテラシー	1前		2		○									兼1
	社会環境調査概論	1前		2		○									兼1
	現代社会と経済	1前		2		○									兼1
	環境昆虫学	1後		2		○									兼1
	生態系における物質循環	1後		2		○									兼1
	環境情報と社会	1後		2		○									兼1
	環境リサーチ&プランニング	1後		2		○									兼1
	生物資源学	2後		2		○									兼1
	環境と多文化共生	2後		2		○									兼1
小計 (34科目)		—	14	49	0		—		2	0	3	1	0	兼16	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
犯罪心理学基盤科目	心理学概論	1前	4			○				1					
	心理学研究法	1前	2			○									兼1
	発達心理学	1前	4			○									兼1
	心理学統計法	1後	4			○									兼1
	心理学とキャリア	1後	2			○									兼1
	臨床心理学概論	1後	2			○									兼1
	教育・学校心理学	1後		2		○									兼1
	人間存在論	1後		2		○									兼1
	知覚・認知心理学	2前	2			○				1					
	社会・集団・家族心理学	2前	2			○									兼1
	心理学データ解析	2前		2			○					1			兼1
	行動科学基礎実験	2前		2				○		1	1	2			
	学習・言語心理学	2前		2		○									兼1
	関係行政論	2前		2		○									兼1
	健康・医療心理学	2前		2		○							1		
	公認心理師の職責	2前		2		○									兼1
	感情・人格心理学	2後	2			○						1			
	心理学実験法	2後		2			○				1				兼1
	心理検査法実習	2後		2				○					1		兼2
	心理学文献講読	2後		2			○					1			
	障害者・障害児心理学	2後		2		○									兼1
	人体の構造と機能及び疾病	2後		2		○									兼1
	産業・組織心理学	3前	2			○									兼1
	心理実習	3通		2				○				1			兼5
	心理演習	3前		2			○								兼2
	心理学的支援法	3前		2		○									兼1
	心理学調査法	3前		4			○								兼2
	福祉心理学	3前		2		○						1			
	心理的アセスメント	3後		2		○									兼1
	神経・生理心理学	3後		2		○					1				
	精神疾患とその治療	3後		2		○									兼1
	消費者心理学	3後		2		○					1				
小計 (32科目)		—	26	46	0	—			1	1	3	1	0	兼17	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
犯罪心理学発展科目	法と倫理	1前	2			○									兼1	
	刑事政策論	2前	2			○			1							
	刑事法	2後	2			○			1							
	供述心理学	2後		2		○			1							
	供述心理学特論 (目撃証言の心理学)	3前		2		○			1							
	犯罪科学領域	犯罪心理学概論 (司法・犯罪心理学)	1後	4			○					1				
		犯罪社会学	2前	2			○					1				
		犯罪行動科学	2後	2			○					1				
	犯罪臨床領域	矯正心理学	2後	2			○					1				
		犯罪臨床演習	3前		2			○				1				
		犯罪臨床事例研究	3後		2			○				1				
		被害者心理学	4前		2		○						1			
	捜査・防犯領域	捜査心理学	2前	2			○					1				
		捜査心理学演習	2後		2			○					1			
		捜査事例研究	3前		2			○				1				
		防犯科学	3後	2			○						1			
	小計 (16科目)	—	20	14	0	—			1	0	3	1		兼1	—	
卒業研究・卒業論文	総合演習Ⅰ	3前	2				○		1	1	3	1				
	総合演習Ⅱ	3後	2				○		1	1	3	1				
	総合演習Ⅲ	4前	2				○		1	1	3	1				
	総合演習Ⅳ	4後	2				○		1	1	3	1				
	卒業論文	4通	6				○		1	1	3	1				
	小計 (5科目)	—	14	0	0	—			1	1	3	1	0		—	
合計 (87科目)		—	74	109	0	—			3	1	3	1	0	兼31	—	
学位又は称号		学士 (心理学)			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目74単位 (学部共通科目より14単位、犯罪心理学基盤科目 (必修) より26単位、犯罪心理学発展科目より20単位、卒業研究・卒業論文より14単位)、犯罪心理学基盤科目 (選択) より14単位以上を修得し、学部共通科目 (選択)、犯罪心理学基盤科目 (選択)、犯罪心理学発展科目より52単位以上修得し、合計126単位以上修得すること。(履修科目・上限46単位 (年間))								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(環境科学部フィールド生態学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部 共通 科目	人間環境学	1前	2			○								兼1	
	基礎ゼミナールⅠ	1前	2				○			1	1	2			
	基礎ゼミナールⅡ	1後	2				○			1	1	2			
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2前		1				○						兼1	
	キャリアデザイン	1前	2			○								兼1	
	ビジネスコミュニケーション	3前		2		○								兼1	
	キャリア形成演習	3後		1				○						兼1	
	情報処理実習Ⅰ	1前	1					○						兼2	
	情報処理実習Ⅱ	1後	1					○						兼2	
	スポーツ実習	1後		1					○					兼1	
	英語Ⅰ	1前	2			○								兼1	
	英語Ⅱ	1後	2			○								兼1	
	英語Ⅲ	2前		2		○								兼1	
	英語Ⅳ	2後		2		○								兼1	
	英会話Ⅰ	1前		2			○							兼1	
	英会話Ⅱ	1後		2				○						兼1	
	ドイツ語Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	ドイツ語Ⅱ	1後		2		○								兼1	
	日本語表現論	1前		2		○								兼1	
	芸術文化論	1後		2		○								兼1	
	言語学	1後		2		○								兼1	
	SDGs概論	1後	2			○				2	1	1		兼8	オムニバス
	地域環境ガバナンス	3後		2					○	1					
	ビジネス英語	2前		2		○								兼1	
	臨床心理学概論	1後		2		○								兼1	
	教育・学校心理学	1後		2		○								兼1	
	人間存在論	1後		2		○								兼1	
	学習・言語心理学	2前		2		○								兼1	
	社会・集団・家族心理学	2前		2		○								兼1	
	知覚・認知心理学	2前		2		○								兼1	
	法と倫理学	2前		2		○								兼1	
	感情・人格心理学	2後		2		○								兼1	
	産業・組織心理学	3前		2		○								兼1	
小計 (34 科目)		—	16	47	0	—			2	1	1	2	0	兼21	—
フィールド 生態 科目	生態系の機能と社会	1前	2			○			1						
	自然地理学	1前	2			○			1						
	基礎生物学	1前	2			○				1					
	フィールド生態学入門	1前	4			○			4	2	3	2			オムニバス・ 共同 (一部)
	海と川の生物学	1前		2		○					1				
	森林管理実習	1前		1				○	1						
	奥山・里山管理実習	1前		1				○				1			
	海洋ダイビング実習	1前		1				○					1		
	環境と生物の進化	1後	2			○				1					
	基礎生態学	1後	2			○				1					
	基礎数学	1後	2			○			2						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
フィールド生態共通科目	フィールド生態学基礎実習	1後	2					○		1	1	1		兼1 共同
	コミュニケーションスキルズ	1後	2			○								
	環境昆虫学	1後		2		○					1			
	生態系における物質循環	1後		2		○			1					
	学術論文講読Ⅰ	2前	2				○		2		2			
	学術論文講読Ⅱ	2後	2				○		2		2			
	統計プログラミング実習	2前	1					○				1	1	
	統計処理法	2後	4			○				1	1			
	生物多様性	3前	2			○				1				
	地理情報処理法	3前	2			○			1			1		
	海洋生態学	2前		2		○						1		
	景観生態学	2前		2		○						1		
	ビオトープ論	2前		2		○						1		
	フィールド生態学演習Ⅰ	3前	2				○		4	2	3	2		
	フィールド生態学演習Ⅱ	3後	2				○		4	2	3	2		
	フィールド生態学演習Ⅲ	4前	2				○		4	2	3	2		
	フィールド生態学演習Ⅳ	4後	2				○		4	2	3	2		
	農業基礎実習Ⅰ	2前		2				○	1					
	農業基礎実習Ⅱ	2後		2				○	1					
	潮間帯リサーチ入門	2前		1				○				1		
	インタープリテーション実習	2前		1				○				1		
	インターンシップⅠ	2前		1				○					1	
	インターンシップⅡ	3前		1				○	1					
水族館展示実習	2前		1				○							
森林生態学	2後		2		○						1			
河川生態学	2後		2		○			1						
環境気象学	2後		2		○			1						
生物資源学	2後		2		○									
動物園・水族館実習	2通		1				○		1	1				
環境アセスメント論	3前		2		○									
動物飼養管理学	3前		2		○									
小計(42科目)		—	41	37	0		—		4	2	3	2	0	兼5
共通物 科 目 態	動物分類学	2前		2		○					1			
	動物行動学	2後		2		○					1			
	動物生態基礎実習	2後		2				○	1		1	1		共同
	小計(3科目)		—	0	6	0		—	1	0	2	1	0	—
生 陸 生 科 目 物	野生動物管理学	3前		2		○				1				
	陸生動物保全学	3後		2		○						1		
	陸生動物生態実習	3通		4				○		1	1	1		オムニバス・共同(一部)
	小計(3科目)		—	0	8	0		—	0	1	1	1	0	—
生 水 生 科 目 物	水生動物保全学	3前		2		○			1					
	海洋資源管理学	3後		2		○						1		
	水生動物生態実習	3通		4				○	1		1	1		オムニバス・共同(一部)
	小計(3科目)		—	0	8	0		—	1	0	1	1	0	—
植 物 生 態 科 目	植物分類学	2前		2		○				1				
	植物生態基礎実習	2前		2				○		1	1			共同
	緑化・栽培概論	2後		2		○						1		兼1
	緑地・森林管理学	3前		2		○						1		
	環境適応型農業	3後		2		○			1					
	植物生態実習	3通		4				○	1	1	1			オムニバス・共同(一部)
	小計(6科目)		—	0	14	0		—	1	1	1	0	0	兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
フィールド生態科目	生態系機能評価科目	2前		2		○			1							
	環境化学の基礎	2前		2				○	1							
	基礎化学実験	2後		2				○	1							
	環境化学実験	3前		2		○			1							
	流域環境学	3後		2		○			1							
	生態系機能評価学	3通		4				○	2							
	生態系機能評価実験															
小計 (6 科目)		—	0	14	0	—	—	2	0	0	0	0	0			オムニバス
小計 (63科目)			41	87	0	—	—	4	2	3	2	0	兼6			—
環境データサイエンス科目	環境情報リテラシー	1前		2		○										兼1
	社会環境調査概論	1前		2		○										兼1
	環境リスク概論	1前		2		○										兼1
	現代社会と経済	1前		2		○										兼1
	環境情報と社会	1後		2		○										兼1
	環境リサーチ&プランニング	1後		2		○										兼1
	環境経済学入門	1後		2		○										兼1
	環境倫理	1後		2		○										兼1
	データサイエンス概論	2前		2		○										兼1
	社会環境調査法 I	2前		1				○								兼1
	社会環境調査法 II	2後		1				○								兼1
	環境政策	2前		2		○										兼1
	国際協力論	2前		2		○										兼1
	農業・情報キャリア論	2後		2		○										兼1
	地域エコ・フィールド社会実習	2後		2				○								兼1
	環境と開発	2後		2		○										兼1
	環境法制	2後		2		○										兼1
	環境と多文化共生	2後		2		○										兼1
	環境調査分析	2後		2		○										兼1
	スマートアグリ概論	3前		2		○										兼1
	環境経済学史	3前		2		○										兼1
	環境センシング実習	3後		1				○								兼1
	地球環境変動論	3後		2		○										兼1
小計 (23 科目)			0	43	0	—	—	0	0	0	0	0	兼13			—
卒業論文	卒業論文	4通	6	0	0		○		4	2	3	2	0			
	小計 (1 科目)		—	6	0	0	—	—	4	2	3	2	0	兼0		—
合計 (121科目)			—	63	177	0	—	—	4	2	3	2	0	兼30		—
学位又は称号		学士 (環境科学)			学位又は学科の分野			農学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
学部共通科目の必修科目から16単位、環境データサイエンス科目の選択科目から8単位を修得する。また、フィールド生態科目から、フィールド生態共通科目の必修科目41単位に加え、動物生態共通科目と陸生動物生態科目の全てか、動物生態共通科目と水生動物生態科目の全てか、植物生態科目の全てか、生態系機能評価科目の全てかのどれかを含んで、合計24単位を修得する。さらに、学部共通科目と、フィールド生態科目と、環境データサイエンス科目の選択科目から、31単位以上を修得する。以上に卒業論文6単位を加え、合計126単位以上を修得すること。(履修科目の上限・46単位(年間))								1 学年の学期区分				2期				
								1 学期の授業期間				15週				
								1 時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要														
(環境科学部環境データサイエンス学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学部共通科目	人間環境学	1前	2			○								兼1
	基礎ゼミナールⅠ	1前	2				○		1		1	1		
	基礎ゼミナールⅡ	1後	2				○		1		1	1		
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1前		2		○								兼1
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2前		1				○						兼1
	キャリアデザイン	1前	2			○								兼1
	ビジネスコミュニケーション	3前	2			○								兼1
	キャリア形成演習	3後	1					○						兼1
	情報処理実習Ⅰ	1前	1					○	1					
	情報処理実習Ⅱ	1後	1					○	1					
	スポーツ実習	1後		1				○						兼1
	英語Ⅰ	1前	2			○						1		
	英語Ⅱ	1後	2			○						1		
	英語Ⅲ	2前		2		○								兼1
	英語Ⅳ	2後		2		○								兼1
	英会話Ⅰ	1前		2			○					1		
	英会話Ⅱ	1後		2			○					1		
	ドイツ語Ⅰ	1前		2		○								兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		2		○								兼1
	日本語表現論	1前		2		○								兼1
	芸術文化論	1後		2		○								兼1
	言語学	1後		2		○								兼1
	SDGs概論	1後	2			○			4		2	2		兼4 オムニバス
	地域環境ガバナンス	3後		2				○						兼1
	ビジネス英語	2前		2		○						1		
	臨床心理学概論	1後		2		○								兼1
	教育・学校心理学	1後		2		○								兼1
	人間存在論	1後		2		○								兼1
	学習・言語心理学	2前		2		○								兼1
	社会・集団・家族心理学	2前		2		○								兼1
	知覚・認知心理学	2前		2		○								兼1
	法と倫理	2前		2		○								兼1
	感情・人格心理学	2後		2		○								兼1
	産業・組織心理学	3前		2		○								兼1
小計(34科目)		—	16	47	0	—			4	0	2	2	0	兼11
環境データサイエンス科目	環境情報リテラシー	1前	2			○			1					
	三河に学ぶ	1前	1					○			1			
	社会環境調査概論	1前	2			○						1		
	環境情報と社会	1後	2			○			1					
	環境リサーチ&プランニング	1後	2			○						1		
	データサイエンス概論	2前	2			○			1					
	社会環境調査法Ⅰ	2前	1					○			1			
	社会環境調査法Ⅱ	2後	1					○				1		
	農業・情報キャリア論	2後	2			○					1			
	学術文献講読Ⅰ	2前	2				○		1		1	1		
	学術文献講読Ⅱ	2後	2				○		1		1	1		
	環境データサイエンス演習Ⅰ	3前	2				○		4		2	1		
	環境データサイエンス演習Ⅱ	3後	2				○		4		2	1		
	環境データサイエンス演習Ⅲ	4前	2				○		4		2	1		
	環境データサイエンス演習Ⅳ	4後	2				○		4		2	1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
環境データサイエンス共通科目	環境センシング実習	3後	1					○							兼1
	海外エコ・フィールド社会実習	2後		4				○			1	1			
	地域エコ・フィールド社会実習	2後		2				○				1			
	スマートアグリ概論	3前		2			○								兼1
	インターンシップ	3前		1					○						
	環境データサイエンスプロジェクト	3前	2					○		1			1		
	小計 (21 科目)		—	30	9	0		—		4	0	2	2	0	兼2
環境情報基本科目	環境リスク概論	1前		2			○					1			
	基礎数学	1後		2			○					1			
	環境統計解析学基礎	2前		4			○					1			
	環境プログラミング基礎	2後		4			○		1						
	環境調査分析	2後		2			○				1				
	環境データ循環学	2後		2			○		1						
	地理空間情報学	3前		2			○		1						
	環境ビッグデータ解析	3前		2			○		1						
	人工知能と機械学習	3後		2			○		1						
	小計 (9 科目)		—	0	22	0		—		2	0	1	0	0	0
環境情報展開科目	Rプログラミング入門	1後		2			○		1						
	情報メディア概論	2前		2			○		1						
	環境統計解析学応用	2後		2			○								兼1
	環境プログラミング応用	3前		2			○		1						
	物質循環解析	3前		2			○				1				
	環境情報ビジネス実習	3前		1					1						
	環境ビジュアライゼーション	3後		2			○								兼1
	都市・自然環境IoT	3後		2			○		1						
環境データベース入門	3後		2			○								兼1	
小計 (9 科目)		—	0	17	0		—		2	0	1	0	0	兼2	—
社会環境基本科目	サステナブルマネジメント	1前		2			○		1						
	現代社会と経済	1前		2			○		1						
	環境経済学入門	1後		2			○		1						
	エコツーリズム入門	2前		4											兼1
	環境政策	2前		2			○								兼1
	環境と開発	2後		2			○				1				
	グローバル化と地域社会	3前		2			○					1			
	食料安全保障と栄養	3前		2			○					1			
	環境社会学	3後		2			○						1		
	環境エネルギー論	3後		2			○		1						
小計 (10 科目)		—	0	22	0		—		2	0	1	1	0	兼2	—
社会環境展開科目	環境倫理	1後		2			○								兼1
	企業会計	1後		4			○		1						
	新時代の国際貿易と環境リスク	2前		2			○		1						
	国際協力論	2前		2			○				1				
	経営データ・ESG投資分析	2通		4			○		1						兼1 オムニバス
	環境法制	2後		2			○								兼1
	環境と多文化共生	2後		2			○					1			
	環境経済学史	3前		2			○		1						
	環境経営	3前		2			○								兼1
	地球環境変動論	3後		2			○								兼1
	地域経済	3後		2			○								兼1
小計 (11 科目)		—	0	26	0		—		2	0	1	1	0	兼5	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
フィールド生態科目	生態系の機能と社会	1前		2		○									兼1
	自然地理学	1前		2		○									兼1
	海と川の生物学	1前		2		○									兼1
	基礎生態学	1後		2		○									兼1
	環境昆虫学	1後		2		○									兼1
	生態系における物質循環	1後		2		○									兼1
	海洋生態学	2前		2		○									兼1
	景観生態学	2前		2		○									兼1
	ピオトープ論	2前		2		○									兼1
	森林生態学	2後		2		○									兼1
	河川生態学	2後		2		○									兼1
	環境気象学	2後		2		○									兼1
	生物資源学	2後		2		○									兼1
	環境アセスメント論	3前		2		○									兼1
小計 (13 科目)		—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	0	兼12
卒業論文	卒業論文	4通	6	0	0		○		4		2	1			
小計 (1 科目)		—	6	0	0	—			4	0	2	1	0		兼0
合計 (109 科目)		—	52	171	0	—			4	0	2	2	0		兼33
学位又は称号	学士 (環境科学)		学位又は学科の分野				農学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
学部共通科目から必修科目を16単位、フィールド生態科目から8単位を修得する。また、環境データサイエンス科目から、環境データサイエンス共通科目の必修科目30単位に加え、環境情報領域であれば、環境情報基本科目の22単位の全てと環境情報展開科目から8単位と社会環境科目から12単位を、社会環境領域であれば、社会環境基本科目の22単位の全てと社会環境展開科目から8単位と環境情報科目から12単位を、合計42単位修得する。さらに、学部共通科目と、環境データサイエンス科目と、フィールド生態科目の選択科目から、24単位以上を修得する。以上に卒業論文6単位を加え、合計126単位以上を修得すること。(履修科目の上限・46単位(年間))							1 学年の学期区分		2期						
							1 学期の授業期間		15週						
							1 時限の授業時間		90分						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(総合心理学部総合心理学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
一般教養科目	英語 I	1前	2			○				1					
	英語 II	1後	2			○				1					
	英語講読 I	2前	2			○								兼2	
	英語講読 II	2後	2			○								兼2	
	ドイツ語 I	1前		2		○								兼1	
	ドイツ語 II	1後		2		○								兼1	
	フランス語 I	1前		2		○								兼1	
	フランス語 II	1後		2		○								兼1	
	経済学	1前		2		○								兼1	
	政治学	1前		2		○								兼1	
	法学	1後		2		○								兼1	
	経営学	1後		2		○								兼1	
	日本史A	1前		2		○								兼1	
	日本史B	1後		2		○								兼1	
	西洋史A	1前		2		○								兼1	
	西洋史B	1後		2		○								兼1	
	科学哲学	1前		2		○								兼1	
	哲学史A	1前		2		○								兼1	
	哲学史B	1後		2		○								兼1	
	情報リテラシー I	1前	1						○					兼1	
	情報リテラシー II	1後	1						○					兼1	
	情報リテラシー III	2前		1					○					兼1	
	体育	1前		1					○					兼1	
小計 (23科目)		-	10	32	0			-	0	1	0	0	0	兼15	-
基盤教養科目	人間環境学	1前	2			○								兼1	
	心理学概論	1前	2			○			1						
	こころは数値化できるか	1前	2			○					1				
	こころとは何か (動物・人間・AI)	1後	2			○			1						
	心理学とキャリア	2後		2		○				1					
	科学と人間 (科学の可能性と限界)	2前	2			○			1						
小計 (6科目)		-	10	2	0			-	3	1	1	0	0	兼1	-
基盤スキル科目	基礎ゼミナール (初級心理学実習)	1前	2					○	1	1	3				
	心理学研究法	1後	2			○			1						
	心理学統計法 I	1後	4			○					1				
	心理学統計法 II	2前	4			○					1				
	心理学調査実習	2前	2					○		1	1				
	心理データ解析法	2前	2					○		1	1				
	心理学実験 I	2後	2					○		1	1			兼2	
	心理学実験 II	3前	2					○		1	1			兼2	
	心理学実験計画法	3後		2		○				1					
	心理調査計画法	3後		2		○					1				
	心理臨床領域における研究法	3後		2		○					1				
	心理学テクニカルライティング	3通		2		○			1						
	心理学英語文献講読	3前		4		○				1					
小計 (13科目)		-	20	12	0			-	2	2	5	0	0	兼2	-

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤専門科目	発達心理学	1前	2			○			1							
	臨床心理学概論	1後	2			○			1							
	知覚・認知心理学	2前	4			○					1					
	学習・言語心理学	2後	4			○			1							
	感情・人格心理学	1後	4			○				1						
	社会・集団・家族心理学	2後	4			○				1						
	健康・医療心理学	2後		2		○					1					
	神経・生理心理学	3前	4			○			1							
	文化心理学 (国際コミュニケーションのために)	3前		2		○									兼1	
	進化心理学 (こころの由来)	3後		2		○				1						
	司法・犯罪心理学	3後		2		○			1							
	教育・学校心理学	4前		2		○									兼1	
	産業・組織心理学	3前		2		○				1						
	小計 (13科目)	-		24	12	0				3	3	2	0	0	兼2	-
高度専門科目	心理学プロゼミナールⅠ	1前		1			○		1							
	心理学プロゼミナールⅡ	1後		1			○		1							
	心理学プロゼミナールⅢ	2前		1			○		1							
	心理学プロゼミナールⅣ	2後		1			○		1							
	意思決定の科学	2前		2		○									兼1	
	ストレス科学	2前		2		○			1							
	色彩の心理学	2前		2		○									兼1	
	赤ちゃんの世界 (生涯発達心理学Ⅰ)	3後		2		○									兼1	
	子どもからおとなへの認知発達 (生涯発達心理学Ⅱ)	2後		2		○			1							
	高齢者の世界 (生涯発達心理学Ⅲ)	3前		2		○									兼1	
	消費者の心理学 (買う側の心理学)	2前		2		○				1						
	マーケティングの心理学 (売る側の心理学)	2後		2		○				1						
	依存症の心理学	2前		2		○					1					
	バーチャルリアリティの心理学	2後		2		○					1					
	ポジティブヘルス論 (健康生成の心理学)	3前		2		○					1					
	視覚の心理学	2後		2		○			1							
	恋愛心理学	2後		2		○			1							
	顔認知とコミュニケーション	3前		2		○				1						
	ギャンブルの心理学	3前		2		○					1					
	モチベーションの心理学	3後		2		○					1					
	マインドフルネスの心理学	3後		2		○			1							
	アドバンスト心理療法Ⅰ (行動療法)	2後		2		○					1					
	アドバンスト心理療法Ⅱ (認知行動療法)	3前		2		○			1							
	アドバンスト心理療法Ⅲ (遊戯・芸術療法)	4前		2		○				1						
	アドバンスト心理療法Ⅳ (精神分析療法)	4前		2		○									兼1	
	アドバンスト心理療法Ⅴ (人間性心理学)	4後		2		○									兼1	
	心理学統計法Ⅲ	3前		4		○					1					
	心理的アセスメント	3後		4				○		1	2					
	アドバンスト調査実習 (アンケート調査作成の実践)	3後		4				○		1	1					
	心理プログラミング	3後		2				○							兼1	
小計 (30科目)	-		0	62	0				5	4	5	0	0	兼7	-	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
演習科目	総合演習Ⅰ	3前	1				○		5	4	5				
	総合演習Ⅱ	3後	1				○		5	4	5				
	総合演習Ⅲ	4前	1				○		5	4	5				
	総合演習Ⅳ	4後	1				○		5	4	5				
	卒業論文	4通	6				○		5	4	5				
	小計(5科目)	-	10	0	0		-		5	4	5	0	0	兼0	-
公認心理師関連科目	人体の構造と機能及び疾病	1前		2		○					1				
	精神疾患とその治療	1後		2		○					1				
	障害者・障害児心理学	2前		2		○				1					
	心理学的支援法	2前		2		○			1						
	福祉心理学	2後		2		○					1				
	公認心理師の職責	3前		2		○				1					
	関係行政論	3後		2		○									兼5
	心理演習	3後		2			○		1	1	2				
	心理実習	4通		2				○	1	1	2				
	小計(9科目)	-	0	18	0		-		1	1	2	0	0	兼5	-
合計(99科目)		-	74	138	0		-		5	4	5	0	0	兼32	-
学位又は称号		学士(心理学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目74単位(一般教養科目より10単位、基盤教養科目より10単位、基盤スキル科目より20単位、基盤専門科目より24単位、演習科目より10単位)、選択必修科目28単位(一般教養科目より10単位、基盤スキル科目より2単位、基盤専門科目より4単位、高度専門科目より12単位)を修得し、選択科目として一般教養科目・基盤教養科目・基盤スキル科目・基盤専門科目・高度専門科目・公認心理師関連科目より24単位以上を修得し、126単位以上修得すること。(履修科目・上限46単位(年間))							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

要 望 書

愛媛県では、急速な少子高齢化の進展に伴い、今後、労働力人口の減少が見込まれる中、移住・定住の促進等による人口減少の抑制のほか、県内産業の持続的発展に向け、地域企業のニーズを踏まえ、専門的な知識や技能を備えた人材の育成などに取り組んでいるところです。

現在、高校卒業生の概ね7割が大学等へ進学し、その約半数が県外大学等へ進学している状況であり、学生の県外への流出を抑制し、県内企業の中核を担う人材を確保していくためには、県内高等教育機関の機能強化が急務となっています。

このような中、県内の経済団体から、心理学関連分野において多数の学生が県外大学等へ流出している現状に鑑み、地域経済の活性化のためには、貴法人における総合心理学部(仮称)の設置により、先端的な心理学や統計学を学び、マーケティングやデータサイエンス、ITなどの分野に貢献しうる人材を県内で育成し、定着させることが重要であり、県としても貴法人における県内での学部開設を後押ししてほしいとの強い要望が寄せられております。

人間環境大学が脳科学から人文学・社会学・経営学・経済学までを統合する心理学部を松山市内に設置されることは、人口減少の抑制や県内経済の活性化にとどまらず、働き方改革の推進に伴い、メンタルヘルス、メンタルケアの重要性が認知されるなど、社会全体で心理専門職の人材需要が高まっている状況からも、非常に有意義なことと認識しております。

貴法人におかれましては、新学部の設置を通じて、本県における教育・研究環境の更なる充実に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

令和3年2月19日

学校法人河原学園
理事長 河原 成紀 様

愛媛県知事 中村 時広



令和3年 2月10日

学校法人河原学園

人間環境大学

理事長 河原成紀 殿

学長 牧山助友 殿

愛媛経済同友会

代表幹事 西川 義教

代表幹事 清水 一郎



賛 同 書

全国的に少子高齢化が進む中で愛媛県も例外ではなく、人口流出の抑止とともに将来にわたる県内産業の持続的発展に向けて有意な若年人材の育成が急務であると考えます。

最大の流出源は高卒時の県外転出であり、毎年3,000名超の若年層の転出超過が報告されています。とくに東予・南予地方では県外流出が著しく、松山市中心部で大学教育の充実をはかることは、本県高校生の進学意欲の受け皿として効果的な対策と考えられます。

これから人生観、社会観を形成する高卒後の若年者にとって、自分が学び成長する地域環境が、地域への適応や愛着も含めて大きな意味をもち、どんな土地で就職し、家庭をもつのか、キャリアデザインを決定づける要素にもなりうる。一度県外に離れた本県出身者のUターン希望率は30%程度にとどまるとの指摘もあります。

一方、新型コロナ禍の地域への影響が懸念され、対面関係から非対面関係へと企業や組織のあり方が変化し、地域社会全体が大きく変貌しようとするとき、本県の産業、企業、組織はどうなっていくのか、これに応えることのできる人材教育を今こそ県内の大学に期待したいところです。

しかし、県内の入口ニーズ（進学需要）と出口ニーズ（人材需要）の高まりに反して、2014年度に66%にとどまっていた本県高校生の県外大学流出率（中四国・関西圏への流出）は、昨年度は約70%にまで増加しています。この傾向を放置することになると本県の教育需要と人材供給に空洞が生まれかねない状況です。この空洞化は歯止めのかからない人口減少を人材減少としてさらに加速する深刻な事態です。

以上のことから、学校法人河原学園が運営する人間環境大学が、愛媛県松山市に新設学部を開設することに賛同する次第です。


令和 3年 3月 2日

学校法人河原学園
人間環境大学

理事長 河原成紀 殿

学長 牧山助友 殿

松山高会議所
大塚 岩男



賛 同 書

全国的に少子高齢化が進む中で愛媛県も例外ではなく、人口流出の抑止とともに将来にわたる県内産業の持続的発展に向けて有意な若年人材の育成が急務であると考えます。

最大の流出源は高卒時の県外転出であり、毎年 3,000 名超の若年層の転出超過が報告されています。とくに東予・南予地方では県外流出が著しく、松山市中心部で大学教育の充実をはかることは、本県高校生の進学意欲の受け皿として効果的な対策と考えられます。

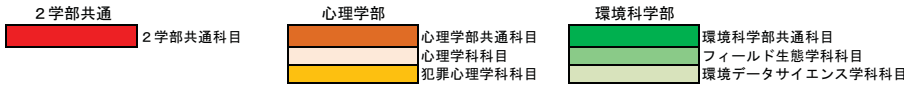
これから人生観、社会観を形成する高卒後の若年者にとって、自分が学び成長する地域環境が、地域への適応や愛着も含めて大きな意味をもち、どんな土地で就職し、家庭をもつのか、キャリアデザインを決定づける要素にもなりうる。一度県外に離れた本県出身者のUターン希望率は30%程度にとどまるとの指摘もあります。

一方、新型コロナ禍の地域への影響が懸念され、対面関係から非対面関係へと企業や組織のあり方が変化し、地域社会全体が大きく変貌しようとするとき、本県の産業、企業、組織はどうなっていくのか、これに応えることのできる人材教育を今こそ県内の大学に期待したいところです。

しかし、県内の入口ニーズ（進学需要）と出口ニーズ（人材需要）の高まりに反して、2014年度に66%にとどまっていた本県高校生の県外大学流出率（中四国・関西圏への流出）は、昨年度は約70%にまで増加しています。この傾向を放置することになると本県の教育需要と人材供給に空洞が生まれかねない状況です。この空洞化は歯止めのかからない人口減少を人材減少としてさらに加速する深刻な事態です。

以上のことから、学校法人河原学園が運営する人間環境大学が、愛媛県松山市に新設学部を開設することに賛同する次第です。

岡崎キャンパス (心理学部・環境科学部) 教室使用計画



後期	月曜日			火曜日			水曜日			木曜日			金曜日		
	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数
1限	情報実習Ⅱ	526PC	50	芸術文化論	411	278	情報実習Ⅱ	526PC	50	人間存在論	411	278	基礎ゼミナールⅡ	511	32
	英語Ⅱ	311	80	生態系における物質循環	221	258	英語Ⅱ	512	80	環境情報と社会	221	258	心理学実験法	526PC	50
	英語Ⅱ	321	80	人体の構造と機能及び疾病	531	140	英語Ⅱ	311	80	心理検査法実習	512	80	基礎ゼミナールⅡ	513	32
	矯正心理学	222	80	生態系における物質循環	221	258	生物資源学	221	258	基礎数学	531	140	基礎ゼミナールⅡ	514	32
	環境と生物の進化	241	144	統計処理法	311	80	総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	553	20	環境情報と社会	221	258	学術文献講読Ⅱ	311	80
	環境気象学	512	80	環境と開発	512	80	総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	233	64	フィールド生態学演習Ⅱ・Ⅳ	511	32	学術文献講読Ⅱ	313	48
	社会環境調査法Ⅱ	531	140	総合演習Ⅰ・Ⅲ・卒業論文	511	31	総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	511	32	フィールド生態学演習Ⅱ・Ⅳ	513	32	学術文献講読Ⅱ	232	60
				総合演習Ⅰ・Ⅲ・卒業論文	513	32	総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	513	32	フィールド生態学演習Ⅱ・Ⅳ	514	32	学術文献講読Ⅱ	512	80
				総合演習Ⅰ・Ⅲ・卒業論文	514	32	情報実習Ⅱ	526PC	50	フィールド生態学演習Ⅱ・Ⅳ	232	60	学術文献講読Ⅱ	531	140
				環境データサイエンス演習Ⅱ・Ⅳ	313	48	総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	514	32	フィールド生態学演習Ⅱ・Ⅳ	233	64	学術文献講読Ⅱ	233	64
				環境データサイエンス演習Ⅱ・Ⅳ	233	64	総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	515	32	環境データサイエンス演習Ⅱ・Ⅳ	341	48	学術文献講読Ⅱ	222	80
							総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	245	64	地域環境ガバナンス	311	80			
							SDGs概論	411	278						
							情報処理実習Ⅱ	526PC	50						
							生物資源学	241	144						
						環境データベース入門	531	140							
2限	基礎ゼミナールⅡ	511	32	心理学とキャリア	221	258	基礎ゼミナールⅡ	511	32	教育・学校心理学	221	258	臨床心理学概論	411	278
	感情・人格心理学	531	140	環境昆虫学	411	278	基礎ゼミナールⅡ	512	80	心理検査法実習	512	80	環境リサーチ&プランニング	221	258
	心理学ケース研究	313	48	心理学実験法	242PC	40	基礎ゼミナールⅡ	513	32	基礎生態学	531	140	心理学実験法	526PC	50
	基礎ゼミナールⅡ	513	32	環境昆虫学	411	278	総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	552	10	河川生態学	241	144	消費者心理学	531	140
	犯罪臨床事例研究	533	40	統計処理法	311	80	総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	553	20	環境適応型農業	311	80	環境リサーチ&プランニング	221	258
	コミュニケーションスキルズ	241	144	農業・情報キャリア論	531	140	総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	514	32	海洋資源管理学	321	80	動物行動学	241	144
	森林生態学	512	80	情報処理実習Ⅱ	526PC	50	刑事法	221	258	環境データ循環学	222	80	緑化・栽培概論	512	80
	環境調査分析	311	80				総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	222	80				生態系機能評価学	311	80
	Rプログラミング入門	321	80				総合演習Ⅱ・Ⅳ・卒業論文	232	60				経営データ・ESG投資分析	233	64
							フィールド生態学演習Ⅱ・Ⅳ	544	25				地域経済	222	80
							フィールド生態学演習Ⅱ・Ⅳ	233	64						
							フィールド生態学演習Ⅱ・Ⅳ	241	144						
							フィールド生態学演習Ⅱ・Ⅳ	313	48						
							フィールド生態学演習Ⅱ・Ⅳ	321	80						
							フィールド生態学演習Ⅱ・Ⅳ	515	32						
						英語Ⅱ	411	278							
						環境データサイエンス演習Ⅱ・Ⅳ	524	10							
						環境データサイエンス演習Ⅱ・Ⅳ	245	64							
						環境データサイエンス演習Ⅱ・Ⅳ	311	80							
						環境データサイエンス演習Ⅱ・Ⅳ	531	140							
3限	対人関係論	411	278	心理学統計法	221	258	障害者・障害児心理学	411	278	基礎ゼミナールⅡ	511	32	基礎ゼミナールⅡ	511	32
	心理学文献講読	531	140	神経・生理心理学	411	278	キャリア形成演習	531	140	子どもの心理療法	512	80	心理学基礎実習Ⅱ	245・233 222・232 531・313	144・64 80・60 140・48
	心理学専門文献講読	512	80	動物生態基礎実習	313	48	キャリア形成演習	531	140	基礎ゼミナールⅡ	513	32	環境と多文化共生	221	258
	犯罪心理学概論(司法・犯罪心理学)	241	144	基礎ゼミナールⅡ	511	31	環境法制	512	80	基礎ゼミナールⅡ	514	32	環境倫理	411	278
	捜査心理学演習	313	48	基礎ゼミナールⅡ	513	32	環境センシング実習	311	80	供述心理学	232	60	環境と多文化共生	221	258
	フィールド生態学基礎実習	321	80	基礎ゼミナールⅡ	514	32			防犯科学	233	64	陸生動物生態実習	515	32	
	農業基礎実習Ⅱ	農場・311・513 ・80・32	32	環境統計解析応用	512	80			基礎ゼミナールⅡ	515	32	水生動物生態実習	321	80	
	環境エネルギー論	222	80	人工知能と機械学習	311	80			基礎ゼミナールⅡ	245	64	植物生態実習	241	144	
									英語Ⅱ	222	80	生態系機能評価実験	542	10	
									環境化学実験	344	15	地球環境変動論	512	80	
									陸生動物保全学	313	48				
									企業会計	531	140				
									環境プログラミング基礎	311	80				
									環境ビジュアルイゼーション	321	80				
	4限	心理学文献講読	531	140	心理学統計法	221	258			言語学	221	258	スポーツ実習	体育館	
犯罪行動科学		411	278	コミュニケーション論	512	80			司法・犯罪心理学	241	144	心理学基礎実習Ⅱ	245・233 222・232 531・313	144・64 80・60 140・48	
犯罪心理学概論(司法・犯罪心理学)		241	144	精神疾患とその治療	411	278			基礎ゼミナールⅡ	511	32	英会話Ⅱ	512	80	
フィールド生態学基礎実習		321	80	動物生態基礎実習	313	48			基礎ゼミナールⅡ	513	32	陸生動物生態実習	515	32	
環境経済学入門		221	258	基礎数学	531	140			英語Ⅱ	512	80	水生動物生態実習	321	80	
農業基礎実習Ⅱ		農場・311・513 ・80・32	32	環境社会学	241	144			環境化学実験	344	15	植物生態実習	241	144	
都市・自然環境IoT		222	80					企業会計	531	140	生態系機能評価実験	542	10		
								環境プログラミング基礎	311	80					
								環境ビジュアルイゼーション	321	80					
5限		言語学	531	140	英語Ⅳ	311	80			ドイツ語Ⅱ	512	80	英会話Ⅱ	512	80
													心理実習	311	80
												ドイツ語Ⅱ	531	140	

※集中講義科目は除く。

松山道後キャンパス (総合心理学部) 教室使用計画

前期	月曜日			火曜日			水曜日			木曜日			金曜日		
	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数
1限	英語 I	0A-1, 0A-2	40, 40	ドイツ語 I	201	138	哲学史 A	201	138	心理学概論	201	138	基礎ゼミナール (初級心理学実習)	201	138
	心理データ解析法	201	138	フランス語 I	202	138	心理学統計法 II	202	138	産業・組織心理学	202	138	知覚・認知心理学	202	138
	教育・学校心理学	202	138	科学と人間	301	160	高齢者の世界	301	160				心理学統計法 III	301	160
				公認心理師の職業	302	160									
2限	英語講読 I	301	160	心理学プロゼミナール I	203, 402	40, 40	人間環境学	302	160	体育	学外施設	-	発達心理学	302	160
	情報リテラシー I	302	160				心理学統計法 II	401	110	意志決定の科学	301	160	知覚・認知心理学	401	110
	心理学実験 II	実習室1	31						総合演習 I	203, 402	40, 40	心理学統計法 III	501	100	
3限	経済学	201	138	西洋史 A	201	138	消費者の心理学	201	138	こころは数値化できるか	201	138	神経・生理心理学	201	138
	情報リテラシー III	202	138	心理学プロゼミナール IV	203, 402	40, 40			アドバンスト心理療法 II	202	138	キャンブルの心理学	202	138	
	心理学テクニカルライティング	203	40						総合演習 III	203, 402	40, 40	心理実習	学外施設	-	
4限	政治学	301	160	科学哲学	301	160	依存症の心理学	301	160	心理学調査実習	実習室1	40	神経・生理心理学	301	160
	ストレス科学	302	160	心理学英語文献講読	302	160	卒業論文	203, 402	40, 40	アドバンスト心理療法 III	301	160	心理学的支援法	302	160
	顔認知とコミュニケーション	401	110												
5限	文化心理学	201	138	日本史 A	201	138	ホジティブヘルス論	201	138	アドバンスト心理療法 IV	302	160	人体の構造と機能及び疾病	201	138
	色彩の心理学	202	138	心理学英語文献講読	202	138	障害者・障害児心理学	202	138						

後期	月曜日			火曜日			水曜日			木曜日			金曜日		
	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数	科目名	教室	収容人数
1限	英語 II	0A-1, 0A-2	40, 40	ドイツ語 II	201	138	哲学史 B	201	138	心理学研究法	201	138	心理学統計法 I	201	138
	心理学とキャリア	201	138	フランス語 II	202	138	臨床心理学概論	202	138	学習・言語心理学	202	138	赤ちゃんの世界 (生理発達心理学 I)	202	138
	心理学実験計画法	202	138	心理臨床領域における研究法	301	160	モチベーションの心理学	301	160	心理的アセスメント	301	160	精神疾患とその治療	301	160
2限	英語講読 II	301	160	心理学プロゼミナール II	203, 402	40, 40	健康・医療心理学	302	160	学習・言語心理学	302	160	心理学統計法 I	301	160
	情報リテラシー II	302	160				マインドフルネスの心理学	401	140	心理的アセスメント	401	110	福祉心理学	302	160
	心理調査計画法	401	110						総合演習 II	203, 402	40, 40				
3限	法学	201	138	心理学プロゼミナール IV	203, 402	40, 40	心理的アセスメント	201	138	こころとは何か	201	138	感情・人格心理学	201	138
	心理学テクニカルライティング	202	138	西洋史 B	201	138			社会・集団・家族心理学	202	138	関係行政論	202	138	
	心理演習	301	160						アドバンスト心理療法 I	301	160	心理実習	学外施設	-	
4限	経営学	301	160	進化心理学 (こころの由来)	301	160	卒業論文	203, 402	40, 40	社会・集団・家族心理学	201	138	感情・人格心理学	301	160
	心理学実験 I	実習室1	31	マーケティングの心理学	302	160	アドバンスト調査実習	202	138	アドバンスト心理療法 V	202	138	心理プログラミング	302	160
5限	司法・犯罪心理学	201	138	日本史 B	201	138	バーチャルリアリティの心理学	301	160	視覚の心理学	301	160	恋愛心理学	201	138
				子どもからおとなへの認知発達	202	138									

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

- (1) 学生の確保の見通しおよび申請者としての取組状況 P. 2
 - 1. 学生の確保の見通し P. 2
 - ア) 定員充足の見込み
 - 1) 心理学部
 - 2) 環境科学部
 - 3) 総合心理学部
 - 4) 18歳人口の中期予測を見据えた学生確保の見通し
 - イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 P. 7
 - 1) 心理学部
 - 2) 環境科学部
 - 3) 総合心理学部
 - 2. 学生確保に向けた具体的な取組状況 P. 11
- (2) 人材需要の動向等社会の要請 P. 14
 - 1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） P. 14
 - 1) 心理学部
 - 2) 環境科学部
 - 3) 総合心理学部
 - 2. 上記1. が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 P. 15
 - 1) 心理学部
 - 2) 環境科学部
 - 3) 総合心理学部

(1) 学生の確保の見通しおよび申請者としての取組状況

1. 学生の確保の見通し

ア) 定員充足の見込み

本学が新たに設置する心理学部、環境科学部および総合心理学部について、各学部における定員充足の見込みは以下に示す通りである。

1) 心理学部

新たに開設する心理学部（愛知県岡崎市）については、以下の根拠により、定員が充足できるものと考えている。心理学部（入学定員 150 人）は、心理学科（入学定員 100 人）および犯罪心理学科（入学定員 50 人）の 2 学科の構成とする。

① 心理学部への入学意向アンケート調査の結果

令和 4 年度に設置を予定する心理学部（入学定員 150 人）への入学ニーズを測定するため、高校 2 年生（令和 2 年度の在学生）を対象に入学の意向を問うアンケート調査（60 高校、7,953 人より回答）を行った（資料 1）。結果の詳細は後述するが、このアンケート調査において、709 人（8.9%）から「心理学部を受験したい」という結果が得られた（択一回答）。また、「受験したい」の回答者に入学意向を質問したところ、243 人（全体の 3.1%）から、「合格した場合、心理学部に入学したい」の回答が得られた。また、「受験したい」の回答者 709 人について、心理学科が第 1 志望の者が 462 人（5.8%）、犯罪心理学科が第 1 志望の者が 247 人（3.1%）であった。さらに「合格した場合、心理学部に入学したい」の回答者 243 人については、心理学科が第 1 志望の者が 183 人（2.3%）、犯罪心理学科が第 1 志望の者が 60 人（0.8%）であった。

本調査結果において、それぞれの学科に「第 1 志望として入学したい」の回答者が、心理学科の入学定員の 100 人、犯罪心理学科の入学定員 50 人をともに上回る結果となり、定員充足の見込みが示されている。なお、本調査は環境科学部の入学意向調査と共通のアンケートで実施しているが、設問の設計上、心理学部の各学科、環境科学部の各学科への受験・入学意向は「択一回答」としており、受験・入学意向を示した回答者の重複はない。

（資料 1 「人間環境大学心理学部（仮称）・環境科学部（仮称）入学意向アンケート調査報告書」）

②心理学部の前身となる人間環境学部心理学科の学生募集実績

心理学部は、既存の人間環境学部心理学科を募集停止し、発展的に改組する形で新設する学部である。人間環境学部心理学科は、新設する心理学部とはカリキュラムや養成人材像において類似している点も多いため、心理学部の学生募集の見込みを推測する上で参考とすることができる。

人間環境学部心理学科（平成 29 年開設）の過去 4 年の志願状況は、（資料 2）及び以下の（表 1）の通りであるが、過去 4 年間の志願者数は 541 人（H29）→401 人（H30）→509 人（H31）→1,476 人（R2）と、令和 2 年度には 1,400 人以上に達するなど、本学の心理学科の評価、認識の高まりと学生募集活動が実を結ぶ形で、募集状況は良好に推移している。合格倍率（受験者÷合格者）も、令和 2 年度は 1.7 倍となるなど、上昇の傾向にある。入学定員充足率についても、1.04（H30）、1.38（H31）、1.12（R2）と、開設年度である平成 29 年度を除き平成 30 年以降は確実に充足している。新たに開設する心理学部は、同一の学問分野である既存の人間環境学部心理学科の学生募集実績から、同学科に劣ら

ない学生募集が可能になると考えている。なお、令和3年度入試においても、2月末の暫定値であるが入学者は120人と定員を充足（1.0倍）する見込みである。

表1 人間環境大学人間環境学部心理学科（入学定員120人）の志願状況・入学定員充足率

年度	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	入学定員充足率
平成29年度	541	485	470	91	1.15	0.76
平成30年度	401	367	341	125	1.18	1.04
平成31年度	509	488	374	165	1.36	1.38
令和2年度	1,476	1,372	809	134	1.82	1.12
令和3年度	※1,200	-	-	※120	-	※1.00

※令和3年度は2月末現在の見込み値

（資料2「人間環境大学既設学部の学生募集状況」）

② 中部地区における心理系学部の学生募集

心理学部が開設予定である中部地区3県において、心理学を学べる私立大学の学部学科は本学（人間環境学部心理学科）を含めて13大学において設置されており、そのうちの12大学が愛知県に設置されている。本学も含めた上記の13大学の志願状況は、添付（資料3）にて示したが、志願者合計（一般入試）は、4,279(H28)→5,656(H29)→6,332(H30)→7,561(H31)→8,441(R2)と、過去5年間においてほぼ倍増の状況となっており、入学定員超過率の厳格化等の影響もあったものの、心理系分野を志願する層が増加傾向にあることが示されている。令和2年度は、中部地区の心理系学部の総定員1,520人に対し、志願者数（一般入試）合計8,441人、合格者は2,628人で倍率は3.21倍となっており、倍率についても過去5年間で上昇傾向にある。既に本学は心理学科を平成29年度から開設しており、これらの中部地区の学部学科の多くは、本学部の併願校となっている。これらの競合となる中部地区の心理系学部学科の学生募集状況からも、心理学部の定員充足の見込みは示されていると考えている。また本学部の犯罪心理学科は、これらの競合校には開設されていない独自の専門性と特色を持った学科であり、犯罪心理学を志望する学生のニーズに応えることが可能であると考えている。

（資料3「中部地区の心理系学部の学生募集状況」）

③ 系列高校からの内部進学

本学を運営する学校法人河原学園は、系列校として岡崎学園高校（愛知県岡崎市：1学年定員315人）、未来高校（広域通信制・本部松山市：1学年定員260人）を有しており、本学にも毎年5人前後が内部進学をしている。特に、岡崎学園高校との高大連携については、就職活動状況、卒業後の活躍状況などを含めた同高校出身の在学生情報を毎月開催される高大連携会議において詳細に提供し、送り出し側の同高校の信頼を得られる体制を敷いている。新たに設置する心理学部、環境科学部および総合心理学部においても、両系列高校から毎年一定数の内部進学者を見込む予定である。

2) 環境科学部

新たに開設する環境科学部（愛知県岡崎市）については、以下の根拠により、定員が充足できると考えている。環境科学部（入学定員 100 人）は、フィールド生態学科（入学定員 60 人）と環境データサイエンス学科（入学定員 40 人）の 2 学科の構成とする。

①環境科学部への入学意向アンケート調査の結果

令和 4 年度に設置を予定する環境科学部（入学定員 100 人）への入学ニーズを測定するため、高校 2 年生（令和 2 年度の在学学生）を対象に入学意向を問うアンケート調査（60 高校、7,953 人より回答）を行った（資料 1）。結果の詳細は後述するが、このアンケート調査において、366 人（4.6%）から「環境科学部を受験したい」という結果が得られた（択一回答）。また、「受験したい」の回答者に入学意向を質問したところ、128 人（全体の 1.6%）から、「合格した場合、環境科学部に入学したい」の回答を得た。また、「受験したい」の回答者 366 人について、フィールド生態学科が第 1 志望の者が 216 人（2.7%）、環境データサイエンス学科が第 1 志望の者が 150 人（1.9%）であった。さらに「合格した場合環境科学部に入学したい」の回答者 128 人については、フィールド生態学科が第 1 志望の者が 71 人（0.9%）、環境データサイエンス学科が第 1 志望の者が 57 人（0.7%）であった。

本調査結果において、それぞれの学科に「第 1 志望として入学したい」の回答者が、フィールド生態学科の入学定員の 60 人、環境データサイエンス学科の入学定員 40 人をともに上回る結果となり、定員充足の見込みが示されている。なお、本調査は心理学部の入学意向調査と共通のアンケートで実施しているが、設問の設計上、心理学部の各学科、環境科学部の各学科への受験・入学意向は「択一回答」としており、受験・入学意向を示した回答者の重複はない。

（資料 1 「人間環境大学心理学部（仮称）・環境科学部（仮称）入学意向アンケート調査報告書」）

②環境科学部の前身となる人間環境学部環境科学科の学生募集実績

環境科学部は、既存の人間環境学部環境科学科を募集停止し、発展的に改組する形で新設する学部である。人間環境学部環境科学科は、新設する環境科学部とはカリキュラムや養成人材像において類似している点も多いため、環境科学部の学生募集の見込みを推測する上で参考とすることができる。

人間環境学部環境科学科（平成 29 年開設）の過去 4 年の志願状況は、（資料 2）及び以下の（表 2）の通りであるが、過去 4 年間の志願者数は 491 人（H29）→298 人（H30）→511 人（H31）→1,316 人（R2）と、令和 2 年度には 1,300 人以上に達するなど、本学の環境科学科の評価、認識の高まりと学生募集活動が実を結ぶ形で、募集状況は良好に推移している。合格倍率（受験者÷合格者）も、令和 2 年度は 1.6 倍以上となるなど、上昇の傾向にある。入学定員充足率についても、1.64（H31）、1.14（R2）と、平成 31 年以降は充足している。新たに開設する環境科学部は、同一の学問分野である既存の人間環境学部環境科学科の学生募集実績から、同学科に劣らない学生募集が可能になると考えている。なお、令和 3 年度入試においても、2 月末の暫定値であるが入学者は 90 人と定員を充足（1.13 倍）する見込みである。

表2 人間環境大学人間環境学部環境科学科（入学定員 80 人）の志願状況・入学定員充足率

年度	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	入学定員充足率
平成 29 年度	491	448	396	65	1.24	0.81
平成 30 年度	298	274	232	61	1.28	0.76
平成 31 年度	511	497	372	131	1.37	1.64
令和 2 年度	1,316	1,225	746	91	1.76	1.14
令和 3 年度	※1,200	-	-	※90	-	※1.13

※令和 3 年度は 2 月末現在の見込み値

（資料 2 「人間環境大学既設学部の学生募集状況」）

④ 中部地区における環境系学部の学生募集

環境科学部が開設予定である中部地区 3 県において、環境学を学べる私立大学の学部学科は本学（人間環境学部環境科学科）を含めて 6 大学 7 課程（1 学部、3 学科、1 専攻、2 コース）設置されている。具体的には、名城大学（農学部 生物資源学科及び生物環境科学科）、中部大学（応用生物学部 環境生物科学科）、愛知工業大学（工学部 応用化学科 バイオ環境化学専攻）、名古屋産業大学（現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 環境ビジネスコース）、四日市大学（環境情報学部環境情報学科）が設置されている。上記の環境系の学部学科は、学びのコンセプトや領域がそれぞれ異なっているが、本学の環境科学部フィールド生態学科、環境データサイエンス学科のカリキュラムは、それらの中にあっても、独自性と競争力を持った学部学科と考えている。また学部名称として「環境学」を掲げているのは中部地区においては本学部と四日市大学環境情報学部（三重県）の 2 校のみであり、環境分野を志願する高校生のニーズを吸収できるものと考えている。上記の 7 課程の志願状況は、添付（資料 4）にて示したが、志願者合計（一般入試）は、2,596(H28)→2,826(H29)→2,670(H30)→2,828(H31)→3,503(R2)と、過去 5 年間に於いてほぼ 30%の増加となっており、入学定員超過率の厳格化等の影響もあったものの、環境系分野を志願する層が増加傾向にあることが示されている。令和 2 年度は、中部地区の環境系学部の総定員 765 人に対し、志願者数（一般入試）合計 3,503 人、合格者は 1,658 人で倍率は 2.11 倍となっており、環境系分野への志願ニーズが示されている。

また環境科学部の学位の分野は「農学関係」であり、特にフィールド生態学科は生態学を実地に学ぶという農学の特色を色濃く持っている。中部地区において私立大学の農学部は、名城大学農学部（名古屋市）のみの設置であることから、本学部は農学分野を目指す志願者のニーズにも対応できると考えている。

（資料 4 「中部地区の環境系学部の学生募集状況」）

3) 総合心理学部

新たに開設する総合心理学部（愛媛県松山市）については、以下の根拠により、定員が充足できると考えている。総合心理学部は、総合心理学科（入学定員 80 人）のみの 1 学科の構成とする。

①総合心理学部への入学意向アンケート調査の結果

令和4年度に設置を予定する総合心理学部への入学ニーズを測定するため、高校2年生（令和2年度の在学学生）を対象に入学意向を問うアンケート調査（45高校、5,083人より回答）を行った（資料5）。結果の詳細は後述するが、このアンケート調査において、244人（4.8%）から「総合心理学部総合心理学科を受験したい」という結果が得られた（択一回答）。また、「受験したい」の回答者に入学意向を質問したところ、91人（全体の1.8%）から、「合格した場合、総合心理学部に入学したい」の回答を得た。本調査結果において、「総合心理学部に入学したい」の回答者91人が、入学定員の80人を上回る結果となり、定員充足の見込みが示されている。

（資料5「人間環境大学総合心理学部（仮称）入学意向アンケート調査報告書」）

②四国・中国地区における心理系学部の学生募集

本学部が開設予定である四国と隣接する中国地区における私立大学の心理系学科の設置状況（資料6）は以下の通りである。四国地区では、愛媛県に2大学（学科、学科内のコース）、徳島県に2大学（学科、学科内のコース）、香川県に1大学（学科内の専攻）の5大学のみを設置となっているが、全て学科または学科内のコースとしての設置であり、「心理学部」はまだ開設されていない状況である。令和2年度は、これらの四国地区の心理系学科の入学定員390人（※全ての定員が心理系ではない）に対し、志願者は448人、合格者は413人（倍率1.08倍）となっており、過去5年間において志願者数は278人から448人と増加傾向にある。推薦入試を含めた入学者合計は389人となっており、入学定員充足率は1.00倍（令和2年度）となっている。四国地区においては、心理学を全面に出した学部学科が少ないことから、心理学分野への志願ニーズを吸収できておらず、県外への流出も発生していると考えている。総合心理学部が開設された場合は、四国地区で初めての心理系学部となる予定であり、同地区において心理学を志望する学生のニーズに対応できると考えている。

一方、中国地区における心理系の学部学科は、12大学13学科（広島県6大学、岡山県4大学、山口県2大学）設置されており（資料6）、令和2年度の入学定員782人に対し、志願者は1,848人、合格者は879人、倍率は2.1倍であり、志願者数は過去5年間で761人から1,848人と約2.4倍となっている。中国地区は広島県を中心に心理学系の学部学科は全体として良好な募集状況にあり、四国地区の数倍の募集規模を持っている。総合心理学部では、四国地区から中国地区に流出、進学している志願者、中国地区からの志願者も取り込む計画である。上記の四国・中国地区の心理系大学の志願状況は、添付の（資料6）に記載した。

（資料6「四国・中国地区の心理系学部の学生募集状況」）

③学校法人河原学園の学園全体の募集実績、学生募集体制

学校法人河原学園は、愛媛県において、人間環境大学松山看護学部（松山市）及び専門学校9校（合計入学定員1,721人：令和3年度）を運営する愛媛県及び四国地区において最大級の規模を有する総合学園グループであり、法人本部を置く松山市を中心に愛媛県及び四国地区における学生募集活動については長年に渡る実績があることから、四国地区及び周辺県の高等学校とは学生募集を通じた強い関係性を構築している。総合心理学部の学生募集活動においても、学校法人河原学園グループにおいて蓄積された学生募集のリソースを全面的に活用する予定であり、特に愛媛県の高校においては、全ての高校と緻密なコミュニケーションを取り、個々の高校生のニーズをきめ細かくすくい上げること

で、総合心理学部の学生募集につなげる予定である。

4) 18歳人口の中期予測を見据えた学生確保の見通し

今回の新学部設置に伴う収容定員に係る学則変更は、中長期的な18歳人口の減少予測についても十分に認識、把握した上で決定したものである。中央教育審議会の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(平成30年11月)によると、2040年の大学進学者は51万人に減少し、2017年の63万人からは約80%(12万人減少)の規模になると推計されている。心理学部、環境科学部を設置する愛知県においては、2017年の18歳人口74,550人、大学進学者数38,905人に対し、2040年の推計では、18歳人口が57,157人(▲17,393人、2017年比76.7%)、大学進学者数が31,099人(▲26,058人、同79.9%)の推計となっている。総合心理学部を設置する愛媛県においては、2017年の18歳人口13,586人、大学進学者数6,373人に対し、2040年の推計では、18歳人口が8,981人(▲4,605人、2017年比66.1%)、大学進学者数が4,901人(▲1,472人、同76.9%)の推計となっている。本大学では、上述した長期的な18歳人口と大学進学者数の減少予測を十分に認識し把握した上で、高校生から選ばれる大学になるために不断の努力を行い、また社会的な人材需要にマッチした人材を養成することで、また本学がこれまでに構築した愛知県、愛媛県を中心とした各高校との緊密な連携と関係による募集活動を継続することによって、増員を行う定員は中長期的に充足できるという結論に到り、このたびの収容定員に係る学則変更を行うこととした。

イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1) 心理学部

定員充足の根拠となる客観的データとして、「人間環境大学心理学部の入学意向アンケート調査」の調査結果(資料1の抜粋)を以下に示す。本アンケートは、心理学部の学生の確保の見通しを測定するために、令和2年度の高校2年生7,953人を対象に調査を行った。

[心理学部 入学意向アンケート調査の概要]

(環境科学部の入学意向アンケート調査と合わせて実施)

調査時期	令和2年9月～12月
調査対象	令和2年度の高校2年生 (令和4年3月高校卒業・大学入学予定者)
調査方法	調査実施協力高校にアンケート用紙を送付し、各校にて実施した。
実施高校	愛知県を中心とする中部地区及び周辺の高等学校及び中等教育学校 60校
実施人数	7,953人

[心理学部 入学意向アンケート調査の結果] (主要な質問のみ抜粋)

問 10	あなたは、人間環境大学「心理学部」または「環境科学部」を受験したいと思いますか。(択一回答)	1	心理学部を受験したい	709	8.9%
		2	環境科学部を受験したい	366	4.6%
		3	受験は考えていない	6,872	86.4%
			無回答	6	0.1%
			合計	7,953	100.0%
問 11	【問 10 の「心理学部を受験したい」の回答者のみ】 「心理学部」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。(択一回答)	1	(心理学部に) 入学したい	243	3.1%
		2	(心理学部に) 併願校の結果によっては入学したい	466	5.9%
			合計 n=709 (%は総回答者数 7953 人に対する割合)	709	8.9%
問 12	【問 10 の「心理学部を受験したい」の回答者のみ】 「心理学部」に合格した場合、どちらの学科が第一志望となりますか。(択一回答)	1	心理学科	462	5.8%
		2	犯罪心理学科	247	3.1%
			合計 n=709 (%は総回答者数 7953 人に対する割合)	709	8.9%

以上の結果により、人間環境大学心理学部（入学定員 150 人）は、709 人が受験意志を示し、そのうち 243 人が「入学したい」と回答した。受験意志を示した 709 人のうち、心理学科（入学定員 100 人）が第 1 志望の者は 462 人、犯罪心理学科（入学定員 50 人）が第 1 志望の者は 247 人であった。

2) 環境科学部

定員充足の根拠となる客観的データとして、「人間環境大学環境科学部の入学意向アンケート調査」の調査結果（資料 1 の抜粋）を以下に示す。本アンケートは、環境科学部の学生の確保の見通しを測定するために、令和 2 年度の高校 2 年生 7,953 人を対象に調査を行った。

[環境科学部 入学意向アンケート調査の概要]

(心理学部の入学意向アンケート調査と合わせて実施)

調査時期	令和 2 年 9 月～12 月
調査対象	令和 2 年度の高校 2 年生 (令和 4 年 3 月高校卒業・大学入学予定者)
調査方法	調査実施協力高校にアンケート用紙を送付し、各校にて実施した。
実施高校	愛知県を中心とする中部地区及び周辺の高専及び中等教育学校 60 校
実施人数	7,953 人

[環境科学部 入学意向アンケート調査の結果] (主要な質問のみ抜粋)

問 10	あなたは、人間環境大学「心理学部」または「環境科学部」を受験したいと思いますか。(択一回答)	1	心理学部を受験したい	709	8.9%
		2	環境科学部を受験したい	366	4.6%
		3	受験は考えていない	6,872	86.4%
			無回答	6	0.1%
			合計	7,953	100.0%
問 13	【問 10 の「環境科学部を受験したい」の回答者のみ】 「環境科学部」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。(択一回答)	1	(環境科学部に) 入学したい	128	1.6%
		2	(環境科学部に) 併願校の結果によっては入学したい	238	3.0%
			合計 n=366 (%は総回答者数 7953 人に対する割合)	366	4.6%
問 14	【問 10 の「環境科学部を受験したい」の回答者のみ】 「環境科学部」に合格した場合、どちらの学科が第一志望となりますか。(択一回答)	1	フィールド生態学科	216	2.7%
		2	環境データサイエンス学科	150	1.9%
			合計 n=709 (%は総回答者数 7953 人に対する割合)	366	4.6%

以上の結果により、人間環境大学環境科学部（入学定員 100 人）は、366 人が受験意志を示し、そのうち 128 人が「入学したい」と回答した。受験意志を示した 366 人のうち、フィールド生態学科（入学定員 60 人）が第 1 志望の者は 216 人、環境データサイエンス学科（入学定員 40 人）が第 1 志望の者は 150 人であった。

3) 総合心理学部

定員充足の根拠となる客観的データとして、「人間環境大学総合心理学部の入学意向アンケート調査」の調査結果（資料 5 の抜粋）を以下に示す。本アンケートは、総合心理学部の学生の確保の見通しを測定するために、令和 2 年度の高校 2 年生 5,083 人を対象に調査を行った。

[総合心理学部 入学意向アンケート調査の概要]

調査時期	令和 2 年 9 月～12 月
調査対象	令和 2 年度の高校 2 年生（令和 4 年 3 月高校卒業・大学入学予定者）
調査方法	調査実施協力高校にアンケート用紙を送付し、各校にて実施した。
実施高校	愛媛県を中心とする四国地区及び周辺の高専学校及び中等教育学校 45 校
実施人数	5,083 人

[心理学部 入学意向アンケート調査の結果]（主要な質問のみ抜粋）

問 8	あなたは、人間環境大学「総合心理学部総合心理学科」を受験したいと思いますか。(択一回答)	1	総合心理学部総合心理学科を受験したい	244	4.8%
		2	受験は考えていない	4,834	95.1%
			無回答	5	0.1%
			合計	5,083	100.0%
問 9	【問 8 の「総合心理学部総	1	(総合心理学部に) 入学したい	91	1.8%

合心理学科を受験したい」の回答者のみ】 「総合心理学部」を受験し合格した場合、入学したいと思いませんか。(択一回答)	2	(総合心理学部に)併願校の結果によっては入学したい	153	3.0%
		合計 n=244 (%は総回答者数 5083 人に対する割合)	244	4.8%

以上の結果により、人間環境大学総合心理学部（入学定員 80 人）は、244 人が受験意志を示し、そのうち 91 人が「入学したい」と回答した。

2. 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学は、愛知県岡崎市、大府市および愛媛県松山市の3キャンパスに3学部(4学科)(令和2年度現在)を擁する大学であり、中部地区と四国地区を中心として全国から志願者と入学者を集めていることから、学生募集活動も幅広い地域で展開している。今回の収容定員の増加により、岡崎キャンパスに2学部4学科および新たに松山道後キャンパスに1学部1学科を設けると、計5学部7学科の体制となることから、愛知県、愛媛県の2拠点を中心として、組織的な学生募集活動を実施する予定である。本学では、これまでに高等学校5校と包括連携を締結するなど、高大連携には特に力を入れており、これまでの「試験による機械的な選抜」から、高校生1人1人と向き合うことで、その適性と本学のアドミッション・ポリシーとのマッチング、学生の在学中及び大学卒業後のビジョンを最大限に重視した高大接続を募集活動の中心的な理念としている。この学生募集活動の理念の浸透により、近年では各学部ともに多くの志願者と目標とする十分な入学者を集め、各学部学科において確実に定員を充足している。本学の学生確保に向けた具体的な取り組み状況と計画は以下の通りである。

①学生募集体制

本学では、従来型の進学情報誌や広告などの媒体に依存する体制を脱却し、組織的で能動的な広報・募集活動のための体制の構築に努めており、直接的ターゲット(高校生)と接触する高校内・会場形式型進学ガイダンスや、間接的ターゲット(高校教員)と接触する高校訪問等を活動の両輪とし、そこから得られたデータを基盤とした効果的な募集活動へと転換している。そのために、全学部の広報と募集を統括する入試・広報部制を採用し、大学のストロングポイントを打ち出した全体のブランディングを戦略的に行う体制としている。学生募集体制は、愛知県と愛媛県の2拠点で展開しており、令和2年度は合計11人(職員)の体制で活動を行っている。

また、高校内・会場形式型進学ガイダンス活動を中核とするために、広報媒体活動とは別にそれらの外部での営業活動を統括する「高大連携推進室」を平成27年度より入試・広報部内に設置し、部署単独の責任者(室長)を置いて、高校の進路指導部やクラス担任教諭による具体的な進路指導をフォローできる体制としている。また、学生募集活動に留まらず、教務的な連携を強化し、高校内の進路指導を有機的にサポートする本学教員による出張授業、高校へのキャリア教育支援の連携など、高大連携推進室を中心に積極的に推進している。

またこのたびの3学部のうち特に環境科学部の開設にあたり、農業高校の元校長を同推進室の担当部長として採用することが決定しており、農業高校から環境科学部への高大接続を強化していく計画である。

②オープンキャンパス

全学体制で取り組むオープンキャンパスを募集戦略において最も重要な中核的イベントと位置づけている。本学は、3キャンパスで毎年合計24回のオープンキャンパスを実施しており、過去5年間で平均918人(のべ)／年、平均39人／回以上の来場実績(受験年次生対象)がある。オープンキャンパスは、DMや資料請求などから本学に興味・関心を持った生徒の来場につなげ、来場者に対しては本学の様々な学部学科とその魅力を知ってもらい、出願につなげる結節点の役割を担っており、本学ではそれらの一連のプロセスを全て数値的にデータ管理することで、毎年の資料請求・来場者

数・出願数の増加を実現している。

オープンキャンパスの動員では、ダイレクトメールの送付、インターネット広告、交通広告、各種受験雑誌、高校内・会場ガイダンス、高校訪問等で広く周知し、来場者の確保へと繋げている。令和3年度以降のオープンキャンパスにおいても、3キャンパスで年間全38回の実施予定と昨年度以上の来場者数を見込んでいる。

オープンキャンパスの運営と内容については、1)資料請求への速やかで質の高い対応、2)大学全体の説明と学科ごとの説明や体験メニュー（ミニ講義など）の魅力的な連動、3)説明やメニュー担当教員の適切な選定、4)学生スタッフの活用（アシスト要員ではなく学生目線のOC実施体制への転換）、5)保護者用の独立メニューの設置（対高校生だけでなく多面的な大学説明の実施）、6)メニュー終了後の参加者との個別面談の徹底、7)参加者の出願度評価とそれに基づくフォロー（生徒の高校進路指導部・担任へのフォロー、本人・保護者へのフォロー）を徹底し、常に競合校を意識して、本学で学ぶメリットを打ち出すことで出願の歩留まりを高めるオープンキャンパスとなるよう努めている。

また、コロナ禍で来場できない生徒に対しては、「オンラインオープンキャンパス」を開設しており、大学概要・学部学科・入試概要の説明、キャンパスツアーなど来場型オープンキャンパスと同様、自宅でも本学の魅力を閲覧できるようになっている。

③高校訪問・進学説明会

大学が立地する中部地区と四国地区を中心として、対象高校に対して年間3回以上の高校訪問（中部地区300回、四国地区350回、中国・九州地区150回）を実施し、それにより高校教員への本学の説明やオープンキャンパス等の案内を行い、高校とのコミュニケーションにより本学の取り組みを浸透させ高校との関係性の強化を図っている。また中部地区と四国地区以外の高校の開拓も積極的に進めており、本学の入学者の出身地は広範囲な地域に広がっている。特に高校訪問では、県外進学者が多い沖縄県を重点地域に設定しており、沖縄県における高校訪問、高校内・会場形式型進学ガイダンスに積極的に参加している。

外部業者が開催する高校内・会場形式型進学ガイダンスには、中部地区、四国地区を中心に年間370会場以上に参加している。

④媒体広報・DM・大学HP・SNS

受験情報誌等への広告、インターネット広告、交通広告、DMなど、受験生が利用する様々な媒体を通して、高校生の本学への認知度の向上に努めている。媒体での広報を通じて、新たな認知拡大を見込むとともに、オープンキャンパスへの来場や志願者獲得へとつなげることを意識している。

DM（郵送・電子メール）は、本学の学部学科の情報やオープンキャンパスの告知と来場者数の確保のために使用しており、毎年度のDM対象リストの蓄積と、DM配信実績、オープンキャンパス来場者数や出願数についての数値管理を心がけている。

大学HPでの情報発信も重要戦略の一つと位置づけており、受験生、保護者、高校教員等に向けた大小の情報を逐次発信することで、入試広報情報のハブ的な役割を担っているとともに、大学HPからの資料請求やオープンキャンパスの参加予約等を受け付けることから、本学の学生募集における導入ゲートにもなっている。また近年受験生において比重を高めているSNSも積極的に活用し、教員からも授業の様子などを定期的に配信することで本学に関連する様々な情報を発信している。

⑤ 地方試験会場の整備

本学では受験生の利便性と負担の軽減を考慮し、従来より地方試験会場、遠隔地の試験会場の整備に取り組んできた。試験会場については毎年移動があるものの、愛知県（岡崎・大府）、愛媛県（松山）の大学会場以外に、東京都、静岡市、浜松市、岡山市、福岡市、那覇市など、複数の会場を設定することで、受験生の負担軽減と出願者の増加につなげている。令和3年度入学者選抜においては、全学で9会場での入試を実施している。

⑥PDCA サイクルと諸数値指標

本学では、上述した広報・募集活動において、目標とする志願者数及び入学者数の達成のため、不断に組織全体でPDCAサイクルを回しており、そのために学生募集の諸数値指標を細かく設定している。本学では、入学定員の充足は当然のことであるが、入学者の学力水準の確保のため、「1.4倍以上の合格倍率となる志願者数」となることを募集における目標としている。過去3年間において、既設の人間環境学部（心理学科、環境科学科）、看護学部においては、おおむねこの目標を達成している。

今回新たに設置する心理学部、環境科学部、総合心理学部においても、各学部の入学定員から逆算した合格者数、受験者数、志願者数、各オープンキャンパス来場者数、資料請求数、DM等の発送数の諸指標を細かく設定し、その目標を達成するための施策を継続的に実施していく計画である。

具体的な指標としては、心理学部は1,500人、環境科学部は1,400人、総合心理学部は1,000人の志願者数を獲得することを最下限の目標として設定し、アドミッションポリシーに合致する学生の入学につなげる計画である。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

このたび収容定員に係る学則変更を行い新たに設置する3学部の人材の養成に関する目的は以下の通りである。

1) 心理学部

心理学部では、文化的概念および科学的実証の両側面から課題の本質を追究しようとする文理融合の教育研究を教育理念とし、心理学の専門的知識とスキルを単に修得するのではなく、広い教養と対人的関心をもって、現代社会が直面している諸問題の解決に向け実践的に取り組むことができる人材を育成することを目的とする。

[心理学科]

心理学部心理学科は、現代社会における心の問題や心の健康について学び、その専門的知識や支援に関する実践力をもって、医療・教育・労働など心にかかわる課題解決を必要とされる多くの場において貢献できる人材を育成することを目的とする。

[犯罪心理学科]

心理学部犯罪心理学科は、心理学および犯罪心理学に関する専門的知識、多角的な視点に立脚した思考力と実践力を身につけ、多様化した現代社会が抱える諸問題の分析・解決に貢献できる人材を育成することを目的とする。

2) 環境科学部

環境科学部では、動物・植物・生態系機能や社会・データサイエンスに関する専門知識と、社会や情報、環境全般に関する基礎知識を有し、自然共生社会や持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成することを目的とする。

[フィールド生態学科]

環境科学部フィールド生態学科では、動物・植物・生態系機能に関する専門知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成することを目的とする。

[環境データサイエンス学科]

環境科学部環境データサイエンス学科では、社会・データサイエンスに関する専門知識と、環境全般に関する基礎知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と鋭い洞察力、柔軟な思考力によって、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成することを目的とする。

3) 総合心理学部

総合心理学部総合心理学科では、見えない心を可視化するスキルを身につけ、公認心理師を含めた幅広い領域で活躍できる心理支援のプロを育成するだけでなく、対人スキル（コミュニケーション能力）を活かしたサービス職、産業カウンセラー、心理アドバイザー、ビッグデータからアンケート処理まで広くデータ処理ができる人材を育成し、オフィスワークの内外で活躍できる人材を育成することを目的とする。

2. 上記1. が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 心理学部

①心理学部卒業生の採用意向アンケート調査

心理学部（心理学科・犯罪心理学科）の卒業生の人材需要の見通しを測定するため、卒業後の就職先として想定される企業等の事業所を対象として、採用意向アンケート調査（資料7）を実施した。257事業所から回答があり、その調査結果は以下の通りとなった。

各学科の養成人材の社会的ニーズについては、「心理学科の養成人材のニーズは高い」の回答が124事業所（48.2%）より、「犯罪心理学科の養成人材のニーズは高い」の回答が100事業所（38.9%）より得られた。心理学部の各学科の卒業予定者の採用意向については、「心理学科の卒業生を採用したい」との回答が108事業所（42.0%）、「犯罪心理学科の卒業生を採用したい」との回答が55事業所（21.4%）より得られた。またそれぞれの学科における採用の場合の採用可能人数の合計は、心理学科が158人（108事業所より）、犯罪心理学科が77人（55事業所より）となった。

以上の調査結果により、心理学科の入学定員100人、犯罪心理学科の入学定員50人を上回る人材需要があることが示されている。

（資料7「人間環境大学心理学部（仮称）採用意向アンケート調査報告書」）

②心理系人材の人材需要

心理学は文系分野と理系分野を併せ持った総合科学の側面があり、ビジネスにおいて重要なコミュニケーションやマーケティングの知識や能力、また統計学やデータ分析等の能力が身につけられることから、卒業後の進路については、心理系の職域のみならず、マーケティング、企画・広告、営業・販売、ホスピタリティ関係など、幅広い業種、職種への就職が考えられる。心理専門職への就業については、本学部の卒業生の一定の割合に留まるとは思われるが、卒業後に大学院を修了し、公認心理師や臨床心理士の資格を取得した上での就業は、心理専門職の社会的需要の拡大に鑑み、確実な採用需要が見込まれると思われる。

③[心理学科]卒業生の人材需要

心理学科では、卒業後の進路として、①心理専門職（大学院を修了し臨床心理士や公認心理師の資格取得後の就職を含む）では、スクールカウンセラー、病院・クリニック心理士、研究職、②公務員では、児童心理司、心理判定員、児童指導員、③一般企業では、マーケティング、営業・販売、企画・広告、メンタルヘルス関係、企業の人事部門などへの就職を想定している。あらゆる産業分野において、高度なマーケティングや消費者心理、顧客心理の把握と対応が必要になっている現在、心理学を

専攻した者の人材需要は高いと言え、様々な業種での活躍が期待できる。

④[犯罪心理学科]卒業生の人材需要

犯罪心理学科では、卒業後の進路として、①心理専門職（大学院を修了し臨床心理士や公認心理師の資格取得後の就職を含む）では、警察官、家庭裁判所調査官、法務技官（心理）、法務教官、保護観察官、②研究職では、科学警察研究所職員、科学捜査研究所職員、③一般企業では、警備会社、セキュリティ関連企業、住防犯機器メーカー、住宅関連など防犯に関わる全ての業界への就職を想定している。犯罪心理学は、ニッチな分野ではあるものの、地域と社会の安全のために欠くことのできない学問であり、高度な知識と専門性が求められる。また特殊詐欺やインターネット犯罪に見られるように、現代の社会や企業においては、これまでにない犯罪対策やセキュリティ対応が求められており、防犯やセキュリティに特化した企業も増加している。犯罪心理学に特化した学科である本学科の養成人材は、特に防犯やセキュリティに関連する企業からの人材需要は高いと言える。

（心理学部共通）

⑤心理学部の前身となる人間環境学部人間環境学科・心理学科卒業生の就職実績

心理学部は、既存の人間環境学部心理学科及びその前身の人間環境学科（心理コース）を発展的に改組する形で新設する学部である。心理学科は、教育課程や養成人材像において心理学部と類似している点も多いため、心理学部の人材需要を推測する上で参考とすることができる。人間環境学部心理学科および旧人間環境学科心理コースの過去5年の就職率（就職者／就職希望者）は、令和2年度卒業が97.8%（2月現在の見込み値）、令和1年度卒業が100%、平成30年度卒業が100%、平成29年度卒業が100%、平成28年度卒業が96.3%と、5年平均で98.7%の実績となっており、その卒業生は、企業等の事業所から高い評価を得て採用されている。新たに開設する心理学部においても、人間環境学部心理学科の教育研究を発展的に継承していくことから、これまで以上の社会からの人材需要、採用需要を得られると考えている。

（心理学部・総合心理学部共通）

⑥公認心理師の人材需要

公認心理師は、2017年の公認心理師法施行により誕生した心理職の国家資格であり、保健医療・福祉・教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、①心理に関する支援を要する者の心理状態の観察とその結果の分析、②要支援者の心理に関する相談及び助言、指導その他の援助、③要支援者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助、④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うことが決められている。平成30年から国家試験が開始され、公認心理師の資格登録者数は27,344人（令和1年9月末）（出典：厚生労働省）となっている。公認心理師の国家試験受験資格は、通常は大学院修士課程の修了が必要になることから、本学部を卒業するだけでは資格取得要件は満たさないものの、本学の心理学部及び総合心理学部の3学科は、公認心理師の資格取得に対応した教育課程としていることから、希望者に対しては、卒業後の大学院への進学を前提とした上で、公認心理師を積極的に養成していく計画である。公認心理師は、開始されたばかりの制度につき、現時点ではその普及や認知が十分とは言えないものの、将来的には保健医療・福祉・教育の各分野において、心理専門職としての人材需要が定着し拡大すると予想される。

(心理学部・総合心理学部共通)

⑦臨床心理士の人材需要

臨床心理士は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が実施する試験に合格し認定を受けることで取得できる心理専門職資格であり、資格認定が開始された昭和 63 (1988) 年以来、令和 2 (2020) 年現在で 37, 249 名の臨床心理士が認定されている。臨床心理士の試験受験資格は、大学院修士課程の修了が必要になることから、学部を卒業するだけでは資格取得要件は満たさないものの、心理学部及び総合心理学部の 3 学科では、大学院への進学を前提とした臨床心理士の資格取得に対応した教育課程としている。本学は、愛知県三河地区における私立大学で唯一の臨床心理士第 1 種指定大学院を併設しており、大学院は開設後 16 年間、臨床心理士資格審査の合格率は 94.3%の実績 (令和元年度 全国平均合格率 62.7%) であり、大学院開設以来 103 人 (令和 2 年度現在) の臨床心理士を輩出している。

臨床心理士の職域は、教育、医療、司法、福祉、産業など多岐に渡っており、教育分野では学校内の相談室・教育センター・各種教育相談機関などで主にスクールカウンセラーとして、いじめ・不登校・校内暴力等への対応業務に従事している。医療・保健分野では病院・診療所・保健所・精神保健福祉センター・リハビリテーションセンター・市町村の保健センター等、福祉分野では児童相談所・療育施設・心身障害者福祉センター・障害者作業所・女性相談センター・老人福祉施設等、司法・矯正分野では家庭裁判所・少年鑑別所・刑務所・拘置所・少年院・保護観察所・児童自立支援施設・警察関係等、労働・産業分野では企業内相談室・企業内健康管理センター・安全保健センター・公立職業安定所・障害者職業センターなどで専門的な業務に従事しており、その職域は多岐に渡っている。臨床心理士の資格取得には大学院の修了が必要ではあるが、心理学部と総合心理学部では、希望する学生に対しては、将来的な臨床心理士の資格取得を想定した履修指導を行っていく予定である。

2) 環境科学部

①環境科学部卒業生の採用意向アンケート調査

環境科学部 (フィールド生態学科・環境データサイエンス学科) の卒業生の人材需要の見通しを測定するため、卒業後の就職先として想定される企業等の事業所を対象として、採用意向アンケート調査 (資料 8) を実施した。242 事業所から回答があり、その調査結果は以下の通りとなった。

各学科の養成人材の社会的ニーズについては、「フィールド生態学科の養成人材のニーズは高い」の回答が 75 事業所 (31.0%) より、「環境データサイエンス学科の養成人材のニーズは高い」の回答が 92 事業所 (38.0%) より得られた。環境科学部の各学科の卒業予定者の採用意向については、「フィールド生態学科の卒業生を採用したい」との回答が 65 事業所 (26.9%)、「環境データサイエンス学科の卒業生を採用したい」との回答が 75 事業所 (31.0%) より得られた。またそれぞれの学科における採用の場合の採用可能人数の合計は、フィールド生態学科が 77 人 (65 事業所より)、環境データサイエンス学科が 87 人 (75 事業所より) となった。以上の調査結果により、フィールド生態学科の入学定員 60 人、環境データサイエンス学科の入学定員 40 人を上回る人材需要があることが示されている。

(資料 8 「人間環境大学環境科学部 (仮称) 採用意向アンケート調査報告書」)

②環境系人材の人材需要

社会において環境活動を担う環境産業及び環境系人材の市場規模・雇用規模は、以下のように推計されている（出典は全て「環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書（令和2年3月）」環境産業市場規模検討会）。環境産業は、「環境汚染防止分野」「地球温暖化対策分野」「廃棄物処理・資源有効利用分野」「自然環境保護分野」の4分野に分かれ、2018年の市場規模は105兆3203億円と2000年の1.8倍となり、全産業の市場規模に占める割合も、2000年の6.1%から2018年は10.1%まで増加している。将来推計では、環境産業の国内市場規模は、2050年に133.5兆円まで成長を続けると予想されている。環境産業の雇用規模も2000年以来増加を続け、2018年には260.9万人となっているが、今後も市場規模と合わせて雇用規模も拡大していくことが見込まれる。このような社会状況に鑑みした場合、環境科学部が養成する人材は、フィールド生態学科、環境データサイエンス学科ともに、環境系の専門人材として確実な人材需要が見込まれると思われる。

③[フィールド生態学科]卒業生の人材需要

SDGs（持続可能な開発目標）に向けての世界的な取り組みに見られるように、これまで企業にとって経済的なコストとされることが多かった環境面への配慮や環境活動が、企業活動における最優先、最重要課題として積極的に取りこまれるようになり、環境の専門人材のニーズが大きく高まっている。環境や生態学について専門的に学んだ人材は、いまやあらゆる業界の企業に必要な人材となっている。本学が立地する愛知県・中部地区と静岡県西部を含める人口300万人の広域都市圏には、本学以外に自然環境を主たる教育研究対象とする学部は存在しないが、本地域では、失われた生態系の再生と回復、既存の生態系の維持および生物多様性の保全による自然との共生を目指した取り組みが求められている。そのためには、生態系の仕組みを理解し、地域の生態系が抱える課題・現状を調査・把握し、それらの課題を解決する方法を提言し実行できる人材の養成が急務である。フィールド生態学科が養成する生態学を実践的に学んだ人材は、地域の多様な自然環境との共生を実現するため、公務員、製造業、農林水産業をはじめとして様々な業界において必要とされていると言える。

④[環境データサイエンス学科]卒業生の人材需要

官民を挙げた現在のデータサイエンス政策の推進を背景に、データ分析能力を有する人材の就業規模は、2018年度の全国44,200人から、2023年度には141,900人にまで急拡大すると予測されており（出典：株式会社矢野経済研究所「2020-2021 データサイエンティストの育成・活用実態と将来展望」）、データサイエンティストは国内の成長分野を代表する職種のひとつとなりつつあり、その人材需要は今後も拡大していくと予想される。また中京都市圏では、基盤産業である自動車・製造業を中心に多くの中小企業を抱えており、データに基づく業務改善や効率化、新しい産業やサービスの創出が強く望まれている。特に本学が位置する愛知県の西三河地区は、環境に対する住民の関心やCSRに基づく環境分野の中小企業の社会貢献活動も活発であり、環境分野の知識や技術だけでなく、データを活用し地域社会における様々な課題を解決できる人材が求められている。環境教育にデータ解析の教育カリキュラムを組み込み、環境科学とデータサイエンスの両専門的人材を養成する教育課程は、愛知県のみならず全国的にも数少ない取り組みであり、その人材需要は今後増していくと考えている。

（環境科学部共通）

⑤環境科学部の前身となる人間環境学科、環境科学科卒業生の就職実績

環境科学部は、既存の人間環境学部環境科学科及びその前身の人間環境学科（環境コース）を発展的に改組する形で新設する学部である。環境科学科は、教育課程や養成人材像において環境科学部と類似している点も多いため、環境科学部の人材需要を推測する上で参考とすることができる。人間環境学部環境科学科および旧人間環境学科環境コースの過去 5 年の就職率（就職者／就職希望者）は、令和 2 年度卒業が 100%（2 月現在の見込み値）、令和 1 年度卒業が 100%、平成 30 年度卒業が 95.8%、平成 29 年度卒業が 100%、平成 28 年度卒業が 100%と、5 年平均で 99.2%の実績となっており、その卒業生は、企業等の事業所から高い評価を得て採用されている。新たに開設する環境科学部においても、人間環境学部環境科学科の教育研究を発展的に継承していくことから、これまで以上の社会からの人材需要、採用需要を得られると考えている。

3) 総合心理学部

今日の日本社会では、スマートフォンや SNS の普及による人間関係の変容、いじめ・不登校といった教育問題、労働環境におけるストレス・うつ病、発達支援を求める生徒・児童の増加等、“こころ”をめぐると問題は拡大と多様化の一途をたどっており、様々な職域で、心理学の体系的な知識を活用できる人材の希求と需要がますます高まっている。このような社会状況を受けて、本学総合心理学部では、「総合」の名称のとおり、心理学に固有の臨床や認知といった領域はもちろん、脳科学、教育学、社会学、経営学、経済学、情報科学等と隣接する領域も含めて体系的、総合的に心理学の学知を教授することを設置の眼目とすることから、人間心理のあり方を科学的に究明し、現代の個人・社会が直面している諸課題を解決する糸口を見いだすとともに、心理支援の専門家、対人スキル（コミュニケーション能力）を活かしたサービス職、産業カウンセラー・心理アドバイザー・専門職公務員、ビッグデータからアンケート処理まで広くデータ処理が可能な人材等、現代社会の様々な場面（家庭、教育、労働、経営、医療、行政、司法等）で必要とされる人材を育成する。

心理系人材の需要についての全国的、全般的な状況については、上記の心理学科の項目において説明した通りであるので、ここでは愛媛県に立地する総合心理学部の卒業生の地域的な人材需要について説明する。

① 総合心理学部卒業生の採用意向アンケート調査

本学が設置を予定する総合心理学部（心理学科・犯罪心理学科）の卒業生の人材需要の見通しを測定するため、卒業後の就職先として想定される企業等の事業所を対象として、採用意向アンケート調査（資料 9）を実施した。227 事業所から回答があり、その調査結果は以下の通りとなった。

本調査において、総合心理学部の養成人材の社会的なニーズについては、「総合心理学部の養成人材のニーズは高い」との回答が 91 事業所（40.1%）より得られた。卒業予定者の採用意向については、「総合心理学部の卒業生を採用したい」との回答が 88 事業所（38.8%）より得られた。また採用の場合の採用人数の合計は、115 人（88 事業所より）となった。

以上の調査結果により、総合心理学部の入学定員 80 人を上回る採用需要があることが示されている。

（資料 9 「人間環境大学総合心理学部（仮称）採用意向アンケート調査報告書」）

②総合心理学部の卒業後の進路

総合心理学部の卒業生の活躍が想定できる分野としては、心理支援職はもちろんのこと、多様な業種、職業分野が考えられる。具体的には、①心理学を通じた人間心理の理解を直接的な対人場面（営業、接客、接客、交渉・折衝等）で活かす営業職全般、ホスピタリティ業界（ホテル、航空、アパレル、観光業界など）、②商品企画、広告デザイン、組織デザイン、環境デザイン等の設計に活かす広報、広告企画職、宣伝、宣伝企画職、イベント業、③臨床心理の知識を行政や司法で活かす国家公務員（Ⅱ種・行政職）、地方公務員（行政職）、公共統計情報管理職、科学捜査研究所職員（心理）、家庭裁判所調査官、児童福祉司、児童指導員、法務教官、矯正心理専門職（法務技官）、防衛省職員（臨床心理士）、④心の支援を必要とする人たちのサポートに活かす家庭裁判所調査官、児童福祉司、児童指導員、法務教官、矯正心理専門職（法務技官）、防衛省職員（臨床心理士）、児童相談所職員、産業カウンセラー、心理アドバイザー、企業内カウンセラー、⑤統計学・調査法の知識をデータ分析やデータ処理に活かすマーケティングデータ分析職、WEB 広告分析職、データサイエンティスト、システムエンジニア等が卒業後の進路として考えられ、幅広い職域で活躍の場をえることが期待できる。

上記のうちの心理専門職への就業については、大学院修了と公認心理師、臨床心理士の資格取得が必要とされることが多いが、本学部においては希望者に対して、将来の公認心理師や臨床心理士を見据えた履修指導を行う。

③地域における人材需要（愛媛県）

上述したマーケティング、広報、営業、接客（ホスピタリティ）、観光等の業種については、総合心理学部が立地する愛媛県松山市は、四国随一の都市として多くの企業が集積しており、また道後温泉に代表されるホテル等のホスピタリティ関連業も大きな雇用規模を持っていることから、地域における人材需要は高いと言える。また愛媛県の有効求人倍率はこの 10 年間上昇傾向にあり、ここ数年は安定的に毎年 1.0 倍を超える状況（出典：愛媛労働局「管内の雇用失業情勢（令和 2 年 11 月分）について」2020 年）」となっている。さらに、愛媛県では企業（全業種）の 90%が、新卒採用の応募状況について「質、量あるいはその両面で不十分」と判断しており、採用結果については、企業の 88%が「厳しい」と認識している（出典：いよぎん地域経済研究センター「IRC Monthly 2018 年 4 月号 No. 358」※愛媛県内に事業所を置く法人 826 社から 2018 年 4 月入社の新卒採用を行った企業 255 社からの回答を集計）ことから、愛媛県内の新卒採用市場では人材不足の状況が見られている。

また臨床心理士の登録数についても、愛媛県には 230 名（2020 年 7 月、日本臨床心理士資格認定協会）の登録となっており、大都市圏（東京都、愛知県、大阪府、福岡県）や全国状況と比較すると、臨床心理士ひとりあたりの従業者数はもっとも多く（愛媛県 2,464 名 > 全国 1,652 名 > 東京都 1,376 名）、事業所一箇所あたりの臨床心理士数はもっとも少なく（東京都 0.0095 名 > 全国 0.0062 名 > 愛媛県 0.0035 名）、大都市圏や全国平均の状況からも出遅れた状態にあることから、臨床心理士の養成の期待も大きいと言える。

④地方公務員（心理職）における人材需要（愛媛県）

地方上級心理職公務員は、都道府県や政令市等の自治体に所属し、児童心理司、心理判定員として、心理面接、心理診断、心理学的援助等の児童相談所の業務に従事する職である。愛媛県では、知的障

害者更正相談所、身体障害者更正相談所、愛媛県心と体の健康センター、愛媛県立子ども療育センター、公的医療機関等における心理職がある。令和2年度の愛媛県の心理職の採用試験の結果を見ると、募集人員が4人程度に対し、受験者が17人、最終合格者が4人となっており、競争倍率は4.3倍である。また全国の都道府県（239）と政令指定都市（105）を合わせた募集総数は約344人（令和2年度）である。採用枠が大きくはなく、また心理学部や心理学科以外の卒業生も受験できることで、就職に至ることは容易ではないが、総合心理学部卒業生が心理学の専門性を活かした就職口として一つの選択肢となる。

以上

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

(学生確保)

- 資料1 人間環境大学心理学部（仮称）・環境科学部（仮称）入学意向アンケート調査報告書
- 資料2 人間環境大学既設学部の学生募集状況
- 資料3 中部地区の心理系学部の学生募集状況
- 資料4 中部地区の環境系学部の学生募集状況
- 資料5 人間環境大学総合心理学部（仮称）入学意向アンケート調査報告書
- 資料6 四国・中国地区の心理系学部の学生募集状況

(人材需要)

- 資料7 人間環境大学心理学部（仮称）採用意向アンケート調査報告書
- 資料8 人間環境大学環境科学部（仮称）採用意向アンケート調査報告書
- 資料9 人間環境大学総合心理学部（仮称）採用意向アンケート調査報告書

人間環境大学
心理学部（仮称）・環境科学部（仮称）
入学意向アンケート調査
報告書

令和 3 年 1 月 31 日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

1.	心理学部・環境科学部	入学意向アンケート調査	概要	P	3
2.	心理学部・環境科学部	調査実施高等学校等一覧		P	4
3.	心理学部・環境科学部	入学意向アンケート調査	集計結果	P	6
4.	心理学部・環境科学部	入学意向アンケート調査	結果の要点	P	9
	(添付資料)	心理学部・環境科学部	入学意向アンケート調査用紙		

1. 心理学部・環境科学部 入学意向アンケート調査 概要

調査目的	令和4年(2022年)度に設置予定の「人間環境大学心理学部(仮称)、環境科学部(仮称)」における志願者・入学者の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	令和4年3月に高校卒業予定である高校2年生(令和2年度)をアンケートの対象とした。 人間環境大学心理学部(仮称)、環境科学部(仮称)の主たる学生募集エリアと想定される、愛知県を中心とした中部地区の高等学校及び中等教育学校にアンケート実施を依頼し、60校から調査の協力を得た。
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の基本情報(居住地・性別・希望進路・興味のある学問分野) ・人間環境大学心理学部(仮称)、環境科学部(仮称)への受験・入学意志 ・心理学部(仮称)、環境科学部(仮称)を受験する場合の第1希望の学科 ・受験意志を持たない者に対するその理由 (すべて選択肢式)
調査時期	令和2年9月～12月
調査方法	調査実施の了承が得られた高校に対しアンケート用紙を送付し、各校の教職員の監督のもと、高校において実施した。
回収件数	有効回答数: 7,953件(60校)
調査結果	<p>(心理学部)</p> <p>心理学部(仮称)について、予定する入学定員150名に対し、709人(8.9%)が「(心理学部を)受験したい」と回答し、「受験したい」の回答者のうち243人(3.1%)が「(心理学部に)合格した場合、入学したい」と回答した。</p> <p>「(心理学部を)受験したい」の回答者709人のうち、心理学科を第一志望とする者は462人(5.8%)、犯罪心理学科を第一志望とする者は247人(3.1%)であった。</p> <p>(環境科学部)</p> <p>環境科学部(仮称)について、予定する入学定員100名に対し、366人(4.6%)が「(環境科学部を)受験したい」と回答し、「受験したい」の回答者のうち128人(1.6%)が「(環境科学部に)合格した場合、入学したい」と回答した。</p> <p>「(環境科学部を)受験したい」の回答者366人のうち、フィールド生態学科を第一志望とする者は216人(2.7%)、環境データサイエンス学科を第一志望とする者は150人(1.9%)であった。</p>

【資料 1】 2

別添資料として、心理学部・環境科学部 調査実施高等学校等一覧 2 枚を添付した。

3. 心理学部・環境科学部 入学意向アンケート調査 集計結果

有効回収件数（回答者合計）・調査実施高校数				7,953人	60校
問	設問		選択肢	回答数	割合
問1	あなたの性別についてお尋ねします。 (択一回答)	1	男性	3,658	46.0%
		2	女性	4,282	53.8%
			無回答	13	0.2%
			合計	7,953	100.0%
問2	あなたのお住まい（現住所）についてお尋ねします。 (択一回答)	1	愛知県	4,728	59.4%
		2	岐阜県	1,516	19.1%
		3	三重県	252	3.2%
		4	静岡県	1,240	15.6%
		5	その他	211	2.7%
			無回答	6	0.1%
			合計	7,953	100.0%
問3	あなたは高校を卒業後、どのような進路をお考えですか。 (択一回答)	1	大学	4,596	57.8%
		2	短期大学	319	4.0%
		3	専門学校	1,373	17.3%
		4	就職	980	12.3%
		5	その他・未定	677	8.5%
			無回答	8	0.1%
			合計	7,953	100.0%
問4	あなたは進学先で学ぶ分野としてどの分野に興味を持っていますか。 (複数回答)	1	人文学（文学・歴史学・外国語・国際・哲学・心理学）	1,995	25.1%
		2	農学（農学・環境学・生物学・動物学・植物学・畜産学・水産学）	656	8.2%
		3	社会科学（法学・政治学・商学・経営学・経済学・社会学）	1,553	19.5%
		4	理学・工学	959	12.1%
		5	医学・歯学・薬学	623	7.8%
		6	保健衛生学（看護学・リハビリテーション・健康科学）	1,439	18.1%
		7	家政学（生活科学・栄養学・被服学）	696	8.8%
		8	教育学・保育・教員養成	1,260	15.8%
		9	芸術学・保健体育（美術・音楽・デザイン・スポーツ）	1,612	20.3%
		10	情報（コンピュータ・データサイエンス）	808	10.2%
			該当なし・無回答	442	5.6%
	合計 n=7953	7,953	100.0%		
問5	あなたが将来、希望する就職・進路についてお尋ねします。 (択一回答)	1	民間企業	2,110	26.5%
		2	公務員	1,163	14.6%
		3	教員	578	7.3%
		4	研究者	112	1.4%
		5	専門職	2,302	28.9%
		6	その他	1,672	21.0%
			無回答	16	0.2%
	合計	7,953	100.0%		
問6	あなたは、心理学に興味・関心はありますか。 (択一回答)	1	心理学（臨床心理学・犯罪心理学・社会心理学・発達心理学などを含む）に興味がある。	3,369	42.4%
		2	心理学に興味・関心はない。	4,575	57.5%
			無回答	9	0.1%
			合計	7,953	100.0%

問 7	あなたは、環境学に興味・関心はありますか。 (択一回答)	1	環境学(生態学・生物学・農学・経済学・社会学・情報学関連等を含む)に興味がある。	1,891	23.8%
		2	環境学に興味・関心はない。	6,051	76.1%
			無回答	11	0.1%
			合計	7,953	100.0%
問 8	人間環境大学心理学部(心理学科・犯罪心理学科)には、以下のような特色があります。あなたの興味・関心がある内容について教えてください。 (複数回答)	1	心理学を専門的かつ実践的に幅広く学び、卒業後に心理の専門職を目指せる点	1,645	20.7%
		2	将来的に臨床心理士・公認心理師の資格取得を目指す点	1,112	14.0%
		3	臨床心理士の養成を行っている大学院が併設されている点	321	4.0%
		4	少人数教育やゼミナール授業により心理学を主体的に深く学べる点	667	8.4%
		5	日本で数少ない犯罪心理学科での専門的な学びが可能な点	1,669	21.0%
		6	特に興味・関心はない	4,433	55.7%
			無回答	12	0.2%
	合計	7,953	100.0%		
問 9	人間環境大学環境科学部(フィールド生態学科・環境データサイエンス学科)には以下のような特色があります。あなたの興味・関心がある内容について教えてください。 (複数回答)	1	動物・植物・物質動態等の生態学が学べる点	1,771	22.3%
		2	データサイエンスを活用した環境学を学べる点	309	3.9%
		3	森林・農地・河川・海洋などをフィールドに、生態学の野外調査や研究ができる点	923	11.6%
		4	実社会のデータを解析するためのプログラミング実習などが開設される点	455	5.7%
		5	文理融合型のカリキュラムでデータサイエンスを学べる点	225	2.8%
		6	特に興味・関心はない	5,241	65.9%
			無回答	13	0.2%
	合計	7,953	100.0%		
問 10	あなたは、人間環境大学「心理学部」または「環境科学部」を受験したいと思いますか。 (択一回答)	1	心理学部を受験したい	709	8.9%
		2	環境科学部を受験したい	366	4.6%
		3	受験は考えていない	6,872	86.4%
			無回答	6	0.1%
	合計	7,953	100.0%		
問 11	【問 10 の「心理学部を受験したい」の回答者のみ】 「心理学部」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。 (択一回答)	1	(心理学部に)入学したい	243	3.1%
		2	(心理学部に)併願校の結果によっては入学したい	466	5.9%
			無回答	0	0.0%
			合計 n=709 (%は総回答者数 7953 人に対する割合)	709	8.9%
問 12	【問 10 の「心理学部を受験したい」の回答者のみ】 「心理学部」に合格した場合、どちらの学科が第一志望となりますか。 (択一回答)	1	心理学科	462	5.8%
		2	犯罪心理学科	247	3.1%
			無回答	0	0.0%
			合計 n=709 (%は総回答者数に対する割合)	709	8.9%
問 13	【問 10 の「環境科学部を受験したい」の回答者のみ】 「環境科学部」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。(択一回答)	1	(環境科学部に)入学したい	128	1.6%
		2	(環境科学部に)併願校の結果によっては入学したい	238	3.0%
			無回答	0	0.0%
			合計 n=366 (%は総回答者数に対する割合)	366	4.6%

問 14	【問 10 の「環境科学部を受験したい」の回答者のみ】 「環境科学部」に合格した場合、どちらの学科が第一志望となりますか。(択一回答)	1	フィールド生態学科	216	2.7%
		2	環境データサイエンス学科	150	1.9%
			無回答	0	0.0%
			合計 n=366 (%は総回答者数に対する割合)	366	4.6%
問 15	【問 10 の「受験は考えていない」の回答者のみ】 あなたが【問 10】で「受験は考えていない」と回答された理由について教えてください。 (複数回答)	1	興味・関心のある分野ではないから	4,499	65.5%
		2	興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから	1,419	20.6%
		3	大学への進学を考えていないから	944	13.7%
		4	人間環境大学への進学を希望しないから	944	13.7%
		5	通学が不便だから	323	4.7%
		6	学費が高いから	392	5.7%
		7	その他	576	8.4%
			無回答	17	0.2%
	合計 n=6872	6,872	100.0%		

※「構成比」(%)はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

4. 心理学部・環境科学部 入学意向アンケート調査 結果の要点

【心理学部】

要点 1) 心理学分野への興味

臨床心理学・犯罪心理学・社会心理学・発達心理学などを含む心理学に対する興味、関心について質問したところ(問 6)、アンケート実施合計 7,953 人のうち、4 割以上の 3,369 人(42.4%)より「興味がある」との回答を得た。心理学については、非常に高い割合で高校生に興味・関心を持たれていることが示された。

問 6 [心理学への興味]	回答数	割合
心理学(臨床心理学・犯罪心理学・社会心理学・発達心理学などを含む)に興味がある。	3,369 人	42.4%
心理学に興味・関心はない	4,575 人	57.5%
無回答	9 人	0.1%
合計	7,953 人	100.0%

要点 2) 人間環境大学心理学部の受験意志

新設予定である人間環境大学心理学部への受験意志を質問したところ(問 10)、アンケート実施合計 7,953 人のうち、709 人(8.9%)より受験意志が示され、入学定員(予定)である 150 人を上回る結果(入学定員の 4.7 倍)となった。

問 10 [受験意志]	回答数	割合
心理学部を受験したい	709 人	8.9%
環境科学部を受験したい・両学部とも受験しない	7,238 人	91.0%
無回答	6 人	0.1%
合計	7,953 人	100.0%

要点 3) 人間環境大学心理学部への入学意志

問 10 で心理学部への受験意志を示した 709 人のうち、243 人(34.3%、全体の 3.1%)が「合格した場合、入学したい」との回答となり、第 1 希望としての入学意志を示した者のみで、心理学部の入学定員(予定)である 150 人を上回る結果(入学定員の 1.6 倍)となった。

問 11 [心理学部への入学意志] ※問 10 において受験意志を示した 709 人のみ回答	回答数	割合
(心理学部に)入学したい	243 人	3.1%
併願先の結果によっては(心理学部に)入学したい	466 人	5.9%
合計 n=709	709 人	8.9%

要点 4) 心理学部における第 1 志望の学科

問 10 で心理学部への受験意志を示した 709 人に対し、第 1 志望の学科を質問したところ、462 人 (65.2%、全体の 5.8%) が「心理学科を第 1 志望」との回答、247 人 (34.8%、全体の 3.1%) が「犯罪心理学科を第 1 志望」との回答があり、ともに学科の入学定員を上回った。

問 12 [心理学部における第 1 志望の学科] ※問 10 において受験意志を示した 709 人のみ回答	回答数	割合
心理学科が第 1 志望	462 人	5.8%
犯罪心理学科が第 1 志望	247 人	3.1%
合計 n=709	709 人	8.9%

要点 5) 心理学部への入学意向と第 1 志望の学科のクロス集計

問 11 の「心理学部への入学意向」と問 12 の「第 1 志望の学科」のクロス集計を取ったところ、心理学科を「第 1 志望」として「入学したい」と回答した者は 183 人 (全体の 2.3%)、犯罪心理学科を「第 1 志望」として「入学したい」と回答した者は 60 人 (全体の 0.7%) となり、心理学科の予定する入学定員 100 人、犯罪心理学科の予定する入学定員 50 人をともに上回る結果となった。

問 11[心理学部への入学意向]と 問 12[心理学部の第 1 志望の学科] のクロス集計		【問 12】「心理学部」に合格した場合、どちらの 学科が第一志望となりますか。(択一回答)		
		心理学科	犯罪心理学科	合計
【問 11】 「心理学部」を 受験し合格した 場合、入学した いと思います か。 (択一回答)	入学したい	183 人	60 人	243 人
	併願校の結果によっては 入学したい	279 人	187 人	466 人
	合計	462 人	247 人	709 人

【環境科学部】

要点6) 環境学分野への興味

生態学・生物学・農学・経済学・社会学・情報学関連などを含む環境学に対する興味、関心について質問したところ(問7)、アンケート実施合計7,953人のうち、2割以上の1,891人(23.8%)より「興味がある」との回答を得た。

問7 [環境学への興味]	回答数	割合
環境学(生態学・生物学・農学・経済学・社会学・情報学関連等を含む)に興味がある。	1,891人	23.8%
環境学に興味・関心はない	6,051人	76.1%
無回答	11人	0.1%
合計	7,953人	100.0%

要点7) 人間環境大学環境科学部の受験意志

新設予定である人間環境大学環境科学部への受験意志を質問したところ(問10)、アンケート実施合計7,953人のうち、366人(4.6%)より受験意志が示され、入学定員(予定)である100人を上回る結果(入学定員の3.6倍)となった。

問10 [受験意志]	回答数	割合
環境科学部を受験したい	366人	4.6%
心理学部を受験したい・両学部とも受験しない	7,581人	95.3%
無回答	6人	0.1%
合計	7,953人	100.0%

要点8) 人間環境大学環境科学部への入学意志

問10で受験意志を示した366人のうち、128人(35.0%、全体の1.6%)が「合格した場合、(環境科学部に)入学したい」との回答となり、第1希望としての入学意志を示した者のみで、環境科学部の入学定員(予定)である100人を上回る結果(入学定員の1.2倍)となった。

問13 [環境科学部への入学意志] ※問10において受験意志を示した366人のみ回答	回答数	割合
(環境科学部に)入学したい	128人	1.6%
併願先の結果によっては(環境科学部に)入学したい	238人	3.0%
合計 n=366	366人	4.6%

要点 9) 環境科学部における第 1 志望の学科

問 10 で環境科学部への受験意志を示した 366 人に対し、第 1 志望の学科を質問したところ、216 人 (59.0 %、全体の 2.7%) が「フィールド生態学科を第 1 志望」との回答、150 人 (41.0%、全体の 1.9%) が「環境データサイエンス学科を第 1 志望」との回答があり、ともに学科の入学定員を上回った。

問 14 [環境科学部における第 1 志望の学科] ※問 10 において受験意志を示した 366 人のみ回答	回答数	割合
フィールド生態学科が第 1 志望	216 人	2.7%
環境データサイエンス学科が第 1 志望	150 人	1.9%
合計 n=366	366 人	4.6%

要点 10) 環境科学部への入学意向と第 1 志望の学科のクロス集計

問 13 の「環境科学部への入学意向」と問 14 の「第 1 志望の学科」のクロス集計を取ったところ、フィールド生態学科を「第 1 志望」として「入学したい」と回答した者は 71 人 (全体の 0.9%)、環境データサイエンス学科を「第 1 志望」として「入学したい」と回答した者は 57 人 (0.7%) となり、フィールド生態学科の予定する入学定員 60 人、環境データサイエンス学科の予定する入学定員 40 人をもとに上回る結果となった。

問 13[環境科学部への入学意向]と 問 14[環境科学部の第 1 志望の学科] のクロス集計		【問 14】「環境科学部」に合格した場合、どちらの学科が第一志望となりますか。(択一回答)		
		フィールド生態学科	環境データサイエンス学科	合計
【問 13】 「環境科学部」 を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。 (択一回答)	入学したい	71 人	57 人	128 人
	併願校の結果によっては入学したい	145 人	93 人	238 人
	合計	216 人	150 人	366 人

(補足) 本アンケートの設問構造について

※問10、問11、問12、問13、問14は全て択一回答になっており、受験意志、入学意志、第1志望の学科についての設問において、心理学科、犯罪心理学科、フィールド生態学科、環境データサイエンス学科の各学科の重複回答はなく、設問構造上、全ての回答は単独のユニーク回答者によるものである。以上の設問構造により、本アンケートの結果の妥当性を担保した。(本アンケートの設問構造は以下の表を参照)

調査合計	問10	問11・問13	問12・問14
7,953人	心理学部への受験意志 「心理学部を受験したい」 709人	心理学部への入学意志 「入学したい」 243人	第1志望：心理学科 183人
			第1志望：犯罪心理学科 60人
		心理学部への入学意志 「併願先の結果によっ ては入学したい」 466人	第1志望：心理学科 279人
		第1志望：犯罪心理学科 187人	
	環境科学部への受験意志 「環境科学部を受験したい」 366人	環境科学部への入学意 志 「入学したい」128人	第1志望：フィールド生態学科 71人
			第1志望：環境データサイエンス学科 57人
		環境科学部への入学意 志 「併願先の結果によっ ては入学したい」238人	第1志望：フィールド生態学科 145人
	第1志望：環境データサイエンス学科 93人		
両学部とも受験しない・無回答 6,878人			

以上



人間環境大学

心理学部

心理学科・犯罪心理学科

環境科学部

フィールド生態学科・環境データサイエンス学科

《学部・学科名称は全て仮称・2022年4月設置構想中》



入学意向アンケート調査

対象：高校2年生（2020年）

人間環境大学（愛知県岡崎市本宿町上三本松 6-2）は、2022年4月に心理学部（仮称）、環境科学部（仮称）の開設を構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、高校生の皆様からさまざまなご意見をお伺いし、両学部の構想の参考にさせていただきたいと考えています。なお、本アンケートは匿名回答であり、個人が特定されることはありません。また、集計結果は、本学部の設置構想に係る統計資料、設置認可申請資料としてのみ活用いたします。つきましては、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

問1 あなたの性別についてお尋ねします。（あてはまるもの1つにマーク）

男性 女性

問2 あなたのお住まい（現住所）についてお尋ねします。（あてはまるもの1つにマーク）

愛知県 岐阜県 三重県 静岡県 その他

問3 あなたは高校を卒業後、どのような進路をお考えですか。（あてはまるもの1つにマーク）

大学 短期大学 専門学校 就職 その他・未定

問4 あなたは進学先で学ぶ分野としてどの分野に興味を持っていますか。（あてはまるものすべてにマーク）

- 人文学（文学・歴史学・外国語・国際・哲学・心理学）
- 農学（農学・環境学・生物学・動物学・植物学・畜産学・水産学）
- 社会科学（法学・政治学・商学・経営学・経済学・社会学）
- 理学・工学
- 医学・歯学・薬学
- 保健衛生学（看護学・リハビリテーション・健康科学）
- 家政学（生活科学・栄養学・被服学）
- 教育学・保育・教員養成
- 芸術学・保健体育（美術・音楽・デザイン・スポーツ）
- 情報（コンピュータ・データサイエンス）

次ページにも質問があります。



本アンケート調査用紙に印刷されているQRコードは集計時に使用するものです。個人を特定を目的とするものではありません。



問 5 あなたが将来、希望する就職・進路についてお尋ねします。(あてはまるもの1つにマーク)

- 民間企業 公務員 教員 研究者 専門職 その他

問 6 あなたは、心理学に興味・関心はありますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 心理学(臨床心理学・犯罪心理学・社会心理学・発達心理学などを含む)に興味がある。
 心理学に興味・関心はない。

問 7 あなたは、環境学に興味・関心はありますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 環境学(生態学・生物学・農学・経済学・社会学・情報学関連等を含む)に興味がある。
 環境学に興味・関心はない。

※以下の質問は「人間環境大学 心理学部(仮称)／環境科学部(仮称)の概要」をご覧の上でお答えください。

問 8 人間環境大学心理学部(心理学科・犯罪心理学科)には、以下のような特色があります。あなたの興味・関心がある内容について教えてください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 心理学を専門的かつ実践的に幅広く学び、卒業後に心理の専門職を目指せる点
 将来的に臨床心理士・公認心理師の資格取得が目標になる点
 臨床心理士の養成を行っている大学院が併設されている点
 少人数教育やゼミナール授業により心理学を主体的に深く学べる点
 日本で数少ない犯罪心理学科での専門的な学びが可能な点
 特に興味・関心はない

問 9 人間環境大学環境科学部(フィールド生態学科・環境データサイエンス学科)には以下のような特色があります。あなたの興味・関心がある内容について教えてください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 動物・植物・物質動態等の生態学が学べる点
 データサイエンスを活用した環境学を学べる点
 森林・農地・河川・海洋などをフィールドに、生態学の野外調査や研究ができる点
 実社会のデータを解析するためのプログラミング実習などが開設される点
 文理融合型のカリキュラムでデータサイエンスを学べる点
 特に興味・関心はない





問10 あなたは、人間環境大学「心理学部」または「環境科学部」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 心理学部を受験したい 環境科学部を受験したい 受験は考えていない

<問11、問12は、問10で「心理学部を受験したい」と回答された方のみにお尋ねします。>

問11 「心理学部」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 入学したい 併願校の結果によっては入学したい

問12 「心理学部」に合格した場合、どちらの学科が第一志望となりますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 心理学科 犯罪心理学科

<問13、問14は、問10で「環境科学部を受験したい」と回答された方のみにお尋ねします。>

問13 「環境科学部」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 入学したい 併願校の結果によっては入学したい

問14 「環境科学部」に合格した場合、どちらの学科が第一志望となりますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- フィールド生態学科 環境データサイエンス学科

<問10で「受験は考えていない」と回答された方のみにお尋ねします。>

問15 あなたが【問10】で「受験は考えていない」と回答された理由について教えてください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 興味・関心のある分野ではないから
 興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから
 大学への進学を考えていないから
 人間環境大学への進学を希望しないから
 通学が不便だから
 学費が高いから
 その他

質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございました。





【人間環境大学心理学部、環境科学部の学納金（予定）】

学費（予定）	人間環境大学 心理学部 (心理学科・犯罪心理学科)	人間環境大学 環境科学部 (フィールド生態学科・ 環境データサイエンス学科)
	入学金：200,000円 授業料等：1,130,000円 初年度納入金：1,330,000円	入学金：200,000円 授業料等：1,130,000円 初年度納入金：1,330,000円

※成績優秀者に対する授業料減免制度、奨学金制度を整備しています。

（参考）【同分野の学部学科の情報】

（心理学分野）

大学	学部学科	所在地	入学金	授業料等	初年度納入金
愛知学院大学	心身科学部心理学科	愛知県日進市	240,000	1,169,000	1,409,000
愛知淑徳大学	心理学部心理学科	愛知県長久手市	200,000	1,185,000	1,385,000
椋山学園大学	人間関係学部心理学科	愛知県日進市	200,000	1,124,660	1,324,660
金城学院大学	人間科学部多元心理学科	名古屋市守山区	200,000	1,155,800	1,355,800
東海学園大学	心理学部心理学科	名古屋市天白区	250,000	1,100,000	1,350,000
中京大学	心理学部心理学科	名古屋市昭和区	200,000	1,240,000	1,440,000
中部大学	人文学部心理学科	愛知県春日井市	280,000	1,193,300	1,473,300
日本福祉大学	教育・心理学部心理学科	愛知県知多郡	200,000	1,109,660	1,309,660

（環境学分野）

大学	学部学科	所在地	入学金	授業料等	初年度納入金
名城大学	農学部生物環境科学科	名古屋市	200,000	1,285,000	1,485,000
中部大学	応用生物学部環境生物科学科	愛知県春日井市	280,000	1,393,300	1,673,300

※学納金（2020年度）のデータは各大学のHP及び旺文社「蜚雪時代」から引用

【人間環境大学へのアクセス】

愛知県岡崎市本宿町上三本松 6-2

名古屋鉄道本線「本宿」駅

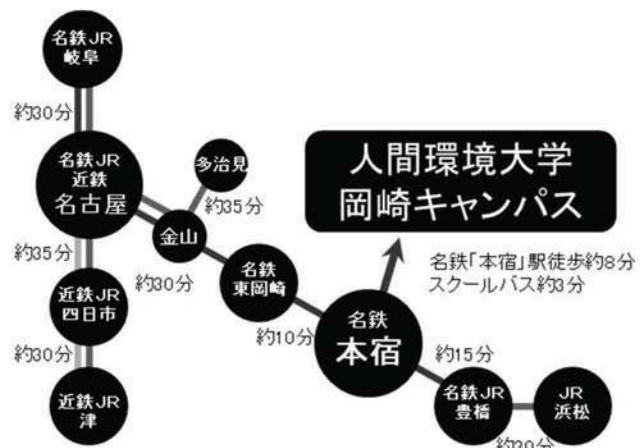
[名古屋駅から45分]

[豊橋駅から15分]

「本宿」駅下車

徒歩8分

バス3分（スクールバス運行）



人間環境大学 心理学部

仮称・2022年4月
設置構想中

心理学科

仮称・
設置構想中

入学定員100人 / 学位：学士（心理学）

学科の特色

①社会における心の問題に関する幅広い学び

心の問題の理解、一生涯の発達、対人関係など心理学の主要な分野を、基礎的な範囲から応用的な範囲まで段階的に学び、現代社会の様々な「こころの問題」のエキスパートを目指します。

②実務経験豊富な教員による教育と 「実践・研究スキル科目」の充実

臨床心理の実務経験豊富な教員による授業を通して心理学の知識と実践を結びつけることができます。また、個々の目標とテーマに応じた主体的な学びを支える「実践・研究スキル科目」の充実により、学生自らが心理学を深く探究することができます。

③心理支援の専門職と組織に貢献できる 人材の育成

「臨床・障害」「子ども・発達」「対人・社会」の3分野から主領域と副領域を学び、個人の支援はもちろん連携にも強い心理専門職を目指せます。さらに大学院修了等の要件を満たすことで公認心理師（国家資格）や臨床心理士の資格取得を目指せます。また、「産業・組織心理学」「消費者心理学」などを学び一般企業においても知識を活かすことができます。

養成する人材

現代社会における心の問題や心の健康について学び、その専門的知識や支援に関する実践力をもって、医療・教育・労働など心にかかわる課題解決を必要とされる多くの場において貢献できる人材を育成します。

取得可能な資格等（予定）

- ①公認心理師（※1）、臨床心理士（※2）
※1 本学で指定科目を履修して卒業し、大学院で指定科目を履修して修了するか、指定された機関において定められた期間の実務を経験することで受験資格を得られます。
※2 本学大学院修了後、受験資格が得られます。
- ②認定心理士
- ③メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種

セールスポイント

- ①公認心理師国家試験受験資格取得に対応したカリキュラムを整備します。
- ②愛知県三河地区における私立大学で唯一の臨床心理士第1種指定大学院を併設しています。
※本学大学院開設後16年間 臨床心理士資格審査 合計合格率94.3%
[令和元年度 全国平均合格率 62.7%]
- ③臨床心理士実務経験を持つ教員が3分の2を占めます。

卒業後の進路

- ①心理専門職：スクールカウンセラー、病院・クリニック心理士、研究職
※大学院修了と臨床心理士や公認心理師の資格が求められることが多い
- ②公務員：児童心理司、心理判定員、児童指導員
- ③一般企業：マーケティング、営業・販売、企画・広告、メンタルヘルス関係、企業の人事部門など
- ④大学院進学

※上記に記載した内容は全て計画中の予定であり、変更の可能性があります。
(裏面の人間環境大学環境科学部の説明もご覧ください。)

犯罪心理学科

仮称・
設置構想中

入学定員50人 / 学位：学士（心理学）

学科の特色

①犯罪心理学を追究する高度な専門教育

法心理学領域、犯罪科学領域、犯罪臨床領域、捜査・防犯心理学領域の4領域を設置し、犯罪心理学の専門的知識を包括的かつ深く学ぶことができます。また、犯罪心理学領域の専門家が多数在籍し、高度な専門教育を提供します。

②少人数教育による実践的学習

1学年50名の徹底した少人数教育により、学びの理解を深め、一人ひとりの個性、進路に応じたきめ細やかな指導を実現するとともに、実験、実習などの体験型の授業を通して、社会に活かせる実践的なスキルを身につけます。

③社会問題の解決に貢献できる人材の育成

実務に直結するカリキュラムと高度な専門教育により、犯罪捜査、裁判、矯正、予防・更生・保護、防犯など、犯罪行為やそれをとりまく周辺事象に対する多様な関連機関、業種・企業において活躍できる人材を育成します。卒業後の進路として、警察官、裁判所調査官、保護観察官などの犯罪心理学に関連した専門職を目指すことも可能です。

養成する人材

心理学および犯罪心理学に関する専門的知識、多角的な視点に立脚した思考力と実践力を身につけ、多様化した現代社会が抱える諸問題の分析・解決に貢献できる人材を育成します。

取得可能な資格等（予定）

- ①公認心理師（※1）、臨床心理士（※2）
※1 本学で指定科目を履修して卒業し、大学院で指定科目を履修して修了するか、指定された機関において定められた期間の実務を経験することで受験資格を得られます。
※2 本学大学院修了後、受験資格が得られます。
- ②認定心理士
- ③メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種

セールスポイント

- ①現代社会が抱える諸問題の分析・解決に直結する学びが可能です。
- ②公認心理師国家試験受験資格取得に対応したカリキュラムを整備します。
- ③愛知県三河地区における私立大学で唯一の臨床心理士第1種指定大学院を併設しています。
※本学大学院開設後16年間 臨床心理士資格審査 合計合格率94.3%
[令和元年度 全国平均合格率 62.7%]

卒業後の進路

- ①専門職（公務員）：警察官、家庭裁判所調査官、法務技官（心理）、法務教官、保護観察官
- ②研究職：科学警察研究所職員、科学捜査研究所職員
- ③一般企業：警備会社、セキュリティ関連企業、防犯機器メーカーなど
- ④大学院進学

人間環境大学

環境科学部

仮称・2022年4月
設置構想中

フィールド生態学科

仮称・
設置構想中

入学定員60人 / 学位：学士（環境科学）

学科の特色

①キャンパスを囲む豊かな自然の中での実践的な学び

本学岡崎キャンパス周辺の森林、農地、河川、海洋などをフィールドに、1年次から3年次までのフィールドワーク型実習を通して、野外調査の知識や技能を体系的に身につけることで、4年次の卒業研究では実践的な調査・研究ができるようになります。

②生態系を構成する多様な対象群の専門家による専門教育

陸上の野生動物や鳥類、海にすむイルカなどの野生動物、昆虫類、魚類といった動物群、草本類、樹木類、農作物類といった植物群に加え、それらが生息・生育する土壌や水環境の物質動態の専門家である教員がそれぞれの視点で生態系を語ることで、生態系を多面的に理解します。

③自然共生社会の構築に向けた、社会問題の解決に貢献できる人材の育成

生物と環境との関係や生物同士の関係を解き明かす生態学を中心に学び、絶滅危惧種の保護や、社会問題となっている野生動物の管理など現在生じている自然環境と人間社会との複雑な問題の解決方法を考えます。

養成する人材

動物・植物・生態系機能に関する専門知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成します。

取得可能な資格等（予定）

- ・ピオトープ管理士
- ・鳥獣管理士
- ・生物分類技能検定

セールスポイント

- ①入学時からの専門教育プログラム
- ②充実した設備環境
- ③理系学科としてはリーズナブルな学費

卒業後の進路

- ①公務員：環境系・農学系
- ②専門職：環境コンサルタント・生物調査会社・農業法人・森林組合・動物園・水族館
- ③一般企業：建設、土木、造園、緑化関係、環境調査等
- ④大学院進学：国公立大学大学院を中心とする生態学系・農学系・環境化学系

環境データサイエンス学科

仮称・
設置構想中

入学定員40人 / 学位：学士（環境科学）

学科の特色

①データから課題を読み解き、新しい価値を創造する人材の育成

我々が直面する様々な自然・社会・環境問題をグローバルな視点から捉えデータという切り口から課題を読み解く力を養います。また、データサイエンスの知識と技術により課題を解決し、新しい価値を醸成する人材を育成します。

②少人数教育による文理融合型の実践的学習

自然・社会・都市を対象とした文理融合型の環境分野において、1学年40名の徹底した少人数教育を実現します。また、1年次より、地域を対象としたフィールド調査実習や、実社会データを解析するためのプログラミング実習などの実践型教育を提供し、2年次以降の専門教育の基礎を習得します。

③環境・農業・情報関連企業、公的機関、大学院など幅広い進路

データサイエンスはあらゆる産業の基盤を支えます。企業内の環境や情報解析部門に加え、環境コンサルタント、シンクタンク（環境調査会社）、情報システム企業、あるいは地方公務員、地元公的機関など、多様な業種企業での活躍が可能であり、就職に有利と言えます。また、環境・情報系の大学院への道も期待されます。

養成する人材

社会・データサイエンスに関する専門知識と、環境全般に関する基礎知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と鋭い洞察力、柔軟な思考力によって、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成します。

取得可能な資格等（予定）

- ・ITパスポート
- ・社会調査士
- ・甲種危険物取扱者
- ・MOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）

セールスポイント

- ①文理融合型カリキュラム（文・理系どちらでも受験可能）
- ②AIやビックデータ等のデータサイエンスによる多様な学習
- ③国内外でのフィールド実習や、環境データサイエンスプロジェクトなどの充実した実習系授業

卒業後の進路

- ①公的機関：環境系・情報系行政職、独立行政法人、NPO法人
- ②専門職：企業の環境・情報部門、環境コンサルタント、シンクタンク、農業法人
- ③一般企業：建設、土木、造園、緑化関係、環境調査等
- ④大学院進学：国公立大学大学院を中心とする環境系・情報系・農業系・社会系

※上記に記載した内容は全て計画中の予定であり、変更の可能性があります。
(裏面の人間環境大学心理学部の説明もご覧ください。)

人間環境大学既設学部 of 学生募集状況

学部学科	定員	平成28年度入試				平成29年度入試				平成30年度入試				平成31年度入試				令和2年度入試			
		志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率
人間環境学部人間環境学科	200	540	438	410	1.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
人間環境学部心理学科	120	—	—	—	—	541	485	470	1.03	401	367	341	1.08	509	488	374	1.30	1,476	1,372	809	1.70
人間環境学部環境科学科	80	—	—	—	—	491	448	396	1.13	298	274	232	1.18	511	497	372	1.34	1,316	1,225	746	1.64
看護学部看護学科	95	1,007	836	233	3.59	944	808	238	3.39	1,002	873	222	3.93	932	850	243	3.50	1,031	934	316	2.96
松山看護学部看護学科	80	—	—	—	—	295	260	213	1.22	281	260	223	1.17	318	303	267	1.13	983	898	851	1.06

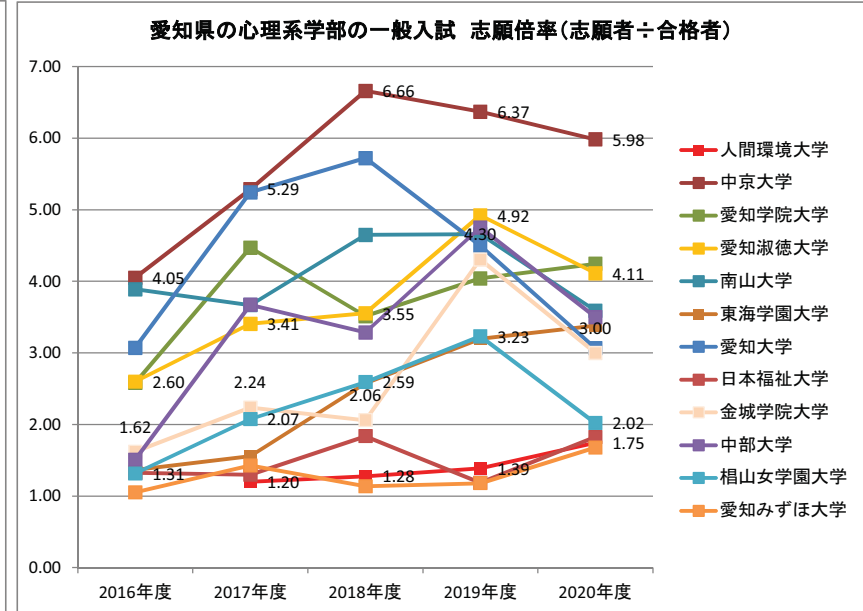
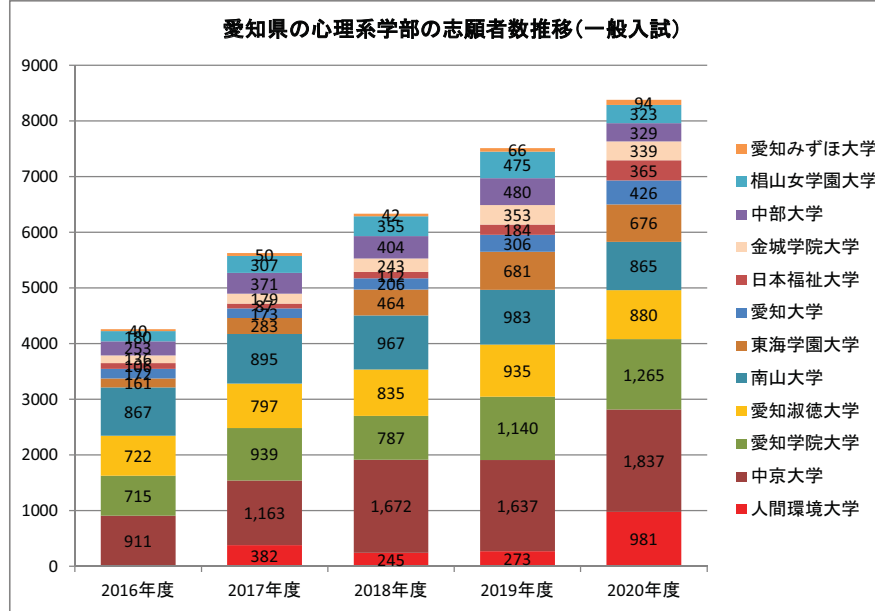
入学定員充足率

学部学科	定員	平成28年度入試		平成29年度入試		平成30年度入試		平成31年度入試		令和2年度入試	
		入学者数	入学定員充足率	入学者数	入学定員充足率	入学者数	入学定員充足率	入学者数	入学定員充足率	入学者数	入学定員充足率
人間環境学部人間環境学科	200	104	0.52	—	—	—	—	—	—	—	—
人間環境学部心理学科	120	—	—	91	0.76	125	1.04	165	1.38	134	1.12
人間環境学部環境科学科	80	—	—	65	0.81	61	0.76	131	1.64	91	1.14
看護学部看護学科	95	109	1.15	110	1.16	105	1.11	99	1.04	106	1.12
松山看護学部看護学科	80	—	—	58	0.73	63	0.79	72	0.90	86	1.08

中部地区の心理系学部の学生募集状況

	大学名	立地	学部	学科	令和2年度 入学定員	平成28(2016)年度			平成29(2017)年度			平成30(2018)年度			令和1(2019)年度			令和2(2020)年度			備考
						志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	
1	人間環境大学	愛知県岡崎市	人間環境学部	心理学科	120	-	-	-	382	319	1.20	245	192	1.28	273	197	1.39	981	562	1.75	2017年学科開設
2	中京大学	名古屋市昭和区	心理学部	心理学科	175	911	225	4.05	1,163	220	5.29	1,672	251	6.66	1,637	257	6.37	1,837	307	5.98	
3	愛知学院大学	愛知県日進市	心身科学部	心理学科	140	715	277	2.58	939	210	4.47	787	224	3.51	1,140	282	4.04	1,265	298	4.24	
4	愛知淑徳大学	愛知県長久手市	心理学部	心理学科	180	722	278	2.60	797	234	3.41	835	235	3.55	935	190	4.92	880	214	4.11	
5	南山大学	名古屋市昭和区	人文学部	心理人間学科	110	867	223	3.89	895	244	3.67	967	208	4.65	983	211	4.66	865	241	3.59	
6	東海学園大学	名古屋市天白区	心理学部	心理学科	100	161	118	1.36	283	182	1.55	464	180	2.58	681	213	3.20	676	200	3.38	2019年改組
7	愛知大学	愛知県豊橋市	文学部	心理学科	55	172	56	3.07	173	33	5.24	206	36	5.72	306	68	4.50	426	139	3.06	2018年より改組し心理学科 それまでは専攻
8	日本福祉大学	愛知県知多郡	教育・心理学部	心理臨床学科	100	106	80	1.33	87	67	1.30	112	61	1.84	184	155	1.19	365	200	1.83	2020年度より改組 (旧子ども発達学部心理学科)
9	金城学院大学	名古屋市守山区	人間科学部	多元心理学科	110	136	84	1.62	179	80	2.24	243	118	2.06	353	82	4.30	339	113	3.00	
10	中部大学	愛知県春日井市	人文学部	心理学科	90	253	168	1.51	371	101	3.67	404	123	3.28	480	101	4.75	329	94	3.50	
11	椋山女学園大学	愛知県日進市	人間関係学部	心理学科	110	180	137	1.31	307	148	2.07	355	137	2.59	475	147	3.23	323	160	2.02	
12	愛知みずほ大学	名古屋市瑞穂区	人間科学部	心身健康科学科	110	40	38	1.05	50	35	1.43	42	37	1.14	66	56	1.18	94	56	1.68	心理・カウンセリングコース
13	東海学院大学	岐阜県各務原市	人間関係学部	心理学科	120	16	14	1.14	30	30	1.00	-	-	-	48	45	1.07	61	44	1.39	2018年度は非公表
合計					1,520	4,279	1,698	2.52	5,656	1,903	2.97	6,332	1,802	3.51	7,561	2,004	3.77	8,441	2,628	3.21	

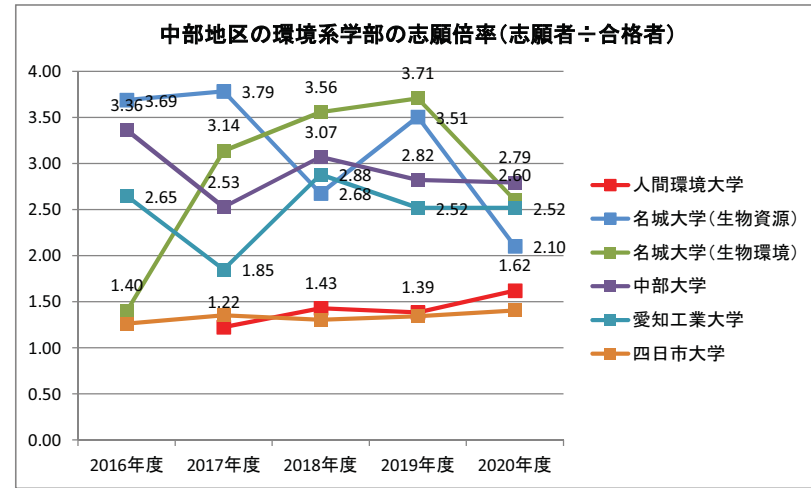
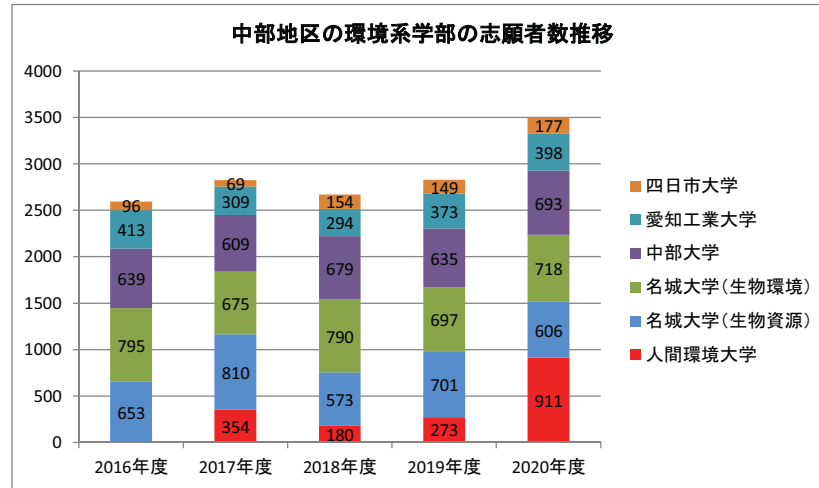
出典：旺文社「蛭雪時代」、入試区分は全て「一般入試」のみを記載



中部地区の環境系学部の学生募集状況

	大学名	立地	学部	学科	コース・専攻	2020年度 入学定員	2016年度			2017年度			2018年度			2019年度			2020年度			備 考
							志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	
1	人間環境大学	愛知県岡崎市	人間環境学部	環境科学科		80	-	-	-	354	289	1.22	180	126	1.43	273	197	1.39	911	562	1.62	2017年学科開設
2	名城大学	名古屋市天白区	農学部	生物資源学科		110	653	177	3.69	810	214	3.79	573	214	2.68	701	200	3.51	606	288	2.10	
3			農学部	生物環境科学科		110	795	568	1.40	675	215	3.14	790	222	3.56	697	188	3.71	718	276	2.60	
4	中部大学	愛知県春日井市	応用生物学部	環境生物科学科		110	639	190	3.36	609	241	2.53	679	221	3.07	635	225	2.82	693	248	2.79	
5	愛知工業大学	愛知県豊田市	工学部	応用化学科	バイオ環境化学専攻	135	413	156	2.65	309	167	1.85	294	102	2.88	373	148	2.52	398	158	2.52	入学定員は学科定員
6	名古屋産業大学	愛知県尾張旭市	現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	環境ビジネスコース	150	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	志願者数等は非公表 入学定員は学科定員
7	四日市大学	三重県四日市市	環境情報学部	環境情報学科		70	96	76	1.26	69	51	1.35	154	118	1.31	149	111	1.34	177	126	1.40	A0入試、推薦入試も含めた志願者数
合 計						765	2,596	1,167	2.22	2,826	1,177	2.40	2,670	1,003	2.66	2,828	1,069	2.65	3,503	1,658	2.11	

出典：旺文社「蛍雪時代」、入試区分は全て「一般入試」のみを記載



ニーズ調査報告書②

人間環境大学
総合心理学部（仮称）
入学意向アンケート調査
報告書

令和3年1月31日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

1.	総合心理学部 入学意向アンケート調査 概要	P 3
2.	総合心理学部 調査実施高等学校・中等教育学校一覧	P 4
3.	総合心理学部 入学意向アンケート調査 集計結果	P 6
4.	総合心理学部 入学意向アンケート調査 結果の要点	P 8
	(添付資料) 総合心理学部 入学意向アンケート調査用紙	

1. 総合心理学部 入学意向アンケート調査 概要

調査目的	令和4年(2022年)度に設置予定の「人間環境大学総合心理学部(仮称)」における志願者・入学者の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	令和4年3月に高校卒業予定である高校2年生(令和2年度)をアンケートの対象とした。 人間環境大学総合心理学部(仮称)の主たる学生募集エリアと想定される、愛媛県を中心とした四国地区及び愛知県等の地域の高等学校及び中等教育学校にアンケート実施を依頼し、45校から調査の協力を得た。
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の基本情報(居住地・性別・希望進路・興味のある学問分野) ・人間環境大学総合心理学部(仮称)への受験・入学意志 ・受験意志を持たない者に対するその理由 (すべて選択肢式)
調査時期	令和2年9月～12月
調査方法	調査実施の了承が得られた高校に対しアンケート用紙を送付し、各校の教職員の監督のもと、高校において実施した。
回収件数	有効回答数:5,083件(45校)
調査結果	予定する入学定員80名に対し、244人(4.8%)が「(総合心理学部を)受験したい」と回答し、「受験したい」の回答者のうち91人(1.8%)が「(総合心理学部に)合格した場合、入学したい」と回答した。

【資料 5】 2

別添資料として、総合心理学部 調査実施高等学校等一覧 2 枚を添付した。

3. 総合心理学部 入学意向アンケート調査 集計結果

			有効回収件数 (回答者合計)	5,083 人	45 校
	設問		選択肢	回答数	割合
問1	あなたの性別についてお尋ねします。 (択一回答)	1	男性	2,350	46.2%
		2	女性	2,724	53.6%
			無回答	9	0.2%
			合計	5,083	100.0%
問2	あなたのお住まい (現住所)について お尋ねします。 (択一回答)	1	愛媛県	3,055	60.1%
		2	香川県	350	6.9%
		3	徳島県	101	2.0%
		4	高知県	12	0.2%
		5	その他	1,559	30.7%
			無回答	6	0.1%
	合計	5,083	100.0%		
問3	あなたは高校を卒業後、どのような進路をお考えですか。 (択一回答)	1	大学	3,192	62.8%
		2	短期大学	175	3.4%
		3	専門学校	780	15.3%
		4	就職	562	11.1%
		5	その他・未定	369	7.3%
			無回答	5	0.1%
	合計	5,083	100.0%		
問4	あなたは進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。 (択一回答)	1	人文学 (文学・歴史学・外国語・国際・哲学・心理学)	1,234	24.3%
		2	農学 (農学・環境学・生物学・動物学・植物学・畜産学・水産学)	378	7.4%
		3	社会科学 (法学・政治学・商学・経営学・経済学・社会学)	1,088	21.4%
		4	理学・工学	862	17.0%
		5	医学・歯学・薬学	561	11.0%
		6	保健衛生学 (看護学・リハビリテーション・健康科学)	846	16.6%
		7	家政学 (生活科学・栄養学・被服学)	347	6.8%
		8	教育学・保育・教員養成	828	16.3%
		9	芸術学・保健体育 (美術・音楽・デザイン・スポーツ)	850	16.7%
		10	情報 (コンピュータ・データサイエンス)	492	9.7%
			無回答	225	4.4%
	合計	5,083	100.0%		
問5	あなたが将来、希望する就職・進路についてお尋ねします。 (択一回答)	1	民間企業	1,278	25.1%
		2	公務員	812	16.0%
		3	教員	376	7.4%
		4	研究者	98	1.9%
		5	専門職	1,452	28.6%
		6	その他	1,056	20.8%
	無回答	11	0.2%		
	合計	5,083	100.0%		
問6	あなたは、心理学に興味・関心はありますか。 (択一回答)	1	心理学 (臨床心理学・犯罪心理学・社会心理学・発達心理学などを含む) に興味がある。	1,953	38.4%
		2	心理学に興味・関心はない。	3,120	61.4%
			無回答	10	0.2%
	合計	5,083	100.0%		

問7	人間環境大学 総合心理学部には以下のような特色があります。あなたの興味・関心がある内容について教えてください。 (複数回答)	1	脳科学から人文学・社会学・経営—経済学までを統合する総合的な学問である心理学を深く実践的に学べる点	811	16.0%
		2	5つの領域(ビジネス、コミュニケーション、心理支援、公認心理師・臨床心理士、公務員)の中から、心理学を専門的かつ実践的に幅広く学び、卒業後に心理の専門職を目指す点	819	16.1%
		3	併設の大学院への進学等により、将来的に公認心理師・臨床心理士の資格取得が目標とする点	377	7.4%
		4	知覚・認知心理学、神経・生理心理学、マーケティング心理学、バーチャルリアリティ、福祉心理学、司法・犯罪心理学など幅広い分野の心理学を独自カリキュラムと少人数のゼミナール授業により深く学べる点	826	16.3%
		5	特に興味・関心はない	3,077	60.5%
			無回答	7	0.1%
		合計		5,083	100.0%
問8	あなたは、人間環境大学「総合心理学部総合心理学科」を受験したいと思いますか。(択一回答)	1	総合心理学部総合心理学科を受験したい	244	4.8%
		2	受験は考えていない	4,834	95.1%
			無回答	5	0.1%
		合計		5,083	100.0%
問9	【問8の「総合心理学部総合心理学科を受験したい」の回答者のみ】 総合心理学部を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。(択一回答)	1	入学したい	91	1.8%
		2	併願校の結果によっては入学したい	153	3.0%
			無回答	0	0.0%
		合計 n=244		244	4.8%
問10	【問8の「受験は考えていない」の回答者のみ】 あなたが問8で「受験は考えていない」と回答した理由について、教えてください。 (複数回答)	1	興味・関心のある分野ではないから	2,750	56.9%
		2	興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから	886	18.3%
		3	大学への進学を考えていないから	617	12.8%
		4	人間環境大学への進学は希望しないから	1,081	22.4%
		5	通学が不便だから	501	10.4%
		6	学費が高いから	365	7.6%
		7	その他	339	7.0%
			無回答	8	0.2%
		合計 n=4,834		4,834	100.0%

※「構成比」(%)はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

4. 総合心理学部 入学意向アンケート調査 結果の要点

【総合心理学部】

要点1) 心理学分野への興味

臨床心理学・犯罪心理学・社会心理学・発達心理学などを含む心理学に対する興味、関心について質問したところ(問6)、アンケート実施合計5,083人のうち、4割に近い1,953人(38.4%)より「興味がある」との回答を得た。心理学については、非常に高い割合で高校生に興味・関心を持たれていることが示された。

問6 [心理学への興味]	回答数	割合
心理学(臨床心理学・犯罪心理学・社会心理学・発達心理学などを含む)に興味がある。	1,953人	38.4%
心理学に興味・関心はない	3,120人	61.4%
無回答	10人	0.2%
合計	5,083人	100.0%

要点2) 人間環境大学総合心理学部への受験意志

新設予定である人間環境大学総合心理学部への受験意志を質問したところ(問8)、アンケート実施合計5,083人のうち、244人(4.8%)より受験意志が示され、入学定員(予定)である80人を上回る結果(入学定員の3.1倍)となった。

問8 [受験意志]	回答数	割合
総合心理学部総合心理学科を受験したい	244人	4.8%
受験しない	4,834人	95.1%
無回答	5人	0.1%
合計	5,083人	100.0%

要点3) 人間環境大学総合心理学部への入学意志

問8で受験意志を示した244人のうち、91人(37.3%、全体の1.8%)が「(総合心理学部に)合格した場合、入学したい」、153人(62.7%、全体の3.0%)が「合格した場合、併願先の結果によっては入学したい」との結果が示され、第1希望としての入学意志を示した者(91人)のみで、入学定員(予定)である80人を上回る結果(入学定員の1.1倍)となった。

問9 [入学意志]	回答数	割合
※問8において受験意志を示した244人のみ回答 (総合心理学部に)入学したい	91人	1.8%
併願先の結果によっては入学したい	153人	3.0%
合計 n=244	244人	4.8%

以上



(資料5)



人間環境大学 総合心理学部 (仮称)

[松山道後キャンパス]

(2022年4月設置に向け構想中)

入学意向アンケート調査

対象：高校2年生 (2020年度)

学校法人河原学園 人間環境大学は、愛媛県松山市の松山道後キャンパスにおいて、2022年4月に総合心理学部 総合心理学科 (仮称) の開設を構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、高校生の皆様からさまざまなご意見をお伺いし、構想の参考にさせていただきたいと考えています。なお、本アンケートは匿名回答であり、個人が特定されることはありません。また、集計結果は、本学部の設置構想に係る統計資料、設置認可申請資料としてのみ活用いたします。つきましては、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

問1 あなたの性別についてお尋ねします。(あてはまるもの1つにマーク)

男性 女性

問2 あなたのお住まい(現住所)についてお尋ねします。(あてはまるもの1つにマーク)

愛媛県 香川県 徳島県 高知県 その他

問3 あなたは高校を卒業後、どのような進路をお考えですか。(あてはまるもの1つにマーク)

大学 短期大学 専門学校 就職 その他・未定

問4 あなたは進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。(あてはまるものすべてにマーク)

- 人文学(文学・歴史学・外国語・国際・哲学・心理学)
- 農学(農学・環境学・生物学・動物学・植物学・畜産学・水産学)
- 社会科学(法学・政治学・商学・経営学・経済学・社会学)
- 理学・工学
- 医学・歯学・薬学
- 保健衛生学(看護学・リハビリテーション・健康科学)
- 家政学(生活科学・栄養学・被服学)
- 教育学・保育・教員養成
- 芸術学・保健体育(美術・音楽・デザイン・スポーツ)
- 情報(コンピュータ・データサイエンス)

問5 あなたが将来、希望する就職・進路についてお尋ねします。(あてはまるもの1つにマーク)

民間企業 公務員 教員 研究者 専門職 その他

裏面に質問が続きます。





問6 あなたは、心理学に興味・関心はありますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 心理学(臨床心理学・犯罪心理学・社会心理学・発達心理学などを含む)に興味がある。
- 心理学に興味・関心はない。

以下の質問は、「人間環境大学総合心理学部(仮称)の概要」をご覧の上でお答えください。

問7 人間環境大学 総合心理学部には以下のような特色があります。あなたの興味・関心がある内容について教えてください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 脳科学から人文学・社会学・経営・経済学までを統合する総合的な学問である心理学を深く実践的に学べる点
- 5つの領域(ビジネス、コミュニケーション、心理支援、公認心理師・臨床心理士、公務員)の中から、心理学を専門的かつ実践的に幅広く学び、卒業後に心理の専門職を目指す点
- 臨床心理士の養成を行っている大学院(愛知県)が併設されている点
- 知覚・認知心理学、神経・生理心理学、マーケティング心理学、バーチャルリアリティ、福祉心理学、司法・犯罪心理学など幅広い分野の心理学を独自カリキュラムと少人数のゼミナール授業により深く学べる点
- 特に興味・関心はない

問8 あなたは、人間環境大学「総合心理学部 総合心理学科」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 総合心理学部 総合心理学科を受験したい →問9へお進みください
- 受験は考えていない →問10へお進みください

問8で「総合心理学部 総合心理学科を受験したい」と回答された方のみにお尋ねします。

問9 総合心理学部 総合心理学科を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 入学したい
- 併願校の結果によっては入学したい

問8で「受験は考えていない」と回答された方のみにお尋ねします。

問10 あなたが問8で「受験は考えていない」と回答した理由について、教えてください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 興味・関心のある分野ではないから
- 興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから
- 大学への進学を考えていないから
- 人間環境大学への進学は希望しないから
- 通学が不便だから
- 学費が高いから
- その他

質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございました。



人間環境大学 総合心理学部 (松山道後キャンパス)

仮称
2022年4月
設置構想中

総合心理学部 総合心理学科 (仮称)

入学定員：80人 / 学位：学士 (心理学)

キャンパス：人間環境大学松山道後キャンパス 愛媛県松山市道後樋又1192-3 (予定)

学科の特色

①脳科学から人文学・社会学・経営-経済学までを統合する総合的な学問である心理学を、深く実践的に学びます。一期生の卒業時点では公認心理師対応、臨床心理士指定大学院の設置を計画しています。

➤家庭、教育現場、医療現場、司法・犯罪領域、対人関係、依存症、ストレスなど、現代社会における「こころの問題」を理解し、解決するためには、実験・調査などの技術を駆使することが必要になります。そのため、〈知る〉→〈測る〉→〈伝える〉の「使える」心理学を柱にカリキュラムを構築しました。さらに、科学テクノロジーと人間の心/意識との接点に存在する最先端の心理学を広く、深く学べます。公認心理師はもちろんのこと、人のこころに関連する多様な資格にも対応する「学究&実用二刀流」心理学部です。

②現代心理学の第一線で活躍する教授陣による実践的なカリキュラム

➤脳科学、知覚・認知心理学 (実験心理学)、社会心理学、産業心理学、臨床心理学 (公認心理師・臨床心理士対応) などの各分野で国際的にも活躍する第一線の心理学研究者を教授陣に揃えました。学生22人に1人の専門常勤教員が付いて、国立大学にも劣らない親身な指導に当たります。実験・実習に必須の統計の勉強も一般的な「統計学」として学ぶのではなく、その週内、月内で学ぶ実験・実習に役立つ統計スキルを身につけ、自然に高度な理論や技術が学べるようになっている、本学独自の実践的なカリキュラムで学びます。

③卒業後のニーズに合わせた五つの実務領域の就職に強いカリキュラム

➤卒業後に「本気で」心理学を活かしたい人のために、履修モデルを、①ビジネス (商品企画、消費者動向調査、データ処理等)、②コミュニケーション (広告企画・広告デザイン、カラーコーディネーター、イベンター、サービス職等)、③心理支援 (産業カウンセラー、心理アドバイザーなど心の支援を必要とする人々をサポートする仕事など)、④公認心理師・臨床心理士 (大学院進学後の資格取得を目指す)、⑤公務員 (心理専門職) の5領域から構成しました。いずれの領域でも公務員を目指すことのできる充分な一般教養科目も用意し、また公認心理師や臨床心理士を目指す学生には大学院進学への指導も行います。

養成する人材

見えない心を可視化するスキルを身につけ、公認心理師を含めた幅広い領域で活躍できる心理支援のプロを育成するだけでなく、対人スキル (コミュニケーション能力) を活かしたサービス職、産業カウンセラー・心理アドバイザー、ビッグデータからアンケート処理まで広くデータ処理ができる人材を育成し、オフィスワークの内外で活躍できる人材を育成します。

取得可能な資格等 (将来目指せる資格を含む)

①[国家資格、専門資格等]

公認心理師 (※1)、臨床心理士 (※2)、准学校心理士、認定心理士

※1 本学部で指定科目を履修して卒業し、本学を含めた大学院で指定科目を履修して修了するか、指定された機関において定められた期間の実務を経験することで受験資格を得られます。

※2 本学大学院を含めた大学院を修了後、受験資格が得られます。

②[ビジネス (企画・広告・調査) 系]

認定心理士 (心理調査)、統計検定 (2級)、Web解析士、ビジネス実務マナー検定、ビジネス能力検定、色彩検定、カラーデザイン検定、カラー・コーディネーター検定、MOS (Microsoft Office Specialist)

③[コミュニケーション (サービス・心理カウンセラー/アドバイザー) 系]

サービス接客検定 (準1級、2級)、メンタルヘルス・マネジメント検定 (2級)、ホテルビジネス実務検定 (2級)、サービス介助士、ファッション色彩能力検定

セールスポイント

①「公認心理師」国家試験受験資格取得に対応したカリキュラムを用意し、臨床心理士一種指定大学院への進学指導を支援します。

※人間環境大学は、大学院 (愛知県岡崎市) に臨床心理士第1種指定大学院を併設しています。大学院開設後16年間臨床心理士資格審査 総在籍数分母で累積合格率94.3%

(令和元年度全国平均62.7%)、全国トップレベルの合格率を誇ります。
※松山道後キャンパスでもこの総合心理学部総合心理学科に接続する公認心理師カリキュラム対応、臨床心理士指定大学院を第一期生学年進行に応じて卒業までには設置予定。

②就職に役立つ選択科目を30科目以上用意し、「モチベーションの心理学」「消費者の心理学」「ギャンブルの心理学」「ストレスの心理学」「色彩の心理学」「バーチャルリアリティの心理学」「赤ちゃんの心理学」「高齢者の心理学」「顔認知とコミュニケーション」「恋愛の心理学」、また心理療法科目では「認知行動療法」「遊戯・芸術療法」「精神分析療法」「人間性心理学」など、多彩な選択科目を、それぞれの分野で第一人者の教授陣と共に配置し、心理学の多方面での実践性を学べるカリキュラムになっています。

③心理学を学ぶことに不可欠である、メンドウな「実験」とムズカシイ「統計」科目も、うまく連動させて学ぶ本学独自のカリキュラムにより、どちらも自然に楽しく身につけ、さらに深く理解できるよう工夫されています。

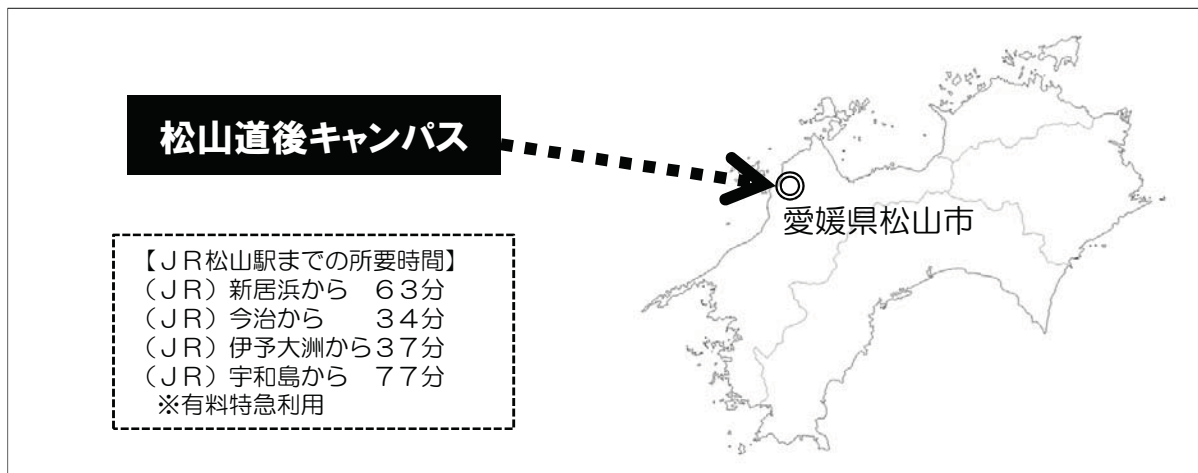
卒業後の進路イメージ

- ①【心理スペシャリスト領域】家庭裁判所調査官、児童福祉司、児童指導員、法務教官、矯正心理専門職 (法務技官)、防衛省職員 (臨床心理士)、児童相談所職員、産業カウンセラー、心理アドバイザー、企業内カウンセラー
- ②【心理インバ스티ゲイター領域】マーケティングデータ分析職、WEB広告分析職、データサイエンティスト、システムエンジニア
- ③【心理デザイン領域】広報、広告企画職、宣伝、宣伝企画職、イベントスタッフなど
- ④【心理ネゴシエーター領域】営業職、接客 (ホテルフロントクラーク、キャビンアテンダント、アパレル業界など)
- ⑤【心理公務員領域】国家公務員 (Ⅱ種・行政職)、地方公務員 (行政職)、公共統計情報管理職、科学捜査研究所職員 (心理)、家庭裁判所調査官、児童福祉司、児童指導員、法務教官、家庭裁判所調査官、矯正心理専門職 (法務技官)、防衛省職員 (臨床心理士)

※上記は全て大学院卒が多い職種も含む。

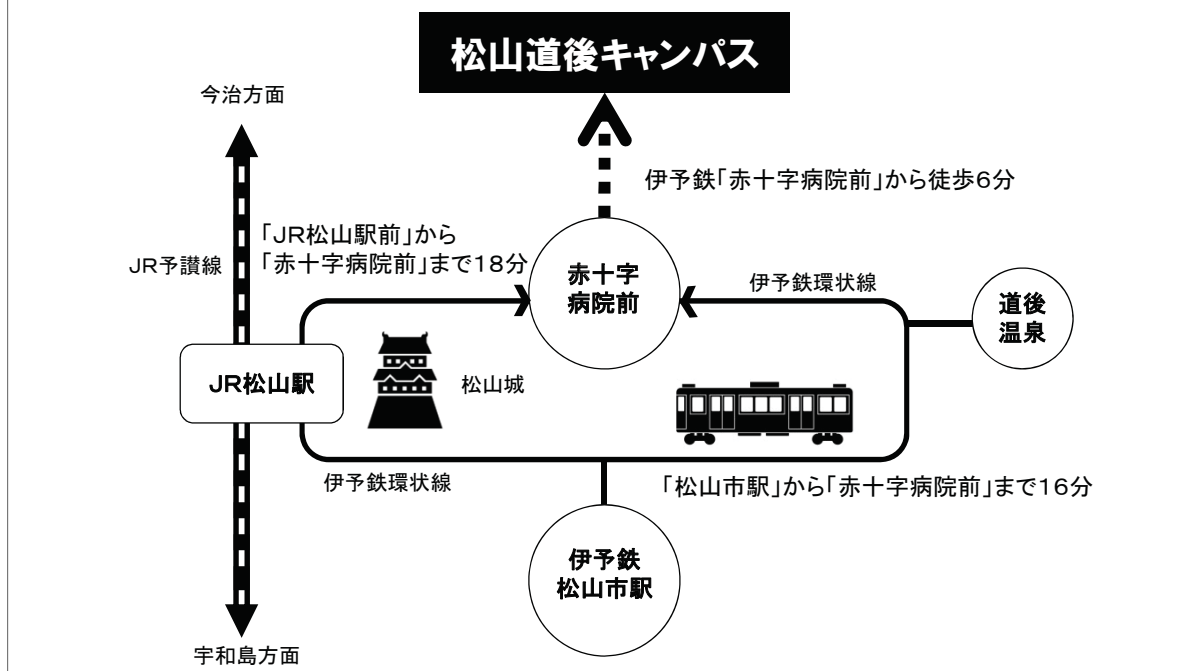
※上記に記載した内容は全て計画中の予定であり、変更の可能性があります。

【アクセス（人間環境大学 松山道後キャンパス）】



愛媛県松山市道後樋又1192-3

伊予鉄「赤十字病院前」駅徒歩6分（松山市駅から赤十字病院前まで16分）



【学納金】

人間環境大学 総合心理学部の学納金（予定）	
入学金	200,000円
授業料等	1,080,000円
初年度納入金	1,280,000円

※本学では、入試や入学後における成績優秀者に対する授業料減免制度（最長4年間）や奨学金制度を整備しています。

（参考情報）【四国地区の心理学分野の学部学科の情報】

※学納金のデータは各大学のHPから引用

大学	学部学科	所在地	入学金	授業料等	初年度納入金
聖カタリナ大学	人間健康福祉学部 人間社会学科	愛媛県松山市	280,000	925,000	1,205,000
松山東雲女子大学	人文科学部 心理子ども学科	愛媛県松山市	250,000	910,000	1,160,000
四国大学	生活科学部 人間生活科学科	徳島県徳島市	280,000	1,092,000	1,372,000
徳島文理大学	人間生活学部 心理学科	徳島県徳島市	280,000	990,000	1,270,000
広島修道大学	健康科学部 心理学科	広島県広島市	220,000	1,051,000	1,271,000
安田女子大学	心理学部 現代心理学科 ビジネス心理学科	広島県広島市	90,000	1,129,000	1,219,000

※上記に記載した内容は全て計画中の予定であり、変更の可能性があります。

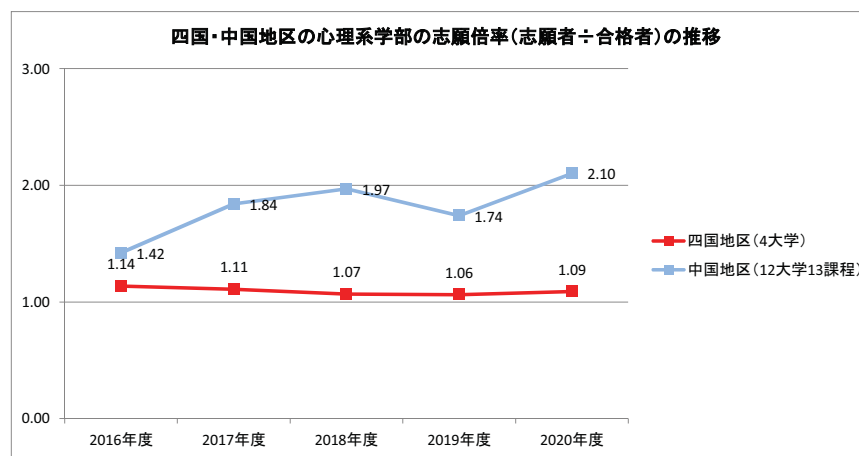
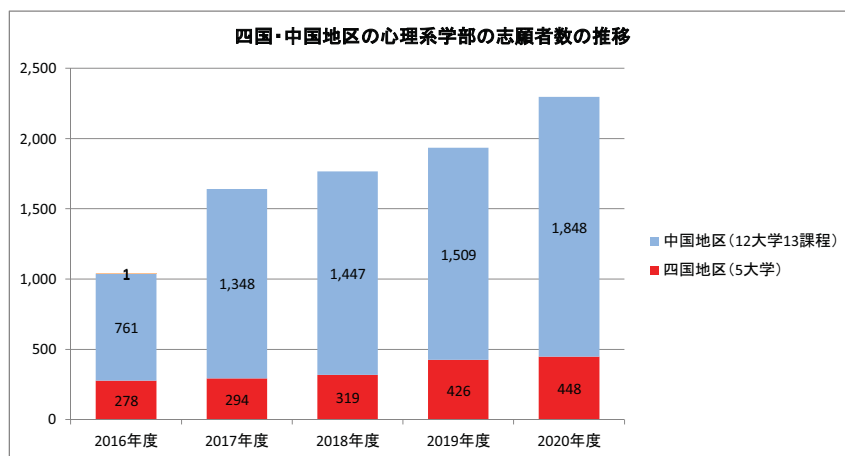
四国地区の心理系学部の学生募集状況

大学名	立地	学部	学科	コース・専攻	2020年度 入学定員	平成28(2016)年度			平成29(2017)年度			平成30(2018)年度			令和1(2019)年度			令和2(2020)年度			備考		
						志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率		志願者	合格者
1 松山東雲女子大学	愛媛県松山市	人文科学部	心理子ども学科	子ども専攻50 心理福祉専攻60	110	118	112	-	122	106	1.15	125	114	1.10	112	99	1.13	93	80	1.16	96	0.87	一般・センター入試
2 聖カタリナ大学	愛媛県松山市	人間健康福祉学部	人間社会学科		50	44	42	1.05	59	52	1.13	65	58	1.12	80	71	1.13	64	60	1.07	66	1.32	一般・センター入試
3 四国大学	徳島県徳島市	生活科学部	人間生活科学科	公認心理師コース 心理・養護コース	50	55	55	1.00	58	56	1.04	59	57	1.04	101	96	1.05	87	74	1.18	57	1.14	志願者数には推薦・A0入試を含む 2019年に改組
4 徳島文理大学	徳島県徳島市	人間生活学部	心理学科		100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	140	140	1.00	95	0.95	志願者数には推薦・A0入試を含む 2019年以前は学科単位は非公表
5 四国学院大学	香川県善通寺市	社会福祉学部	社会福祉学科	6メジャーのうち 心理学・カウンセリングメジャー	80	61	39	1.56	55	50	1.10	70	67	1.04	133	131	1.02	64	59	1.08	75	0.94	志願者数には推薦・A0入試を含む
四国地区 合計					390	278	248	1.12	294	264	1.11	319	296	1.08	426	397	1.07	448	413	1.08	389	1.00	

中国地区の心理系学部の学生募集状況

大学名	立地	学部	学科	コース・専攻	2020年度 入学定員	平成28(2016)年度			平成29(2017)年度			平成30(2018)年度			令和1(2019)年度			令和2(2020)年度			備考		
						志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率		志願者	合格者
1 比治山大学	広島県広島市	現代文化学部	社会臨床心理学科		60	129	71	1.82	129	56	2.30	128	60	2.13	128	67	1.91	143	70	2.04	86	1.43	
2 広島修道大学	広島県広島市	健康科学部	心理学科		80	-	-	-	432	135	3.20	333	139	2.40	390	154	2.53	505	156	3.24	89	1.11	2017年新設
3 広島文教大学	広島県広島市	人間科学部	心理学科		50	23	20	1.15	70	65	1.08	75	62	1.21	200	126	1.59	305	102	2.99	85	1.70	入学者は年次在籍者数
4 福山大学	広島県福山市	人間文化学部	心理学科		50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61	1.22	学科単位の志願状況は非公表
5 安田女子大学	広島県広島市	心理学部	現代心理学科		60	109	99	1.10	201	108	1.86	269	53	5.08	156	66	2.36	214	58	3.69	70	1.17	2018年名称変更 (旧心理学部心理学科)
6			ビジネス心理学科		60	-	-	-	-	-	-	107	40	2.68	51	33	1.55	72	36	2.00	53	0.88	2018年新設
7 広島国際大学	広島県東広島市	健康科学部	心理学科		100	200	143	1.40	193	144	1.34	209	140	1.49	167	139	1.20	156	135	1.16	83	0.83	2020年改組 2019年以前は旧心理学部心理学科
8 川崎医療福祉大学	岡山県倉敷市	医療福祉学部	臨床心理学科		80	56	52	1.08	60	53	1.13	62	55	1.13	93	79	1.18	72	69	1.04	-	-	学科単位の入学者数は非公表
9 吉備国際大学	岡山県高梁市	心理学部	心理学科		40	16	12	1.33	23	20	1.15	34	23	1.48	34	24	1.42	38	25	1.52	59	1.48	
10 山陽学園大学	岡山県岡山市	総合人間学部	生活心理学科		30	13	11	1.18	15	13	1.15	11	10	1.10	24	11	2.18	30	11	2.73	32	1.07	
11 就実大学	岡山県岡山市	教育学部	教育心理学科		62	152	65	2.34	158	74	2.14	146	82	1.78	186	90	2.07	185	93	1.99	77	1.24	
12 東亜大学	山口県下関市	人間科学部	心理臨床・子ども学科	心理臨床コース	40	3	3	1.00	10	10	1.00	9	9	1.00	12	12	1.00	20	19	1.05	51	1.28	
13 宇部フロンティア大学	山口県宇部市	心理学部	心理学科		70	60	60	1.00	57	53	1.08	64	63	1.02	68	65	1.05	108	105	1.03	54	0.77	2020改組 (旧福祉心理学科) 志願者数には推薦・A0入試を含む
中国地区 合計					782	761	536	1.42	1,348	731	1.84	1,447	736	1.97	1,509	866	1.74	1,848	879	2.10	800	-	
四国地区+中国地区 合計					1,172	1,039	784	1.33	1,642	995	1.65	1,766	1,032	1.71	1,935	1,263	1.53	2,296	1,292	1.78	1,189	-	

出典：旺文社「蜚雷時代」、入試区分は一般入試（A0入試・推薦入試の志願者数を含む場合は備考欄に注記）徳島文理大学、福山大学は学科単位の志願者数を非公表のため未記載。



人間環境大学
心理学部（仮称）
採用意向アンケート調査
報告書

令和3年1月31日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

1. 心理学部 採用意向アンケート調査 概要 P 3
 2. 心理学部 採用意向アンケート調査 集計結果 P 4
 3. 心理学部 採用意向アンケート調査 結果の要点 P 6
- (添付資料) 心理学部 採用意向アンケート調査用紙

1. 心理学部 採用意向アンケート調査 概要

調査目的	令和4年(2022年)度に設置予定の「人間環境大学心理学部(仮称)」における卒業後の採用・就職(人材需要)の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	心理学部の卒業後に採用が見込まれる以下の事業所 (業種) 司法・矯正・警察・飲食業・ホテル・広告・販促・人材・小売卸売・社会福祉法人等 (地域) 愛知県を中心とする中部地域 (依頼件数) 合計: 1,600 事業所
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・回答事業所の基本情報(業種・所在地) ・採用状況、人間環境大学卒業生の採用実績 ・人間環境大学心理学部(仮称)卒業生の採用意向
調査時期	令和2年10月~12月
調査方法	調査対象事業所の採用担当者に対しアンケートを郵送することにより実施
回収件数	有効回答数 257 件(依頼 1,600 件に対し、回収率 16.1%)
調査結果	<p>回答のあった 257 事業所について、</p> <p>108 事業所(42.0%)から「心理学部心理学科の卒業生を採用したい」との回答があり、採用の場合の採用可能人数は 158 人との結果となった。</p> <p>55 事業所(21.4%)から「心理学部犯罪心理学科の卒業生を採用したい」との回答があり、採用の場合の採用可能人数は 77 人との結果となった。</p>

2. 心理学部 採用意向アンケート調査 集計結果

		依頼件数	1,600件	
		有効回収件数	257件	
		回収率	16.1%	
番号	設問	選択肢	回答数	割合
問1	貴社・貴団体の業種をお答えください。 (択一回答)	1 建設	3	1.2%
		2 製造	7	2.7%
		3 情報通信・ソフトウェア	5	1.9%
		4 運輸	4	1.6%
		5 卸売・小売	40	15.6%
		6 金融・保険	8	3.1%
		7 宿泊・ホテル	2	0.8%
		8 飲食	19	7.4%
		9 サービス	33	12.8%
		10 人材・人事	6	2.3%
		11 広告・販促	20	7.8%
		12 医療・病院	4	1.6%
		13 公務	2	0.8%
		14 社会福祉法人	84	32.7%
		15 司法・矯正・警察・児童相談所等	10	3.9%
		16 その他	10	3.9%
			無回答	0
	合計	257	100.0%	
問2	貴社・貴団体の所在地をお答えください。 (択一回答)	1 愛知県	227	88.3%
		2 岐阜県	6	2.3%
		3 三重県	0	0.0%
		4 静岡県	7	2.7%
		5 東京都	8	3.1%
		6 その他	9	3.5%
			無回答	0
	合計	257	100.0%	
問3	貴社・貴団体の従業員規模をお答えください。 (択一回答)	1 5名以下	7	2.7%
		2 6～50名	58	22.6%
		3 51～100名	42	16.3%
		4 101～300名	58	22.6%
		5 301名以上	92	35.8%
			無回答	0
	合計	257	100.0%	
問4	貴社・貴団体において、これまでに人間環境大学の卒業生を採用されたことはありますか。(択一回答)	1 採用したことがある	55	21.4%
		2 採用したことはない	156	60.7%
		3 わからない	46	17.9%
			無回答	0
	合計	257	100.0%	
問5	人間環境大学が設置構想中の「心理学部心理学科」で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。 (択一回答)	1 (心理学科の卒業生の) 人材ニーズは高い	124	48.2%
		2 どちらとも言えない	119	46.3%
		3 人材ニーズは高くない	14	5.4%
			無回答	0
	合計	257	100.0%	

問6	人間環境大学が設置構想中の「心理学部犯罪心理学科」で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。 (択一回答)	1	(犯罪心理学科の卒業生の) 人材ニーズは高い	100	38.9%
		2	どちらとも言えない	137	53.3%
		3	人材ニーズは高くない	20	7.8%
			無回答	0	0.0%
			合計	257	100.0%
問7	人間環境大学が設置構想中の「心理学部心理学科」の卒業生を採用したいですか。 (択一回答)	1	(心理学科の卒業生を) 採用したい	108	42.0%
		2	採用しない	25	9.7%
		3	わからない	124	48.2%
			無回答	0	0.0%
			合計	257	100.0%
問8	【上記問7の「(心理学部心理学科の卒業生を) 採用したい」の回答者のみ】 採用する場合の採用可能人数をご回答ください。 (択一回答)	1	1名	33	30.6%
		2	2名	14	13.0%
		3	3名	6	5.6%
		4	4名	0	0.0%
		5	5名以上	6	5.6%
		6	人数は未定だが最低1人	49	45.4%
			無回答	0	0.0%
	合計 n=108	108	100.0%		
問9	人間環境大学が設置構想中の「心理学部犯罪心理学科」の卒業生を採用したいですか。 (択一回答)	1	(犯罪心理学科の卒業生を) 採用したい	55	21.4%
		2	採用しない	48	18.7%
		3	わからない	154	59.9%
			無回答	0	0.0%
			合計	257	100.0%
問10	【上記問9の「(心理学部犯罪心理学科の卒業生を) 採用したい」の回答者のみ】 採用する場合の採用可能人数をご回答ください。 (択一回答)	1	1名	21	38.2%
		2	2名	4	7.3%
		3	3名	1	1.8%
		4	4名	0	0.0%
		5	5名以上	4	7.3%
		6	人数は未定だが最低1人	25	45.5%
			無回答	0	0.0%
	合計 n=55	55	100.0%		

※「構成比」(%)はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

3. 心理学部 採用意向アンケート調査 結果の要点

要点1) 人間環境大学心理学部で養成する人材の社会的ニーズ

回答事業所の48.2%にあたる124事業所から「心理学部心理学科で養成する人材のニーズは高い」との回答(問5)、38.9%にあたる100事業所から「心理学部犯罪心理学科で養成する人材のニーズは高い」との回答(問6)を得た。心理学部の養成人材像が、事業者から一定の評価を得ていることが示された。

問5 [心理学部心理学科で養成する人材の社会的ニーズ]

人材ニーズは高い	124件	48.2%
人材ニーズは高くない・どちらとも言えない	133件	51.8%
合計	257件	100.0%

問6 [心理学部犯罪心理学科で養成する人材の社会的ニーズ]

人材ニーズは高い	100件	38.9%
人材ニーズは高くない・どちらとも言えない	157件	61.1%
合計	257件	100.0%

(要点2) 人間環境大学心理学部の卒業生の採用意向

調査を行った事業所の42.0%にあたる108事業所から、人間環境大学心理学部心理学科の卒業予定者の採用意向が示された(問7)。また、その108事業所における採用可能人数の合計は、入学定員(予定)の100人を上回る158人であった(問8)。

調査を行った事業所の21.4%にあたる55事業所から、人間環境大学心理学部犯罪心理学科の卒業予定者の採用意向が示された(問9)。また、その55事業所における採用可能人数の合計は、入学定員(予定)の50人を上回る77人であった(問10)。

以上により心理学部(心理学科、犯罪心理学科)の学生の卒業後の就職の見込みが示された。

問7・問8 [人間環境大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向]

採用したい	108事業所	42.0%
採用しない・わからない	149事業所	58.0%
合計	257事業所	100.0%
採用の場合の採用可能人数の合計	108事業所	158人

問8・問9 [人間環境大学心理学部犯罪心理学科の卒業生の採用意向]

採用したい	55事業所	21.4%
採用しない・わからない	202事業所	78.6%
合計	257事業所	100.0%
採用の場合の採用可能人数の合計	55事業所	77人

以上



(資料7)



人間環境大学 心理学部（仮称・設置構想中）

採用意向アンケート調査 調査対象：採用ご担当者様

平素は格別のご高配を賜りますこと心よりお礼申し上げます。

人間環境大学（愛知県岡崎市本宿町上三本松 6-2）は、2022年4月に心理学部[心理学科、犯罪心理学科]（名称は全て仮称）の開設を構想しています。本学では、このアンケート調査を通して、心理学部の卒業生が就職を目指す事業所の皆様からさまざまなご意見をお伺いし、学部の設置計画の参考にさせていただきたいと考えています。

なお、本アンケートは匿名回答であり、事業所名等の情報が特定されることはございません。また、集計結果は、本学部の設置構想に係る統計資料及び設置認可申請資料としてのみ活用いたします。つきましては、別紙の「人間環境大学心理学部の概要」をご覧くださいの上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

正しい回答 誤った回答



問1 貴社・貴団体の業種をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- | | | |
|------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="radio"/> 建設 | <input type="radio"/> 製造 | <input type="radio"/> 情報通信・ソフトウェア |
| <input type="radio"/> 運輸 | <input type="radio"/> 卸売・小売 | <input type="radio"/> 金融・保険 |
| <input type="radio"/> 宿泊・ホテル | <input type="radio"/> 飲食 | <input type="radio"/> サービス |
| <input type="radio"/> 人材・人事 | <input type="radio"/> 広告・販促 | <input type="radio"/> 医療・病院 |
| <input type="radio"/> 公務 | <input type="radio"/> 社会福祉法人 | <input type="radio"/> 司法・矯正・警察・児童相談所等 |
| <input type="radio"/> その他 | | |

問2 貴社・貴団体の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 愛知県 岐阜県 三重県 静岡県 東京都 その他

問3 貴社・貴団体の従業員規模をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 5名以下 6～50名 51～100名 101～300名 301名以上

問4 貴社・貴団体において、これまでに人間環境大学の卒業生を採用されたことはありますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 採用したことがある 採用したことはない わからない

以下の質問は、「人間環境大学心理学部の概要」をお読みになった上でお答えください。

問5 人間環境大学が設置構想中の「心理学部心理学科」で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 人材ニーズは高い どちらとも言えない 人材ニーズは高くない

次ページにも質問があります。





問6 人間環境大学が設置構想中の「心理学部犯罪心理学科」で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 人材ニーズは高い どちらとも言えない 人材ニーズは高くない

問7 人間環境大学が設置構想中の「心理学部心理学科」の卒業生を採用したいですか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 採用したい 採用しない わからない

問8 【上記問7の「採用したい」の回答者のみ】採用する場合の採用可能人数をご回答ください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 1名 2名 3名 4名
 5名以上 人数は未定だが最低1人

問9 人間環境大学が設置構想中の「心理学部犯罪心理学科」の卒業生を採用したいですか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 採用したい 採用しない わからない

問10 【上記問9の「採用したい」の回答者のみ】採用する場合の採用可能人数をご回答ください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 1名 2名 3名 4名
 5名以上 人数は未定だが最低1人

問11 人間環境大学が設置構想中の「心理学部」に対して期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。



【人間環境大学心理学部の概要】

人間環境大学
心理学部

仮称
2022年4月
設置構想中

アクセス：愛知県岡崎市本宿町上三本松 6-2（名鉄本線 本宿駅[名鉄名古屋から45分]下車徒歩8分）

心理学の学びは、心理専門職やメンタルヘルス部門だけではなく、児童福祉施設、教育施設、司法・矯正施設、さらには一般企業において広く役立てることが可能です。具体的には、マーケティング部門、営業・販売部門、企画・広告部門、人事部門などでの幅広い活躍が期待されます。

心理学科

仮称・
設置構想中

入学定員100人 / 学位：学士（心理学）

養成する人材

現代社会における心の問題や心の健康について学び、その専門的知識や支援に関する実践力をもって、医療・教育・労働など心にかかわる課題解決を必要とされる多くの場において貢献できる人材を育成します。

卒業後の進路

- ①心理専門職：スクールカウンセラー、病院・クリニック心理士研究職
※大学院を修了し臨床心理士や公認心理師の資格取得後の就職を含む
- ②公務員：児童心理司、心理判定員、児童指導員
- ③一般企業：マーケティング、営業・販売、企画・広告、メンタルヘルス関係、企業の人事部門など
- ④大学院進学

取得可能な資格等（予定）

- ①公認心理師（※1）、臨床心理士（※2）
※1 本学で指定科目を履修して卒業し、大学院で指定科目を履修して修了するか、指定された機関において定められた期間の実務を経験することで受験資格を得られます。
※2 本学大学院修了後、受験資格が得られます。
- ②認定心理士
- ③メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種

学科の特色

- ①個人・社会における心の問題に関する幅広い学び
心の問題の理解、一生涯の発達、対人関係など心理学の主要な分野を、基礎から応用まで段階的に学び、現代社会の様々な「こころの問題」に対応できるエキスパートを目指します。
- ②実務経験豊富な教員による教育と「実践・研究スキル科目」の充実
臨床心理の実務経験豊富な教員による授業を通して心理学の知識と実践を結びつけることができます。また、個々の目標とテーマに応じた主体的な学びを支える「実践・研究スキル科目」の充実により、実務に活用できるスキルや分析力を修得します。
- ③心理支援の専門職と組織に貢献できる人材の育成
「臨床・障害」「子ども・発達」「対人・社会」の心理学の主要3領域から主領域と副領域を専攻し、高度な専門性だけでなく汎用性を有する実用可能な知識を修得することで、個人の支援はもちろん連携にも強い心理専門職を目指します。さらに大学院修了等の要件を満たすことで公認心理師（国家資格）や臨床心理士の資格取得を目指せます。
また「産業・組織心理学」「消費者心理学」の知識は、組織における人材育成やキャリア発達支援、メンタルヘルス・マネジメント、消費者のニーズ調査や購買行動への訴求などにおいて活かすことができます。

臨床心理士資格および公認心理師資格に対応した大学院を併設

- ①公認心理師国家試験受験資格取得に対応したカリキュラム
- ②愛知県三河地区における私立大学で唯一の臨床心理士第1種指定大学院を併設
※本学大学院開設後16年間 臨床心理士資格審査 合計合格率94.3%
【令和元年度 全国平均合格率 62.7%】

※上記に記載した内容は全て計画中の予定であり、変更の可能性があります。

犯罪心理学科

仮称・
設置構想中

入学定員50人 / 学位：学士（心理学）

養成する人材

心理学および犯罪心理学に関する専門的知識、多角的な視点に立脚した思考力と実践力を身につけ、多様化した現代社会が抱える諸問題の分析・解決に貢献できる人材を育成します。

卒業後の進路

- ①専門職（公務員）：警察官、家庭裁判所調査官、法務技官（心理）、法務教官、保護観察官
- ②研究職：科学警察研究所職員、科学捜査研究所職員
- ③一般企業：警備会社、セキュリティ関連企業、住宅メーカー、防犯機器メーカーなど
- ④大学院進学

取得可能な資格等（予定）

- ①公認心理師（※1）、臨床心理士（※2）
※1 本学で指定科目を履修して卒業し、大学院で指定科目を履修して修了するか、指定された機関において定められた期間の実務を経験することで受験資格を得られます。
※2 本学大学院修了後、受験資格が得られます。
- ②認定心理士
- ③メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種

学科の特色

- ①犯罪心理学を追究する高度な専門教育
法心理学領域、犯罪科学領域、犯罪臨床領域、捜査・防犯心理学領域の4領域を設置し、犯罪心理学の専門的知識を包括的かつ深く学ぶことができます。また、犯罪心理学領域の専門家が多数在籍し、高度な専門教育を提供します。
- ②少人数教育による実践的学習
1学年50名の徹底した少人数教育により、学びの理解を深め、一人ひとりの個性、進路に応じたきめ細やかな指導を実現するとともに、実験、実習などの体験型の授業を通して、社会に活かせる実践的なスキルを身につけます。
- ③社会問題の分析・解決に貢献できる人材の育成
心理学および犯罪心理学の専門的な知識・スキルだけでなく、多くの企業、そして社会に求められる「問題を分析・解決する力」を身につけます。卒業後は、特に、犯罪心理学の学びと直結する犯罪捜査、裁判、矯正、予防・更生・保護、防犯など、犯罪行為やそれを取りまく周辺事象に対する多様な関連機関、業種・企業において活躍が期待されます。
また、4年間の学びを通して身につけた調査、統計、データ分析などの知識や能力は、さまざまな業種の一般企業においても活かすことができます。

人間環境大学
環境科学部（仮称）
採用意向アンケート調査
報告書

令和3年1月31日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

1. 環境科学部 採用意向アンケート調査 概要 P 3
 2. 環境科学部 採用意向アンケート調査 集計結果 P 4
 3. 環境科学部 採用意向アンケート調査 結果の要点 P 6
- (添付資料) 環境科学部 採用意向アンケート調査用紙

1. 環境科学部 採用意向アンケート調査 概要

調査目的	令和4年(2022年)度に設置予定の「人間環境大学環境科学部(仮称)」における卒業後の採用・就職(人材需要)の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	環境科学部の卒業後に採用が見込まれる以下の事業所 (業種) 鉱業・エネルギー・農林水産業・ソフトウェア・情報通信・製造業・建築業等 (地域) 愛知県を中心とする中部地域 (依頼件数) 合計: 1,600 事業所
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・回答事業所の基本情報(業種・所在地・従業員規模) ・人間環境大学卒業生の採用実績 ・人間環境大学環境科学部(仮称)卒業生の採用意向
調査時期	令和2年10月~12月
調査方法	調査対象事業所の採用担当者に対しアンケートを郵送することにより実施
回収件数	有効回答数 242 件(配布 1,600 件に対し、回収率 15.1%)
調査結果	回答のあった 242 事業所について、 65 事業所(26.9%)から「フィールド生態学科の卒業生を採用したい」との回答があり、採用の場合の採用可能人数は 77 人との結果となった。 75 事業所(31.0%)から「環境データサイエンス学科の卒業生を採用したい」との回答があり、採用の場合の採用可能人数は 87 人との結果となった。

2. 環境科学部 採用意向アンケート調査 集計結果

		依頼件数	1,600件		
		回収件数	242件		
		回収率	15.1%		
番号	設問		選択肢	回答数	割合
問1	貴社・貴団体の業種をお答えください。 (択一回答)	1	土木・建設	25	10.3%
		2	製造	29	12.0%
		3	情報通信・ソフトウェア	65	26.9%
		4	運輸	0	0.0%
		5	卸売・小売	28	11.6%
		6	金融・保険	1	0.4%
		7	不動産・開発	4	1.7%
		8	宿泊・ホテル	0	0.0%
		9	飲食	4	1.7%
		10	サービス	12	5.0%
		11	鉱業	2	0.8%
		12	エネルギー・環境	8	3.3%
		13	農林水産業	59	24.4%
		14	公務	0	0.0%
		15	その他	5	2.1%
			無回答	0	0.0%
			合計	242	100.0%
問2	貴社・貴団体の所在地をお答えください。 (択一回答)	1	愛知県	148	61.2%
		2	岐阜県	11	4.5%
		3	三重県	5	2.1%
		4	静岡県	26	10.7%
		5	東京都	4	1.7%
		6	その他	48	19.8%
					無回答
			合計	242	100.0%
問3	貴社・貴団体の従業員規模をお答えください。 (択一回答)	1	5名以下	30	12.4%
		2	6～50名	110	45.5%
		3	51～100名	25	10.3%
		4	101～300名	45	18.6%
		5	301名以上	32	13.2%
					無回答
			合計	242	100.0%
問4	貴社・貴団体において、これまでに人間環境大学の卒業生を採用されたことはありますか。 (択一回答)	1	採用したことがある	55	22.7%
		2	採用したことはない	175	72.3%
		3	わからない	12	5.0%
					無回答
			合計	242	100.0%
問5	人間環境大学が設置構想中の「環境科学部フィールド生態学科」で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。(択一回答)	1	(フィールド生態学科の卒業生の)人材ニーズは高い	75	31.0%
		2	どちらとも言えない	147	60.7%
		3	人材ニーズは高くない	20	8.3%
					無回答
			合計	242	100.0%

問 6	人間環境大学が設置構 想中の「環境科学部環 境データサイエンス学 科」で養成する人材は、 社会的ニーズが高いと 思われますか。 (択一回答)	1	(環境データサイエンス学科の卒業生の) 人材ニーズは高い	92	38.0%
		2	どちらとも言えない	143	59.1%
		3	人材ニーズは高くない	7	2.9%
			無回答	0	0.0%
			合計	242	100.0%
問 7	人間環境大学が構想中 の「環境科学部フィー ルド生態学科」の卒業 生を採用したいです か。 (択一回答)	1	(フィールド生態学科の卒業生を) 採用したい	65	26.9%
		2	採用しない	41	16.9%
		3	わからない	136	55.0%
			無回答	0	1.2%
			合計	242	100.0%
問 8	【上記問7の「(フ ィールド生態学科の 卒業生を) 採用した い」の回答者のみ】 採用する場合の採用 可能人数をご回答く ださい。 (択一回答)	1	1名	33	50.8%
		2	2名	8	12.3%
		3	3名	2	3.1%
		4	4名	0	0.0%
		5	5名以上	0	0.0%
		6	人数は未定だが最低1人	22	33.8%
			無回答	0	0.0%
	合計 n=65	65	100.0%		
問 9	人間環境大学が設置 構想中の「環境科学 部環境データサイエ ンス学科」の卒業生 を採用したいです か。(択一回答)	1	(環境データサイエンス学科の卒業生を) 採用したい	75	31.0%
		2	採用しない	32	13.2%
		3	わからない	135	54.1%
			無回答	0	1.7%
			合計	242	100.0%
問 10	【上記問9の「(環 境データサイエンス 学科の卒業生を) 採 用したい」の回答者 のみ】採用する場合 の採用可能人数をご 回答ください。 (択一回答)	1	1名	38	50.7%
		2	2名	8	10.7%
		3	3名	2	2.7%
		4	4名	0	0.0%
		5	5名以上	0	0.0%
		6	人数は未定だが最低1人	27	36.0%
			無回答	0	0.0%
	合計 n=75	75	100.0%		

※「構成比」(%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

3. 環境科学部 採用意向アンケート調査 結果の要点

要点1) 人間環境大学環境科学部で養成する人材の社会的ニーズ

回答事業所の31.0%にあたる75事業所から「環境科学部フィールド生態学科で養成する人材のニーズは高い」との回答(問5)、38.0%にあたる92事業所から「環境科学部環境データサイエンス学科で養成する人材のニーズは高い」との回答(問6)を得た。環境科学部の養成人材像が、事業者から一定の評価を得ていることが示されている。

問5 [フィールド生態学科で養成する人材の社会的ニーズ]

人材ニーズは高い	75件	31.0%
人材ニーズは高くない・どちらとも言えない	167件	69.0%
合計	242件	100.0%

問6 [環境データサイエンス学科で養成する人材の社会的ニーズ]

人材ニーズは高い	92件	38.0%
人材ニーズは高くない・どちらとも言えない	150件	62.0%
合計	242件	100.0%

要点2) 人間環境大学環境科学部の卒業生の採用意向

調査を行った事業所の26.9%にあたる65事業所から、人間環境大学環境科学部フィールド生態学科の卒業予定者の採用意向が示された。また、その65事業所における採用可能人数の合計は、フィールド生態学科の予定する入学定員の60人を上回る77人(=1名×33+2名×8+3名×2+1名×22)であった。

調査を行った事業所の31.0%にあたる75事業所から、人間環境大学環境科学部環境データサイエンス学科の卒業予定者の採用意向が示された。また、その75事業所における採用可能人数の合計は、環境データサイエンス学科の予定する入学定員の40人を上回る87人(=1名×38+2名×8+3名×2+1名×27)であった。

以上により環境科学部(フィールド生態学科、環境データサイエンス学科)の学生の卒業後の就職の見込みが示されている。

問7・問8 [人間環境大学環境科学部フィールド生態学科の卒業生の採用意向]

採用したい	65事業所	26.9%
採用しない・わからない	177事業所	73.1%
合計	242事業所	100.0%
採用の場合の採用可能人数の合計	65事業所	77人

問9・問10 [人間環境大学環境科学部環境データサイエンス学科の卒業生の採用意向]

採用したい	75事業所	31.0%
採用しない・わからない	167事業所	69.0%
合計	242事業所	100.0%
採用の場合の採用可能人数の合計	75事業所	87人

以上



人間環境大学

環境科学部（仮称・設置構想中）

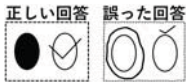
採用意向アンケート調査

調査対象：採用ご担当者様

平素は格別のご高配を賜りますこと心よりお礼申し上げます。

人間環境大学（愛知県岡崎市本宿町上三本松 6-2）は、2022年4月に環境科学部[フィールド生態学科、環境データサイエンス学科]（名称は全て仮称）の開設を構想しています。本学では、このアンケート調査を通して、環境科学部の卒業生が就職を目指す事業所の皆様からさまざまなご意見をお伺いし、学部の設置計画の参考にさせていただきたいと考えています。

なお、本アンケートは匿名回答であり、事業所名等の情報が特定されることはございません。また、集計結果は、本学部の設置構想に係る統計資料及び設置認可申請資料としてのみ活用いたします。つきましては、別紙の人間環境大学環境科学部の概要をご覧いただいた上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



問 1 貴社・貴団体の業種をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- | | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| <input type="radio"/> 土木・建設 | <input type="radio"/> 製造 | <input type="radio"/> 情報通信・ソフトウェア | <input type="radio"/> 運輸 |
| <input type="radio"/> 卸売・小売 | <input type="radio"/> 金融・保険 | <input type="radio"/> 不動産・開発 | <input type="radio"/> 宿泊・ホテル |
| <input type="radio"/> 飲食 | <input type="radio"/> サービス | <input type="radio"/> 鉱業 | <input type="radio"/> エネルギー・環境 |
| <input type="radio"/> 農林水産業 | <input type="radio"/> 公務 | <input type="radio"/> その他 | |

問 2 貴社・貴団体の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 愛知県 岐阜県 三重県 静岡県 東京都 その他

問 3 貴社・貴団体の従業員規模をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 5名以下 6～50名 51～100名 101～300名 301名以上

問 4 貴社・貴団体において、これまでに人間環境大学の卒業生を採用されたことはありますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 採用したことがある 採用したことはない わからない

次ページにも質問があります。





以下の質問は、「人間環境大学環境科学部の概要」をお読みになった上でお答えください。

問5 人間環境大学が設置構想中の「環境科学部フィールド生態学科」で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 人材ニーズは高い どちらとも言えない 人材ニーズは高くない

問6 人間環境大学が設置構想中の「環境科学部環境データサイエンス学科」で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 人材ニーズは高い どちらとも言えない 人材ニーズは高くない

問7 人間環境大学が構想中の「環境科学部フィールド生態学科」の卒業生を採用したいですか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 採用したい 採用しない わからない

問8 【上記問7の「採用したい」の回答者のみ】採用する場合の採用可能人数をご回答ください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 1名 2名 3名 4名
 5名以上 人数は未定だが最低1人

問9 人間環境大学が設置構想中の「環境科学部環境データサイエンス学科」の卒業生を採用したいですか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 採用したい 採用しない わからない

問10 【上記問9の「採用したい」の回答者のみ】採用する場合の採用可能人数をご回答ください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 1名 2名 3名 4名
 5名以上 人数は未定だが最低1人

問11 人間環境大学が設置構想中の「環境科学部」に対して期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。



人間環境大学 環境科学部

仮称
2022年4月
設置構想中

アクセス：愛知県岡崎市本宿町上三本松 6-2（名鉄本線 本宿駅[名鉄名古屋から45分]下車徒歩8分）

フィールド生態学科

仮称・
設置構想中

入学定員60人 / 学位：学士（環境科学）

養成する人材

動物・植物・生態系機能に関する専門知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成します。

CSRやCSVの必要性が叫ばれる現在の企業運営においては、自然環境を深く理解しているからこそ見えてくる実社会と自然環境とのつながりを認識することが重要です。企業活動と自然環境との関連についての洞察をもとに、自然体験教室やピオトープづくりだけでなく、企業活動を通じた自然共生社会やSDGsへの貢献について提案し、実践できる人材を育成します。

卒業後の進路

- ①公務員：環境系・農学系
- ②専門職：環境コンサルタント・生物調査会社・農業法人・森林組合・動物園・水族館
- ③一般企業：建設、土木、造園、緑化関係、環境調査等
- ④大学院進学：国公立大学大学院を中心とする生態学系・農学系・環境化学系

取得可能な資格等（例）

- ・ピオトープ管理士
- ・鳥獣管理士
- ・生物分類技能検定

学科の特色

①キャンパスを囲む豊かな自然の中での実践的な学び

本学科では、豊かな自然環境の中での豊富な実習により、自然の中での経済学とも呼ばれる“生態学”を理解し、動植物の生態調査や化学分析、安全管理に資する技術をもつ人材を養成します。企業においては、環境関連業務の即戦力となることができます。また、自然環境とは直接的には関わらない分野に配属された際にも、ものを語らない自然環境を調査する中で磨かれた諦めずに対象を理解しようとする力や、野外調査における予期せぬトラブルへの対応経験によって身に付けた問題解決能力をもとに、業務を遂行できます。

②生態系を構成する多様な対象群の専門家による専門教育

専門分野が異なる教員を配置し、自然環境中の多様な対象についての知識や、自然環境と人との関係性に関する情報を提供することで、自然環境についてバランスの取れた幅広い知識を備えた人材を養成します。動物や植物など様々な対象について学ぶことで、比較を通じて対象の特徴を理解する能力を身につけます。また、環境の保全や管理に関する社会問題を学ぶ中で、問題構造を階層的に理解する視点や、順応的なマネジメントの概念を身につけます。学生が企業人として社会に出た際には、比較を通じて企業の特徴を見出すとともに、自然・社会環境の中での企業の役割や、企業の中での個人の役割を意識したうえで、業務を確実に遂行し、改善していくことが可能です。

③自然共生社会の構築に向けた、社会問題の解決に貢献できる人材の育成

“自然環境”を、フィールドにて学ぶことを学科の看板としていることから、フィールドの現場におけるスペシャリストとして即戦力となる人材を養成することが本学科の主たる目的です。例えば、絶滅危惧種の保護や野生動物の管理などについて、社会における意義を語れることはもちろん、その保護や管理の現場において、実務者として活躍できる人材を養成します。

環境データサイエンス学科

仮称・
設置構想中

入学定員40人 / 学位：学士（環境科学）

養成する人材

環境全般に関する基礎知識と、社会学・データサイエンスに関する専門知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と鋭い洞察力、柔軟な思考力によって、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成します。CSR活動を含めた様々な企業活動においては、前例主義やルーチンワーク、非IT化により、高コストかつ非効率な取り組みが数多く存在しています。これらの課題に対し本学科では、“データから新しい価値を見出す”ことに着目し、企業活動を含めた実社会に散在する、様々な“データ”を、統計解析をベースとしたデータサイエンスによって分析し、“データ”に基づく根拠を踏まえた改善策や意思決定の提案を行うことができる人材を養成します。

卒業後の進路

- ①公的機関：環境系・情報系行政職、独立行政法人、NPO法人
- ②専門職：企業の環境・IT部門、環境コンサルタント、シンクタンク、農業法人
- ③一般企業：環境調査、建設、マスメディア関連
- ④大学院進学：国公立大学大学院を中心とする環境系・情報系・農学系・社会科学系

取得可能な資格等（例）

- ・ITパスポート
- ・社会調査士
- ・甲種危険物取扱者
- ・MOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）

学科の特色

①データから課題を読み解き、新しい価値を創造する人材の育成

企業や社会活動の中で、課題や問題点に気づき、データを分析し考究することにより、課題解決や新しい価値を発見するデータサイエンティストは、昨今の世の中で広く求められております。本学科では、我々の生活や企業が直面する様々な課題や環境問題に対し、関連するデータの収集・蓄積・分析・考察・意思決定のサイクルで解決に取り組む“データ循環”の学びを通して、自ら課題を解決する人材を養成します。教育課程では、自然・環境・人間社会（社会環境）に関連したデータを対象とし、複雑で繋がりのある課題解決プロセスの中で、着目すべき重要な要素を見極め、必要とされるデータを想定した上で抽出し、課題に応じたデータ分析を行い、他者への理解を目的とした見える化するまでの、一連の過程における基礎的知識と技術を養います。

②実践的な調査実習や演習を軸とした少人数教育

本学科では、1学年の入学定員を40名とし、全ての学科教員が全ての学生に目が届く教育体制を確立します。このことで、必要に応じて適宜課外補講や演習や勉強会を実施するなどによって、確実な学びの定着を図り、「誰一人取り残さない教育」と「出過ぎた杭を伸ばす教育」を実施します。教育課程では、地域を対象とした社会調査やデータ解析のためのプログラミングなどの実習授業を随所に配置し、自ら手を動かして知識と技術を活用する場を設けるPBLなど、実践的なカリキュラム体系を提供します。

③環境・農業・情報関連企業、公的機関、大学院など幅広い進路

データサイエンスはあらゆる産業の基盤を支えます。企業内の環境や情報解析部門に加え、環境コンサルタント、シンクタンク、情報システム企業、地方公務員、公的機関など、多様な業種企業での活躍が可能です。データの抽出・取得・解析・活用は、どのような業種においても必須のスキルであることから、進路は分野を選びません。

※上記に記載した内容は全て計画中の予定であり、変更の可能性があります。

人間環境大学
総合心理学部（仮称）
採用意向アンケート調査
報告書

令和3年1月31日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

1. 総合心理学部 採用意向アンケート調査 概要 P 3
 2. 総合心理学部 採用意向アンケート調査 集計結果 P 4
 3. 総合心理学部 採用意向アンケート調査 結果の要点 P 6
- (添付資料) 総合心理学部 採用意向アンケート調査用紙

1. 総合心理学部 採用意向アンケート調査 概要

調査目的	令和4年(2022年)度に設置予定の「人間環境大学総合心理学部(仮称)」における卒業後の採用・就職(人材需要)の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	総合心理学部の卒業後に採用が見込まれる以下の事業所 (業種) 河原学園卒業生の就職先企業・司法・矯正・警察・サービス・飲食・宿泊・運輸・教育・小売卸売・情報・人材・社会福祉法人等 (地域) 愛媛県を中心とする四国地区、首都圏等 (依頼件数) 合計: 1,600 事業所
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・回答事業所の基本情報(業種・所在地) ・総合心理学部(仮称)卒業生の人材ニーズ ・総合心理学部(仮称)卒業生の採用意向
調査時期	令和2年10月~12月
調査方法	調査対象事業所の採用担当者に対しアンケートを郵送することにより実施
回収件数	有効回答数 227 件(配布 1,600 件に対し、回収率 14.2%)
調査結果	回答のあった 227 事業所のうち 88 事業所(38.8%)から「総合心理学部の卒業生を採用したい」との回答があり、採用の場合の採用可能人数は 115 人との結果となった。

2. 総合心理学部 採用意向アンケート調査 集計結果

			依頼件数	1,600件	
			回収件数	227件	
			回収率	14.2%	
番号	設問		選択肢	回答数	割合
問1	貴社・貴団体の業種をお答えください。 (択一回答)	1	建設	4	1.8%
		2	製造	13	5.7%
		3	情報通信・ソフトウェア	28	12.3%
		4	運輸	20	8.8%
		5	卸売・小売	66	29.1%
		6	金融・保険	4	1.8%
		7	宿泊・ホテル	4	1.8%
		8	飲食	9	4.0%
		9	サービス	21	9.3%
		10	人材・人事	8	3.5%
		11	広告・販促	5	2.2%
		12	医療・病院	3	1.3%
		13	公務	2	0.9%
		14	社会福祉法人	25	11.0%
		15	司法・矯正・警察・児童相談所等	5	2.2%
		16	その他	10	4.4%
			無回答	0	0.0%
	合計		227	100.0%	
問2	貴社・貴団体の所在地をお答えください。 (択一回答)	1	愛媛県	217	95.6%
		2	香川県	4	1.8%
		3	徳島県	2	0.9%
		4	高知県	1	0.4%
		5	東京都	1	0.4%
		6	その他	2	0.9%
			無回答	0	0.0%
	合計		227	100.0%	
問3	貴社・貴団体の従業員規模をお答えください。 (択一回答)	1	5名以下	16	7.0%
		2	6～50名	116	51.1%
		3	51～100名	30	13.2%
		4	101～300名	38	16.7%
		5	301名以上	27	11.9%
			無回答	0	0.0%
	合計		227	100.0%	
問4	貴社・貴団体において、これまでに学校法人河原学園(専門学校)の卒業生を採用されたことはありますか。 (択一回答)	1	採用したことがある	84	37.0%
		2	採用したことはない	120	52.9%
		3	わからない	23	10.1%
			無回答	0	0.0%
	合計		227	100.0%	

問5	学校法人河原学園 人間環境大学が松山道後キャンパスにおいて設置構想中の「総合心理学部総合心理学科」で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。 (択一回答)	1	人材ニーズは高い	91	40.1%
		2	どちらとも言えない	121	53.3%
		3	人材ニーズは高くない	15	6.6%
			無回答	0	0.0%
			合計	227	100.0%
問6	学校法人河原学園 人間環境大学が設置構想中の「総合心理学部総合心理学科」の卒業生を採用したいですか。 (択一回答)	1	採用したい	88	38.8%
		2	採用しない	22	9.7%
		3	わからない	117	51.5%
			無回答	0	0.0%
			合計	227	100.0%
問7	【上記問6の「採用したい」の回答者のみ】 採用する場合の採用可能人数をご回答ください。 (択一回答)	1	1名	37	42.0%
		2	2名	7	8.0%
		3	3名	4	4.5%
		4	4名	0	0.0%
		5	5名以上	3	3.4%
		6	人数は未定だが最低1人	37	42.0%
			無回答	0	0.0%
			合計 n=88	88	100.0%

※「構成比」(%)はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

3. 総合心理学部 採用意向アンケート調査 結果の要点

要点1) 人間環境大学総合心理学部で養成する人材の社会的ニーズ

回答事業所の40.1%にあたる91事業所から「総合心理学部で養成する人材のニーズは高い」との回答を得た(問5)。総合心理学部の養成人材像が、事業者から一定の評価を得ていることが示された。

問5 [総合心理学部で養成する人材の社会的ニーズ]

人材ニーズは高い	91件	40.1%
人材ニーズは高くない・どちらとも言えない	136件	59.9%
合計	227件	100.0%

要点2) 人間環境大学総合心理学部の卒業生の採用意向

調査を行った事業所の38.8%にあたる88事業所から、人間環境大学総合心理学部の卒業予定者の採用意向が示された。また、その88事業所における採用可能人数の合計は、総合心理学部の予定する入学定員の80人を上回る115人(=1名×37+2名×7+3名×4+5名×3+1名×37)であった。

問6・問7 [人間環境大学総合心理学部卒業生の採用意向]

採用したい	88事業所	38.8%
採用しない・わからない	139事業所	61.2%
合計	227事業所	100.0%
採用の場合の採用可能人数の合計	88事業所	115人

以上



学校法人河原学園 人間環境大学

総合心理学部（仮称・設置構想中）



採用意向アンケート調査

調査対象：採用ご担当者様

平素は格別のご高配を賜りますこと心よりお礼申し上げます。

学校法人河原学園 人間環境大学は、2022年4月に新たに開設する松山道後キャンパスに、総合心理学部[総合心理学科]（仮称）の開設を構想しています。本学では、このアンケート調査を通して、総合心理学部の卒業生が就職を目指す事業所の皆様からさまざまなご意見をお伺いし、学部の設置計画の参考にさせていただきたいと考えています。

なお、本アンケートは匿名回答であり、事業所名等の情報が特定されることはございません。また、集計結果は、本学部の設置構想に係る統計資料及び設置認可申請資料としてのみ活用いたします。つきましては、別紙の「人間環境大学総合心理学部の概要」をご覧くださいの上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



問1 貴社・貴団体の業種をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- | | | |
|------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="radio"/> 建設 | <input type="radio"/> 製造 | <input type="radio"/> 情報通信・ソフトウェア |
| <input type="radio"/> 運輸 | <input type="radio"/> 卸売・小売 | <input type="radio"/> 金融・保険 |
| <input type="radio"/> 宿泊・ホテル | <input type="radio"/> 飲食 | <input type="radio"/> サービス |
| <input type="radio"/> 人材・人事 | <input type="radio"/> 広告・販促 | <input type="radio"/> 医療・病院 |
| <input type="radio"/> 公務 | <input type="radio"/> 社会福祉法人 | <input type="radio"/> 司法・矯正・警察・児童相談所等 |
| <input type="radio"/> その他 | | |

問2 貴社・貴団体の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 愛媛県 香川県 徳島県 高知県 東京都 その他

問3 貴社・貴団体の従業員規模をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 5名以下 6～50名 51～100名 101～300名 301名以上

問4 貴社・貴団体において、これまでに学校法人河原学園（専門学校）の卒業生を採用されたことはありますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 採用したことがある 採用したことはない わからない

次ページにも質問があります。





以下の質問は、「人間環境大学総合心理学部の概要」をお読みになった上でお答えください。

問5 学校法人河原学園 人間環境大学が松山道後キャンパスにおいて設置構想中の「総合心理学部総合心理学科」で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 人材ニーズは高い どちらとも言えない 人材ニーズは高くない

問6 学校法人河原学園 人間環境大学が設置構想中の「総合心理学部総合心理学科」の卒業生を採用したいですか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 採用したい 採用しない わからない

問7 【上記問6の「採用したい」の回答者のみ】採用する場合の採用可能人数をご回答ください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 1名 2名 3名 4名
 5名以上 人数は未定だが最低1人

問8 学校法人河原学園 人間環境大学が設置構想中の「総合心理学部」に対して期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。



人間環境大学 総合心理学部

(松 山 道 後 キ ャ ン パ ス)

仮称
2022年4月
設置構想中

総合心理学部 総合心理学科 (仮称)

入学定員：80人 / 学位：学士 (心理学)

キャンパス：人間環境大学松山道後キャンパス 愛媛県松山市道後樋又1192-3 (予定)

心理学の学びは、心理専門職やメンタルヘルス部門だけではなく、児童福祉・教育施設、さらには一般企業において広く役立てることが可能です。具体的には、人のニーズを分析するマーケティング部門、対人場面でのコミュニケーション力が求められる営業・販売部門、人の心に訴え魅力的かつ計画性が必要な企画・広告部門、各業界の人事部門などでの幅広い活躍が期待されます。

総合心理学部では、以下の人材を育成します。

見えない心を可視化するスキルを身につけ、公認心理師を含めた幅広い領域で活躍できる心理支援のプロを育成するだけでなく、対人スキル (コミュニケーション能力) を活かしたサービス職、産業カウンセラー・心理アドバイザー、ビッグデータからアンケート処理まで広くデータ処理ができる人材を育成し、オフィスワークの内外で活躍できる人材を育成します。

総合心理学部の卒業後の想定進路

総合心理学部の卒業生の就職先として、今のような職種を想定しています。

- ①【心理スペシャリスト領域】 家庭裁判所調査官、児童福祉司、児童指導員、法務教官、矯正心理専門職 (法務技官)、防衛省職員 (臨床心理士)、児童相談所職員、産業カウンセラー、心理アドバイザー、企業内カウンセラー
- ②【心理インベスティゲーター領域】 マーケティングデータ分析職、WEB広告分析職、データサイエンティスト、システムエンジニア
- ③【心理デザイン領域】 広報、広告企画職、宣伝、宣伝企画職、イベントスタッフなど
- ④【心理ネゴシエーター領域】 営業職、接客 (ホテルフロントクラーク、キャビンアテンダント、アパレル業界など)
- ⑤【心理公務員領域】 国家公務員 (Ⅱ種・行政職)、地方公務員 (行政職)、公共統計情報管理職、科学捜査研究所職員 (心理) 家庭裁判所調査官、児童福祉司、児童指導員、法務教官、矯正心理専門職 (法務技官)、防衛省職員 (臨床心理士)

※上記は全て大学院卒が多い職種も含まれます。

総合心理学部総合心理学科の特色

①卒業後のニーズに合わせた五つの実務領域の就職に強いカリキュラム

➢卒業後のニーズに合わせ、履修モデルを

- ①ビジネス (商品企画、消費者動向調査、データ処理等)
 - ②コミュニケーション (広告企画・広告デザイン、カラーコーディネーター、イベンター、サービス職等)
 - ③心理支援 (産業カウンセラー、心理アドバイザーなど心の支援を必要とする人々をサポートする仕事など)
 - ④公認心理師・臨床心理士 (大学院進学後の資格取得を目指す)
 - ⑤公務員 (心理専門職)
- の5領域から構成しました。

②脳科学から人文学・社会学・経営-経済学までを統合する総合的な学問である心理学を、深く実践的に学びます。

➢家庭、教育現場、医療現場、司法・犯罪領域、対人関係、依存症、ストレスなど、現代社会における「こころの問題」を理解し、解決するための実験・調査などの技術を駆使するため、〈知る〉→〈測る〉→〈伝える〉の「使える」心理学を柱にカリキュラムを構築しました。さらに、科学テクノロジーと人間の心/意識との接点に存在する最先端の心理学を広く、深く学びます。公認心理師はもちろんのこと、人のこころに関連する多様な資格にも対応する「学究&実用二刀流」の心理学部です。

③現代心理学の第一線で活躍する教授陣による実践的なカリキュラム

➢脳科学、知覚・認知心理学 (実験心理学)、社会心理学、産業心理学、臨床心理学 (公認心理師・臨床心理士対応) などの各分野で国際的にも活躍する第一線の心理学研究者を教授陣に揃えました。学生22人に1人の専門常勤教員が付いて、国立大学にも劣らない親身な指導に当たり、実社会で通用する能力を修得させます。

取得可能な資格等 (将来目指せる資格を含む)

- ①【国家資格、専門資格等】 公認心理師 (※1)、臨床心理士 (※2)、准学校心理士、認定心理士

※1 本学部で指定科目を履修して卒業し、本学を含めた大学院で指定科目を履修して修了するか、指定された機関において定められた期間の実務を経験することで受験資格を得られます。

※2 本学大学院を含めた大学院を修了後、受験資格が得られます。

- ②【ビジネス (企画・広告・調査) 系】 認定心理士 (心理調査)、統計検定 (2級)、Web解析士、ビジネス実務マナー検定、ビジネス能力検定、色彩検定、カラーデザイン検定、カラー・コーディネーター検定、MOS (Microsoft Office Specialist)

- ③【コミュニケーション (サービス・心理カウンセラー/アドバイザー) 系】 サービス接客検定 (準1級、2級)、メンタルヘルス・マネジメント検定 (2級)、ホテルビジネス実務検定 (2級)、サービス介助士、ファッション色彩能力検定

セールスポイント

- ①「公認心理師」国家試験受験資格取得に対応したカリキュラムを用意し、臨床心理士一種指定大学院への進学指導を支援します。

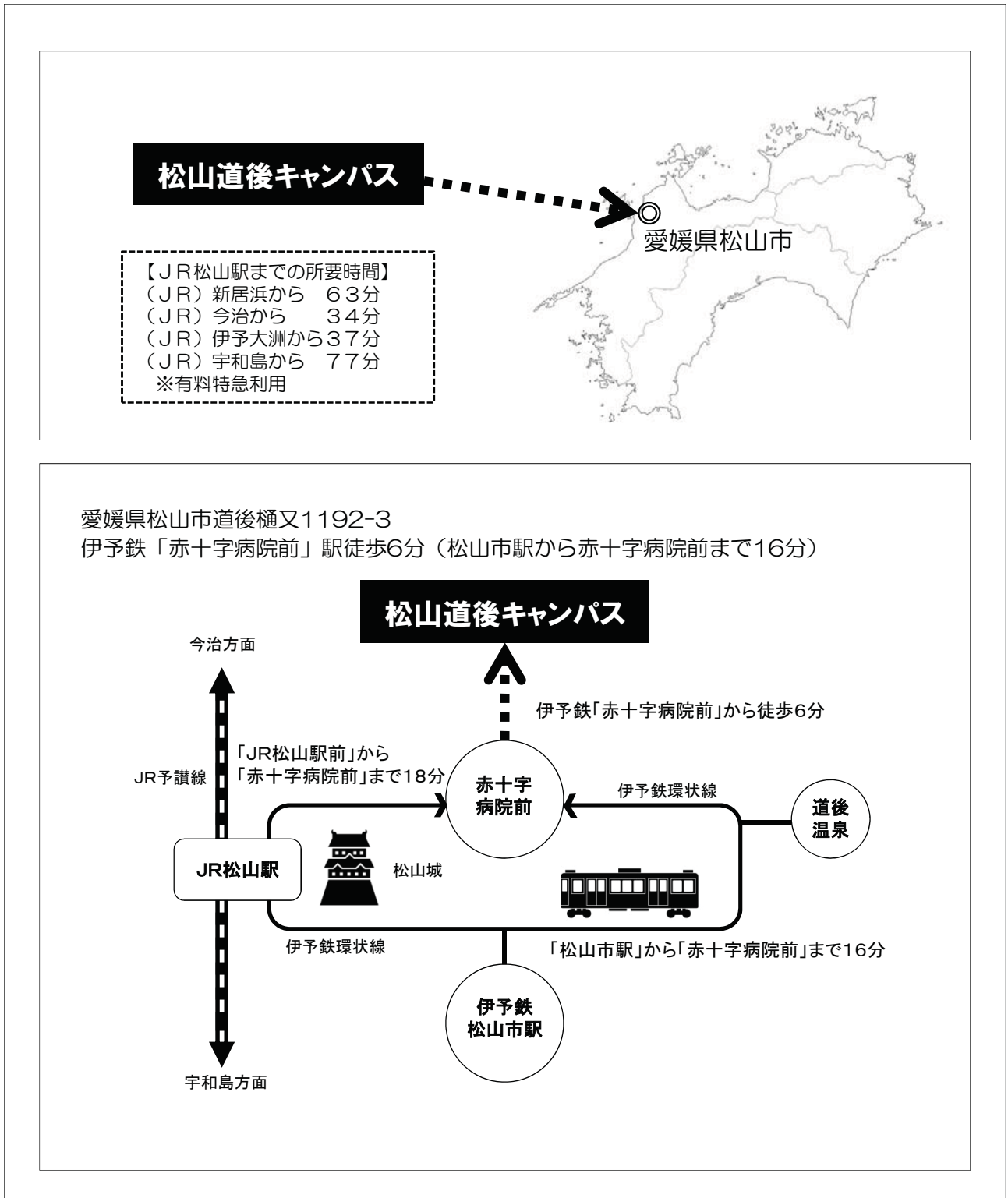
※人間環境大学は、大学院 (愛知県岡崎市) に臨床心理士第1種指定大学院を併設しています。大学院開設後16年間臨床心理士資格審査 総合点数で累積合格率94.3% (令和元年度全国平均62.7%)、全国トップレベルの合格率を誇ります。

※松山道後キャンパスでも総合心理学部総合心理学科に接続する公認心理師カリキュラム対応、臨床心理士指定大学院を第一期生の卒業までには設置予定です。

②卒業後の実務に向けた選択科目を30科目以上用意し、「モチベーションの心理学」「消費者の心理学」「ギャンブルの心理学」「ストレスの心理学」「色彩の心理学」「バーチャルリアリティの心理学」「赤ちゃんの心理学」「高齢者の心理学」「顔認知とコミュニケーション」「恋愛の心理学」、また心理療法科目では「認知行動療法」「遊戯・芸術療法」「精神分析療法」「人間性心理学」など、多彩な選択科目を、それぞれの分野で第一人者の教授陣と共に配置し、心理学の多方面での実践性を学べるカリキュラムになっています。

※上記に記載した内容は全て計画中の予定であり、変更の可能性があります。

【人間環境大学 松山道後キャンパスのアクセス】



※上記に記載した内容は全て計画中の予定であり、変更の可能性があります。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	マキヤマ スケトモ 牧山 助友 <平成28年4月>		法学士		人間環境大学 学長 (平28.4)